

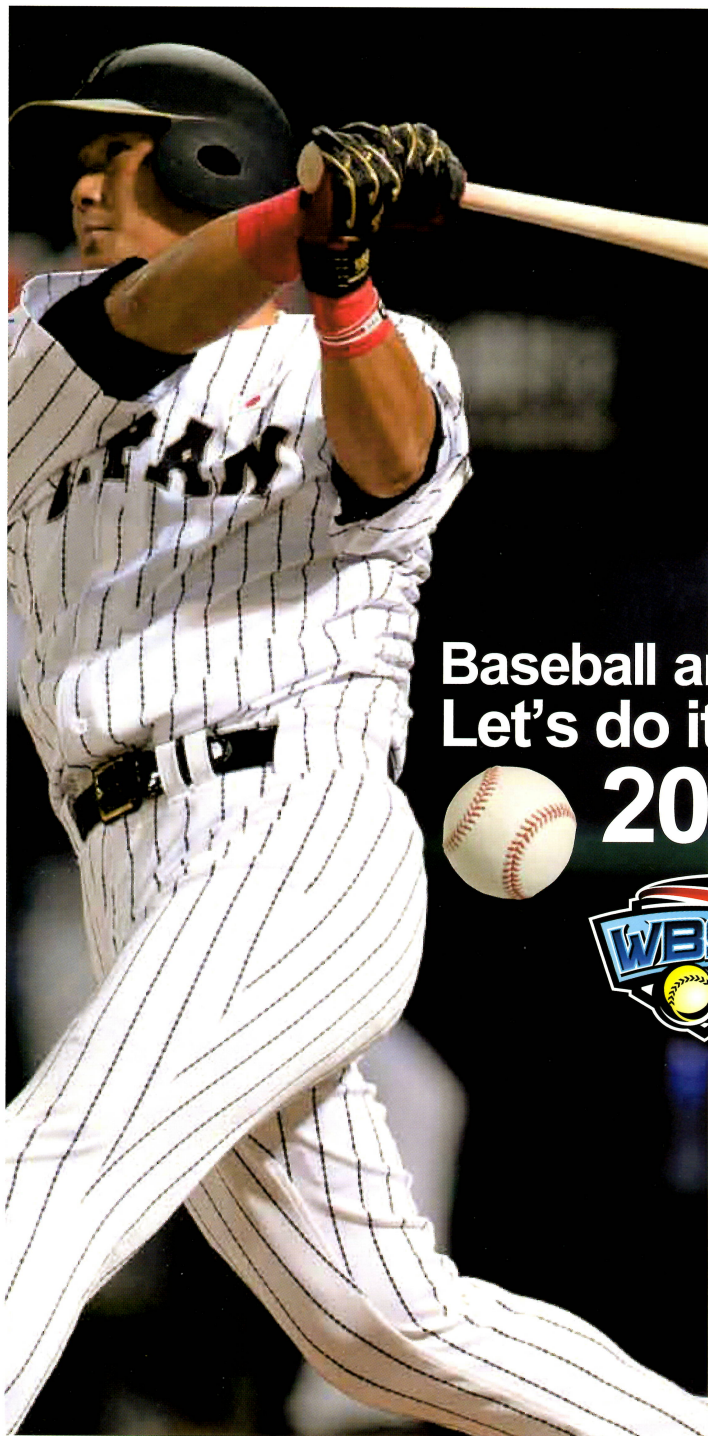
全日本大学ソフトボール連盟機関誌

ISSN 1343 439X

ウインドミル



全日本大学ソフトボール連盟



Baseball and Softball
Let's do it together



2020



野球・ソフトボール 2020年復帰を！



WBSC加盟国

世界野球ソフトボール連盟
WORLD BASEBALL SOFTBALL CONFEDERATION



全日本大学ソフトボール連盟

ごあいさつ



全日本大学ソフトボール連盟会長

一 谷 宣 宏

全日本大学ソフトボール連盟が、創立50周年を迎えました。そのような中であって、ここに、学連機関誌 **ウインドミル** の第19号をお届け出来るのはこの上もない喜びであります。

平成27年度の諸行事のうち、文部科学大臣杯第50回全日本大学選手権大会は天候に恵まれずに準決勝戦と決勝戦が実施できないという50年にして初めての不運に遭いましたが、この1年間の成果をここに機関誌としてまとめ上げ、皆様にお届け致します。

今年度も大学選手権大会を核にし、各ブロックの活性化、ソフトボール競技の充実を目指す研究等多くの有意義な活動が展開されました。各地区のソフトボールにかける情熱がひしひしと感じられる思いで一杯です。本機関誌は、ただ単にゲームの記録を残すのみでなく、ソフトボールに関する貴重な論文・技術論を掲載し、今後のソフトボール活動にお役に立てばとの願いから創刊されたものであります。学生ソフトボールの在り方、将来性を確認していただければ幸いです。どうか、機関誌 **ウインドミル** から得る情報・研究成果等を大切にしてくださいと存じます。

最後になりましたが、学連機関誌 **ウインドミル** 第19号の発刊にあたりご尽力頂きました広報記録部会をはじめとする、関係各位の皆様に敬意を表しご挨拶といたします。

ウインドミル

第19号

目 次

ごあいさつ ●会長 一谷 宣宏	1
〔巻 頭 言〕 ●大学における主体的な学び 副会長 小嶋 高良	4
〔事業報告〕 ●平成27年度の事業報告と今後の活動方針 理事長 高橋 伸次	5
〔総 説〕 ●アイシングの理論 (公財)日本ソフトボール協会医事委員長 山下 義則	7
〔特 集〕 ●ひとりから・地区から 草の根の国際交流 青年海外協力隊の2年間 ～ソフトボールの普及活動～	11
平成25年度1次隊モルディブ派遣隊員 藤田満理奈 男子東海選抜 2nd Merlion Cup 優勝 監督 石井 賀一郎	13
マーライオンカップ大会に参加して インドネシア男子ナショナルチーム来校 および千葉オープンチャレンジカップ参戦記	14
東京理科大学 柳田 信也 香港男子代表チームの来日と その交流国際親善大会への参加 高知工科大学 伊勢 幸広	19
〔研究論文〕 ●我が国におけるソフトボールの文化的特性に関する一考察 ー スローピッチとファーストピッチの比較からー 東北福祉大学 舟山 健一	21
〔実践報告〕 ●アクティブ・ラーニングにおける「投げる動作の 習得」について ー 反転授業の実践より ー 神戸親和女子大学 但尾 哲哉	26
〔調査報告〕 ●頭部へのボール接触事故に関するアンケート調査報告 ～フェイスガードつきヘルメットの許可とその他安全に 対する対応策の提言～ 学連強化部 二瓶 雄樹 (中京大学)	31
主催大会の記録 ●文部大臣杯第50回全日本大学男子選手権大会 ●文部大臣杯第50回全日本大学女子選手権大会	34 44
共催大会の結果 ●第30回東日本大学選手権大会 ●第47回西日本大学選手権大会	53 57

後援大会の結果●第14回大学ソフトボール東海オープン	59
●第16回千葉オープンチャレンジカップ	61
●第16回「峠のまち」Matsuida Cup	62
●第12回北信越大学オープンソフトボール大会	63
●2015 HAKUBA CUP 大学女子ソフトボール大会	64
●第14回大学女子学生ソフトボール大会in八幡浜	65
●第45回関東大学男女ソフトボール選手権大会	66
●藤原初男杯第6回	
全国大学・実業団対抗ソフトボール選抜大会	68
全国大会の結果●第61回全日本総合男子選手権大会	69
●第67回全日本総合女子選手権大会	70
各地区の大会結果●北海道・東北地区	71
春季大会	
選手権大会	72
秋季大会	73
●関東地区	74
春季リーグ戦	
選手権大会	76
秋季リーグ戦	77
●北信越地区	79
選手権大会	
新人選手権大会	80
●東京地区	80
春季リーグ戦	
インカレ2次予選	83
秋季リーグ戦	83
●東海地区	86
春季リーグ戦	
選手権大会	90
秋季リーグ戦	91
●近畿地区	95
春季リーグ戦	
秋季リーグ戦	100
●中国地区	106
インカレ予選会	
選手権大会	107
●四国地区	107
春季大会	
インカレ予選会	108
秋季大会	108
●九州地区	110
春季大会	
秋季大会	111
調査研究部会●投稿規定・執筆要項	112
広報記録部会●訃報	112
連盟表彰	112
第15回東海オープン出場チーム募集	113
第13回全国国公立大学大会出場チーム募集	113
ネットとSNS活用をお願い	113
資料●全日本大学ソフトボール連盟役員名簿	114
平成27年度加盟大学一覧	116
編集後記	118

【巻頭言】

大学における主体的な学び

副会長 小 嶋 高 良（八戸工業大学）

今、大学における学生に対して主体的な学びが求められている。何故であろうか。

日本は9年間の義務教育後、殆どの生徒が3年間の高等学校に進む。また義務教育の前にも2～3年の幼稚園等の初等教育を殆どの幼児が受けてきている。高等学校卒業後、さらに学問を学びたい生徒は4年間の高等教育機関である大学へと進むのである。実に日本の大学進学率は51.5%（2015年度）であり、2人に1人以上が大学に進学しているのである。しかし、進学本来の目的をもって果たして進んでいるのだろうか。

2012年中央教育審議会の報告によると、「生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材は、学生から見て受動的な教育の場では育成することはできない。従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見出していく能動的学修への転換が必要である。すなわち個々の学生の認知的、倫理的、社会的能力を引き出し、それを鍛えるディスカッションやディベートといった双方向の講義、演習、実験、実習や実技等を中心とした授業への転換によって、学生の主体的な学修を促す質の高い学士課程教育を進めることが求められる。学生は主体的な学修の体験を重ねてこそ、生涯学び続ける力を修得できるのである。」とある。日本の大学教育モデルは、戦前、自主的学びを

促す「探究姿勢型」を重視してきたが、戦後、学習の課程を統制し、学生をコントロールする「学習統制型」に変化してきたといわれる。このことが、今日の大学の主体的な学びの課題の根源であると金子氏は言っている。授業が自律的・主体的学習を促すように作用していないことが日本の大学の学習成果を考えるうえでの課題であるというのである。

私は大学時代の恩師から、「高等学校までの教育は、1から10まで受動的に教えられてきたが、大学の教育は、1しか教えない。2～10は私と共に、また学生自身が能動的に学んでいかなければならない」とよく言われたものである。その中で、よく自分で調べ、計画し、実施し、考察・検討したものである。いわゆる、PDCAを繰り返し、能動的な姿勢が習慣付けられたのである。

しかし、今の学生はいかがであろうか。我々はどのように教育しているのだろうか。

中国の思想家・老子は、「聞いたことは忘れる。見たことは覚える。やったことは分かる。」と説いたといわれる。

子供のころ私は、分からないことがあると直ぐ母に、「これ何？これなんて読むの？これ・・・？」と聞いたものである。すると母から常に「聞いたものはすぐ忘れるから、自分で調べなさい。自分で調べたことは忘れないよ。」とよく言われたものである。

これは、学習面に限ったことではないだろう。文化面でも、芸術面でも、スポーツ面でも言え

ることであろう。

私も小・中・高とさまざまな部活動を経験してきた。その中で、指導力のある教師、コーチ・監督に恵まれた時もあったが、残念ながら適当な指導者に恵まれない時もあった。

概して、指導者に恵まれない時は、結果も伴わないことが多いといわれる。優秀な結果を残した児童・生徒たちが居るのにもかかわらず伴わなくなってしまうのである。指導力の差によって、児童・生徒の能力を引き出せないのである。

その時には、自分たちで全てを計画し実行しなければならないのだが、それができる訓練を

それ以前に受けていないとお手上げなのである。

我がチームも経験者の指導者がおらず、学生たちの自主的な活動に依存しているところが大きく、近年、部員減少に拍車をかけてきている。何とかならないかと頭を抱えているところである。

それができるようになると思われるのが、大学教育におけるさまざまな主体的な学びによって得られるさまざまな事柄に対処できる能力であり、私個人的に期待するところである。

全日本大学ソフトボール連盟創立50周年を迎える年にあたり、ソフトボールに関わる一人として、大学連盟の益々の発展を祈念して記する。

【事業報告】 平成27年度の事業報告と今後の活動方針

理事長 高 橋 伸 次（高崎経済大学）

本連盟の主催事業である「文部科学大臣杯第50回全日本大学ソフトボール選手権大会」は、三重県協会のご協力のもと男子は志摩市、女子は伊勢市で開催されました。1966年11月に東京駒沢公園で男子10チーム・女子5チームから始まった本大会も、今や男女各32チームが出場する大きな大会へと成長し、本年度めでたく50回という大きな節目を迎えることができました。これもひとえに、歴代の連盟役員や学生の努力と情熱、また（公財）日本協会をはじめ各都道府県協会のご支援のおかげと改めて感謝申し上げます。次第です。

開会式では、50回連続出場のチーム（男子：

日本体育大学・国士舘大学・早稲田大学、女子：日本体育大学・東京女子体育大学）が表彰されました。草創期から今日に至るまで、大学ソフトボール界を常にリードし、輝かしい功績を残してきたことを讃えるものであります。

記念すべき大会ではありましたが、残念ながら悪天候に見舞われ男女ともに準決勝戦と決勝戦を実施することができず、インカレ史上初の4校入賞という結果に終わりました。

入賞したのは、男子では日本体育大学、立命館大学、中京大学、福岡大学、女子では日本体育大学、東京富士大学、中京大学、東海学園大学でありました。8校の無念の大きさは、後日、

試合の続行を望む嘆願書というかたちで提出されることになりましたが、規定に則って一旦終了した大会の再開は認められませんでした。各方面に多大なご迷惑をお掛けしたことを心よりお詫び申し上げます。いずれにせよ、今大会のこうした稀有な事態に対する対処について、本連盟にはさまざまな点でその備えがありませんでした。今大会の顛末を、貴重な反省材料として今後の運営に活かさなければならないと考えているところです。

またインカレについては、今後のあり方について、今年度より強化部内に小委員会を立ち上げて検討を進めています。その内容は、トップレベルの大会にふさわしい環境を確保するための拠点化や魅力ある対戦方法、また選手がパフォーマンスを最大限に発揮できる開催時期など多方面にわたっています。多くの方々の知恵を結集して、これからの50年を見据えた新しいインカレの姿をいずれ提案したいと考えています。

来年は鹿児島県南九州市での開催が予定されています。本連盟では、この51回大会を未来に向かつての第一歩「大学連盟創立50周年記念大会」と位置づけ、男女各40チームの参加、優勝旗や優勝杯・準優勝杯のリニューアル、ビクトリーエンブレム等の構想のもと盛大に行いたいと考えています。

なお、この記念大会に先駆けて、平成28年2月13日に「大学連盟創立50周年記念祝賀会」を東京で催します。それに併せて「50周年記念誌」の発行も準備が進んでいます。多くの関係者にご出席いただき「大学ソフトボールの『これまで』と『これから』」について、大いに語ってみたいと思います。

共催の東日本・西日本大学選手権大会は、前者が長野県伊那市、後者が京都府京都市で開催

されました。東日本では日本体育大学（男子）と東京富士大学（女子）が、西日本では関西大学（男子）と東海学園大学（女子）が頂点に立ちました。

また、後援大会については、大学ソフトボール界全体の底辺の拡大およびレベルアップの意図のもとに、関東・北信越・東海・近畿・四国・九州の6地区で12大会が開催されました。平成22・23年度頃より登録チーム数および選手数が減少しています。本年度の選手数は僅かに増えましたが、チーム数には下げ止まりが見えてきません。この後援大会がより多くの仲間を増やす仕掛けとしてさらに発展するよう各地区でいっそうの工夫を加えていただきたいと思います。

国際関係では、50周年記念事業として、2016年3月にニュージーランド男子U23チームの招聘を予定していましたが、ニュージーランド側の事情により2017年に延期となりました。そこで来年度の事業は、このニュージーランドチームの受け入れ、また日本協会の強化事業としても位置づけられている女子チームの東アジアカップ（韓国）およびアジア大学選手権大会（台湾）への派遣が予定されています。例年以上に活発な国際交流による効果が期待されます。

最後になりましたが、本連盟の主催・共催・後援大会の開催にあたり、多大なご尽力賜りました(公財)日本ソフトボール協会、また各地の都道府県協会をはじめ多くの関係者に厚くお礼申し上げます。来る平成28年度の事業においても、今年度の反省を踏まえて、大学連盟はもとより(公財)日本ソフトボール界全体の発展のために全力で取り組む所存であります。今後とも、関係者の皆さまの絶大なるご支援・ご協力を衷心よりお願い申し上げます。

【総説】

アイシングの理論

(公財) 日本ソフトボール協会医事委員長 山下 義 則

ケガなどの急性損傷を受けた場合、アイシングが最も良い治療方法ですが、どうしてアイシングをしなければならないのかを十分に知っている人は比較的少ないのが実情です。今回、外傷を受けた組織がどのような変化を起こっているかを理解して、なぜアイシングしなければならないかを話します。

(1) 損傷部での変化 (図1)

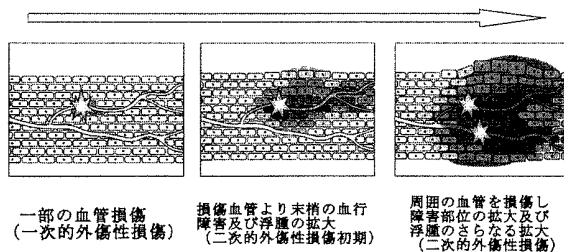
まず足首をねじり捻挫した時や大腿部の肉離れを起こした場合、その部位はどのような変化をきたしているのかを説明します。

ケガが起きた場合、この損傷を「一次的外傷性損傷」と呼びます。この場合、組織細胞、血管および神経にも損傷が起こり、痛みを感じます。そして、破れた血管から出血を起こし、蛋白質や細胞片と合わさり、血腫ができます。

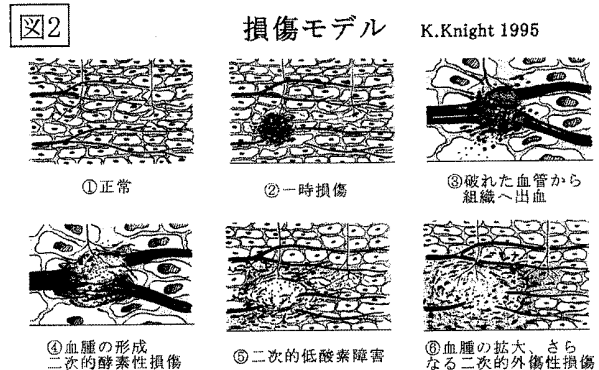
血腫ができると、その部の浮腫が著明となり周辺の血管を圧迫し始めます。その結果その血管より末梢の血行が阻害されます。

末梢の血行が阻害されると、損傷部を含めて、ますます浮腫がひどくなり、さらに血行が阻害されます。この悪循環が損傷組織をさらに増大させます。この状態を「二次的外傷性損傷」と呼びます。図1 はこれらの変化を模式的に示しています。

図1 捻挫、肉離れ等の局所損傷後の経過



これらの変化を詳しく説明し、損傷部での変化をK. Knightが損傷モデルとして報告しています (図2)。これについて説明します。



一次的外傷性損傷が起きたとき、組織細胞、血管および神経にも損傷が起こり、血管も破れ出血を起こします。この出血に周辺の蛋白質や細胞片と合わさり、血腫ができます。

血腫が形成されると、死んだ細胞片から酵素であるライソゾームが放出されます。このライソゾームは壊れた自分の細胞を消化するための酵素です。この酵素が近接する正常な細胞に触れ、その正常な細胞を破壊していきます (二次的酵素性損傷)。

また、一時的な外傷性損傷の血管損傷ため、周辺組織に十分な酸素が供給できなくなり (二次的低酸素障害)、最終的に細胞の浮腫、破裂、アシドーシス、ライソゾームによる消化が起こり周辺細胞の壊死につながります。

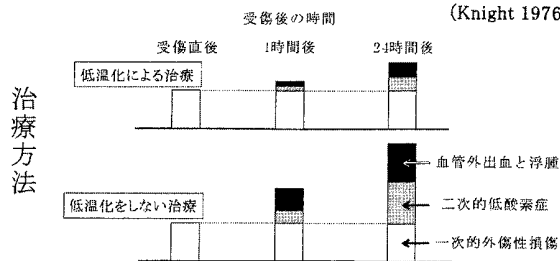
この壊れた細胞片は血腫に加わり損傷組織はさらに増大します。損傷された組織は徐々に大きくなり、浮腫なども著明になります。この状態を「二次的外傷性損傷」と呼びます。これは、二次的酵素性損傷と二次的低酸素障害が加わり来していると考えられます。図2はK. Knightによる損傷モデルを模式的に示しています。

(2) 治療方法により異なる損傷部の変化 (図3)

スポーツをしている場合で、ケガは仕方ない時もありますが、ケガした状態よりも悪化したくないはず。このためにはアイシン

グが必要です。アイシングにより損傷組織がどのように変化するかを示します。

図3 急性外傷後の治療方法による変化 (Knight 1976)



アイシングによる局所低温化を早期に行うことで二次的低酸素症および浮腫が軽減されることが示されている。

図3 はアイシングをしない治療と正しくアイシング治療した場合の1時間後と24時間後の二次的外傷性損傷の違いを示した模式図です。アイシングによる局所低温化を早期に行うことで、血管外出血と浮腫および二次的低酸素障害である二次的外傷性損傷を最小限にすることが示されています。しかし、アイシングはケガによる直接の損傷すなわち、一次的外傷性損傷には効果を及ぼさないことも示しています。アイシングは受傷できるだけ早く行うことが重要です。

(3) アイシングの効果

アイシングの生理作用として局所新陳代謝を低下させます。これにより炎症が抑制されます。また血管は収縮し、毛細血管からの透過性が減少することで浮腫の抑制もできます。アイシングは筋活動の低下もきたします。

アイシングの疼痛に対する効果も認められます。アイシングは、痛覚繊維における神経伝導を減じ、自由神経終末の興奮性を減じます。さらに組織代謝を低下させ、虚血の好ましくない環境を除去する方向に働きます。痛覚繊維の痛みの閾値を上昇させます。冷却は反対刺激（別の部位を刺激することで、ある部位の痛みを軽減すること）として働き、エンドルフィンの放出を起こします。また、脊髄神経単位も抑制します。これらのことが総

合して働き、疼痛が改善されると考えられます。

(4) アイシングによる温度変化について

アイシングをすれば、当然皮膚温度や深部の温度も低下してきます。しかしどの温度でどのだけの時間をすればいいのか、また続けて冷やすのか間歇的に冷やしたらいいのかはわからないと思います。これを理解するために、温度変化に関して説明します。

組織での酸素消費量は、組織温度が下がるにつれて直線的に低下し、20℃では10～15%とされています。損傷した組織を何度まで下げればいいのかは議論のある状態ですが、外傷性筋損傷直後では20～30℃を指導することが多いようです。筋肉組織は関節と違いアイシングにより温度が低下しにくい組織です。

(a) 冷却水温度と皮膚温度の関係(図4)

図4 コールドパック適用中と様々な温度での冷水浴中およびその後(45分間)の前腕の皮膚温度 (Knight 1981)

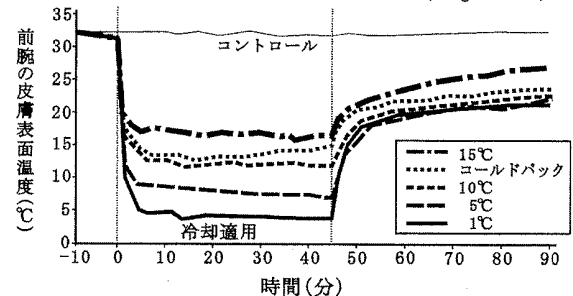


図4 は前腕にコールドパックを使用したもの及びいろいろな温度の冷却水に前腕を45分間入れた場合の皮膚温度変化を示します。温度が低くなればなるほど冷却され、その回復にも、時間を要することを示しています。前腕の場合、1～15℃の冷却適応後45分経過してもいずれの温度も元の温度に回復していないことが示されています。このことは、冷却水であっても間歇的に使用する場合に十分な回復時間が必要なことを示しています。

(b) アイシングを行った場合の各部位における皮膚温度の回復状態(図5)

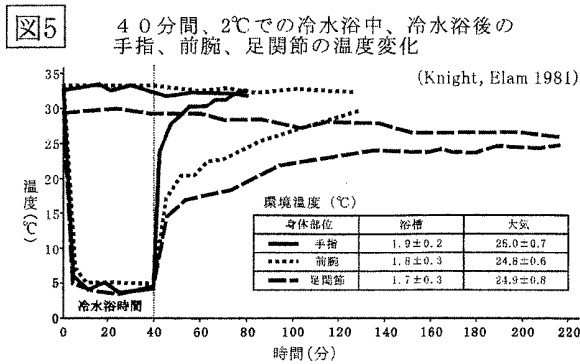


図5は手指、前腕、足関節に40分間、2℃での冷水浴を行った場合の皮膚表面の温度の回復状態（リウォーミング）を示しています。手指の回復が最も早く10～20分でかなり回復しますが、健側とほぼ同じになるのには40分の時間を要しています。前腕の温度回復は約2時間を要しています。さらに足関節では、もっと緩やかな回復となり数時間を必要としています。通常外傷でアイシングを行う場所（肩、膝、足関節、大腿、下腿など）での皮膚温の回復時間は、アイスパックを行った時間のほぼ2-3倍の時間が必要と考えられます。

(c) 前腕を4℃の水槽で冷却したときの組織の温度変化（図6）

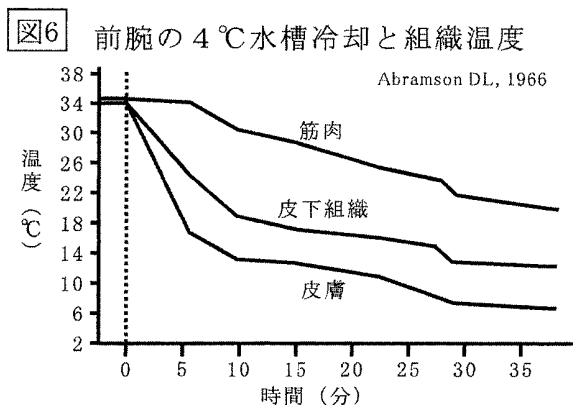
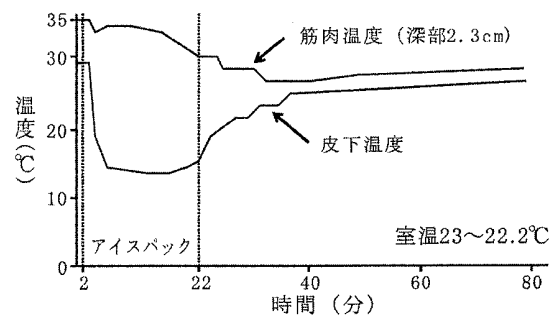


図6は前腕部に4℃の冷水でアイシングを行った場合の皮膚、皮下組織、筋肉の温度の変化を示したものです。皮膚温度はすぐに下がりますが、筋肉はかなり緩やかに下がり、アイシング開始10分後でも皮膚温度の1/7ほど（およそ3℃）しか下がりません。冷却開始20分後でも皮膚温度の1/3（およそ8℃）

しか下がっていません。皮膚の温度と深部の筋肉ではアイシングによる冷却効果かなり異なっています。損傷された筋肉のアイシングには、さらに時間を要します。皮下組織が多くある部位での冷却は、その効果はさらに減ってきます。

(d) 下腿の腓腹筋にアイシングを行った場合の皮下および筋肉の温度変化（図7）

図7 20分アイスパック中及びアイスパック後の皮膚温度及び筋肉（腓腹筋）内温度の変化 (Hartviksen 1962)

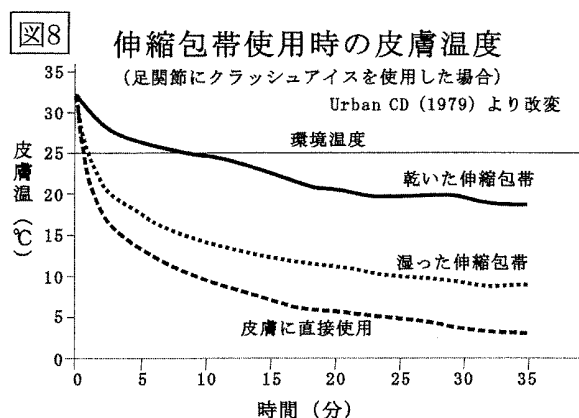


筋肉温度は皮下温度に比べより緩徐に低下し、アイスパックを取り除いた後も低下し続ける。

図7は下腿の腓腹筋にアイシングを20分行った場合の皮下温度と筋肉温度の変化を80分間の経過を追ったものです。測定部は皮膚より2.3cmの深さの部位です。皮膚温度はアイシングによりすぐに下がり、アイシング終了後は約20分間ゆっくりと上昇してほぼ定温になります。筋肉温度はアイシング中はかなり緩やかに下がります。しかし、筋肉温度は皮膚とは異なりアイシング終了後も約15分間緩徐に低下しています。その後はゆっくりと上昇し改善してきます。関節など皮下組織が少なく直接アイシングできる場所は、強く冷やされますので注意が必要です。通常、アイシングは間歇的に行います。

(e) アイシングは直接皮膚の上に置く（図8）

時々、アイスパックを圧迫包帯の上から置いているのを見ますが、これではアイシングが不十分となります。損傷した組織は、アイ



シングで急速に酸素消費量を下げて、二次的酵素性損傷と二次的低酸素障害を来さないようにするのが目的です。図では圧迫包帯の上からでは、十分に温度が下がっていないことが見られます。これでは、深部の損傷された組織の温度はさほど下がりません。凍傷の危険のある人は仕方ありませんが、0℃の氷（表面が少し溶けたもの）を使用すれば、この危険性もほぼ無くなります。圧迫包帯をしてその上からのアイシングはRICE処置と言うより圧迫処置と考えられます。

(5) アイシングの時間

アイシングを行い、感覚がなくなれば冷却を中断し、アイシングを行った時間の2倍以上の休息時間をとります。再び痛みが戻ってきたら再開しますが、成人の男性の筋肉部の損傷に対しては、通常20分のアイシングと約40分から60分の中断時間を基本としています。

しかし、小・中学生や女性など筋肉量・脂肪量が少ない場合には大人の男性に比べれば同じ量の氷でも冷却効果はより大きいので、アイシングの時間は短くなります。冷やしすぎないために、持続的にアイシングをしないようにして下さい。このようにして、アイシングと中断の繰り返しを24時間から72時間続けます。

また、関節部の損傷は注意が必要です。関節部の損傷では、その部は筋肉に包まれていません。そのため、アイシングによる冷却効果がすぐに現れ、速く冷却が起こります。こ

のため、アイシング時間を短くしなければなりません。

足関節の損傷が多いため、足関節捻挫について話します。足関節捻挫の場合、小学生では、およそ5分～10分のアイシング、中学生で10分～15分と思って下さい。高校生以後は、およそ20分は可能ですが初めての場合は、10分間もできないのが実情です。アイシングを続けることで少しずつ時間が延びてゆきます。体の大きなラグビーや相撲の選手はおよそ30分間アイシングすることがありますが、これは例外です。

アイシング後の回復時間も必要です。小学生や中学生では、必ず30分から1時間の休みをとって下さい。成人の場合は、通常60分の回復時間をとることが勧められます。この間は、圧迫包帯を行います。感覚が悪くなっているのを、強すぎないことを確認して下さい。

(6) アイシング中及び除去後の圧迫包帯について

アイシング中には圧迫包帯をしますが、足関節の場合、特に足趾の血行障害に気をつけなければなりません。数分ごとに母趾を圧迫し、知覚障害（さわった感じがわからない）があるとか、圧迫しても痛くない状態になったらアイシングを一時中止します。圧迫は中止しなくてもいいですが、知覚障害のため、圧迫力を必ず弱くして下さい。手関節の場合も同様です。

アイシング後の圧迫は、知覚障害を起こしている場合に注意が必要です。強い圧迫包帯は、行わず、弱い程度の圧迫を行います。知覚障害が回復した後も、圧迫はさほど強くする必要はありません。弱くても圧迫した状態が続くことが必要です。

以上のこと十分理解してアイシングを行って下さい。

【特集】 ひとりから・地区から 草の根の国際交流

青年海外協力隊の2年間～ソフトボールの普及活動～

平成25年度 1次隊モルディブ派遣（体育隊員）

藤田 満理奈（平成24年度至学館大学卒業）

私がソフトボールを始めたのは中学に入ってから。大阪の高校を卒業後、愛知県の大学に入学しソフトボールを続けていました。卒業後は色々な事を考えた結果、青年海外協力隊員に参加することを決めました。そして、2013年7月～2015年7月まで青年海外協力隊の体育隊員としてモルディブ共和国で活動していました。青年海外協力隊とはJICA事業の一つで任期は2年、職種は120以上と様々。私は体育の教員免許を取得していたことを活かし、「体育隊員」の職種として活動していました。



（外務省ホームページより）

モルディブは南アジアに属し、インド洋にある島国。インドとスリランカの南西に位置し、約1200の島々から成る国で、人口は約40万人。島々は、無人島・ゴミ島・リゾート島・住民島・・・と一島一役割で成り立っています。その中の現地の人々が住み暮らす住民島で活動していました。第一公用語はディベヒ語という現地の言葉。第二公用語は英語。食はカレーか魚を塩水で煮たスープ。それにご飯か薄焼きのパン。プラス激甘のティー。

宗教はイスラム教で、一日5回の礼拝があります。私の任地島は島の外周を歩いても約35分と小さな島で、人口は約1000人。親族関係にあたる人々が多く、まるで皆が家族のよう。プライバシーなんて言葉が通じないくらいです。人々は、お節介が似合うほど温かく、この2年間はそんな島人とよく笑っては、助けられて過ごせた日々でした。私が主に行ってきた活動は、配属先での体育の授業・他体育隊員と共に他島にて体育ワークショップの実施・放課後保護者対象エクササイズクラス・そしてソフトボールの普及活動などです。

配属先の学校は小学1年生～中学3年生までが通う島に一つだけある学校。体育の授業があるのは小学1年生～中学1年生。現地教諭と共に体育授業を実施してきました。途上国では体育等の情操教育が重要視されていなかったり、現地教諭は体育授業の実施方法が分からない等の理由があり、授業は”子どもが好きな遊びをする時間”に偏っていました。並ぶこと、授業の流れを定着させるところから始め、7年間を通した段階性のある授業を実施するべく限られた用具の中で工夫しながら出来ることを考え、現地教諭と意見を交換して一つのモノを創っていけるように活動していました。

その傍ら、私が始めたのは”ソフトボール普及活動”でした。この活動をソフトボールがないモルディブで始めることが出来たのは、私の思いに賛同し、用具を寄付してくださった方々のおかげです。個人であつたり、JICAのプロジェクト「世界の笑顔のために」を通して本当にたくさんの方のご協力があつて出来た活動です。モルディブで”Baseball”と言ってもなかなか伝わらないほど

の認知度の低さには驚かされました。しかし、この地で私の大好きなソフトボールの楽しさを共感できれば・・・、人々が夢中になれるものの一つとなれば・・・、という思いのもと本格的に始められるまでは、首都マレにわずかにあったグラブやボール、バット（以前の隊員が残っていたもの）を持って広場で興味のありそうな人を対象に地道に行っていました。用具到達後からは本格始動。まずは任地島の小学4年生～中学2年生までを対象に放課後クラブ活動として実施。「これがソフトボールだよ」と一からのスタート。子どもたちは利き手と逆手にグラブをつけることに疑問を感じていたり、新しい感覚に楽しさを感じている様子でした。まずは”ソフトボールって楽しいな”と感じてもらえるよう、子どもたちに興味を惹かれることを重視して行ってきました。その結果、バッティング多めの時間に・・・。子どもたちはバットを握って振ること、ボールを打つことが大好きです。体育の授業を通してでもですが、子どもたちの成長の速さにはこちらが驚かされます。”もっとやりたい！毎日やりたい！”という声があり、対象者の反応はたいへん良かったのですが、その中で私の任期はもう残りわずかとなってしまいました。最も大切な”継続性”を考えるとどうすべきかと悩んでいた時に偶然出会ったのはなぜかグラブを持ち、野球を知る現地の人。モルディブに「野球・ソフトボール連盟を」といろいろな話が進み初め、オリンピック協会や教育省など各省の方々と話し合い、協会が設立したのは2015年1月。それから波に乗るかのように隣国の隊員がモルディブに来てくれ、協同で「野球・ソフトボールコーチングキャンプ」を実施しました。「もっと広めてほしい！」と、人口の集中している首都で活動することを勧められましたが、私のメインである体育の活動と併用することは難しく実施することが出来ませんでした。

任地の島では、寄付してくださった用具を活かせる機会を多く且つ、子どもたちの声にも応えられるようにと授業の中でも”三角ベース”を取り入れていきました。初心者を対象に”ルールを伝えること”の難しさを痛感しました。一人の子が

理解出来れば、あとはその子から他の子たちに伝えてもらう方が流れも良く、良い集団作りにも繋がると思い、一人一人に同じように説明せずに”教え合える場”を設けていました。やっていく中では、うまくいかないことにも多く直面してきました。異なる環境で異なる文化で育ってきた人々と一緒に何かをすることは、お互いに理解し合えなければ進んでいけません。ソフトボールという団体競技の中では”チーム力”が大切です。チーム力向上のためには、相手を想いやるところの”理解し合う”というコミュニケーションの部分が不可欠です。私も子どもたちにソフトボールを通して”想いやり”を持つことや”モノを大切にすること”に繋がるように伝えてきました。また、異文化で活動する中で無くてはならない”相手をわかろうとする姿勢”。赴任当初は、言葉を聞き取ることに精一杯で慣れないうちは違いに戸惑うことがありました。しかし、同じ時間を共有していくことで違いすら面白かったり、違いから学べることが多くあったり、何より互いに知り合うことで分かり合える部分が増えよりよい関係に繋がったのだと思います。

行き詰った時や何かに直面した時は、”なぜ今ここに居るのか。”と初心を思い返すようにしています。

十分なグラウンドや用具がなかったり、伝え手が居ない境遇から自身を振り返ると、あれだけソフトボールを夢中に頑張れる場所があったことの有難さを心して感じました。ぜひ、今しかないソフトボールを精一杯楽しんでください！一つ一つとじっくり向き合う強さを持ちながら。そしてもし、一歩外で活動してみたいという思いがあれば、踏み出してみてください。色んな人やモノ、そして自分に、きっと出逢えることと思います。



男子東海選抜 2nd Merlion Cup 優勝

●日程：2015年4月16日(木)～21日(火)

16日 中部空港→シンガポールへ
17日 Merlion Cup 開会式・予選リーグ
18日 予選リーグ
19日 決勝戦・Merlion Cup 閉会式
20日 市内自由行動
21日 シンガポール→中部空港

◆派遣選手

No.	守備	氏名	所属	学年
1	投手	花岡 大輝	中京大学	4
2	同	田村 幸也	常葉大学	3
3	同	松本 和也	中京学院大学	3
4	同	相島 宏郁	日本福祉大学	2
5	捕手	西里 博樹	中京学院大学	4
6	同	佐藤 拳士	常葉大学	4
7	同	水本 健太	中京大学	3
8	内野手	高橋 孝芳	常葉大学	4
9	同	鈴木 友也	中京大学	4
10	同	佐藤 圭亮	常葉大学	4
11	同	田中 琢也	中京学院大学	3
12	同	佐野 俊介	中京大学	4
13	同	荒木 大	常葉大学	3
14	同	内堀 直樹	日本福祉大学	2
15	外野手	古川 寛雄	中京大学	4
16	同	庄司 佳弘	常葉大学	3
17	同	前岡 隆杜	中京学院大学	3
18	同	佐野 裕也	中京大学	3

◆スタッフ

団 長：二瓶 雄樹（中京大学）
監 督：石井賀一郎（日本福祉大学）

選手サポーター：矢野 聖人（日本福祉大学）
同 高塚 千晴（常葉大学）

◆東海選抜の試合結果

・予選リーグ(4チーム2回戦総当たり)

Singapore 0 0 0 0 0 0 0 : 0

東海選抜 0 0 0 3 1 1 x : 5

○花岡大輝・田村幸也－西里博樹・佐藤拳士
(本) 荒木

東海選抜 13 1 0 2 : 16

Warriors 0 1 0 0 : 1

○松本和也・田村幸也－西里博樹

(三) 田中琢也、庄司 (二) 荒木

東海選抜 0 1 4 0 0 0 : 5

Singapore 0 0 0 0 0 0 : 0

○田村幸也－西里博樹

J A S 0 0 0 0 : 0

東海選抜 5 4 1 x : 10

○花岡大輝・松本和也－佐藤拳士

(二) 高橋孝芳

Warriors 0 0 0 0 : 0

東海選抜 2 3 3 2 x : 10

○田村幸也・松本和也－佐藤拳士

(本) 佐野裕也 (二) 佐野俊介

東海選抜 10 1 1 5 : 16

J A S 0 0 0 0 : 0

○松本・花岡大輝－佐藤拳士・西里博樹

(本) 佐藤圭亮② (三) 田中琢也 (二) 佐藤圭亮

・決勝戦

Singapore 0 0 0 0 0 : 0

東海選抜 3 1 3 1 x : 8

○花岡大輝－西里博樹

第2回マーライオンカップ大会を終えて

監督 石 井 賀一郎（日本福祉大学）

この国際大会は、シンガポールで開催が予定されている東南アジア大会（SEA GAME）に向けての

シンガポール協会（S B S A）の企画で実施された大会です。

第1回マーライオンカップ選手権大会での参加チームはオーストラリア（クラブチーム）、インドネシア、シンガポール（ナショナルチーム）、現地日本企業選抜の5チームでの開催されました。限られた期間の中で日本と違ったソフトボール感を体験させていただいたので、次の大会では東海地区の代表として若い選手が日本では経験できないことを身に持って感じさせ、今後競技活動に活かされればとの考えで、東海地区大学連盟の協力のもと第2回マーライオンカップ大会に参加させていただきました。

今回の大会では、ニュージーランド・オーストラリアの参加も予定されていたのですが、国内の代表選考会と重なったため、強豪2チームの参加はありませんでしたが、選手たちは、多分今後は体験できないであろう経験を大きな財産として持ち帰ってくれたことと思います。

その体験したことについては、各自の感想文に

表れているかと思います。

ソフトボールを通じての人と人の輪（国内外）の素晴らしさと大切さを感じてくれたことと思います。出発前の各選手の顔つき（期待と不安）と帰国した時の顔つき（達成感と希望）の違いをすごく感じた瞬間であり、いつの間にか東海地区の大学代表として、一つのチームになっていた事を感じさせてもらった瞬間でもありました。

東海学連としては、東海地区のソフトボールのレベルアップと国際的な場でソフトボールを通じて、各国の人々との国際交流を図ることで視野を広げられればと考えて、今後も多くの選手に体験してもらえよう企画し、実施できればと考えています。

最後になりましたが、東海地区大学ソフトボール連盟はじめ多くの方々のご協力とご支援を賜り、無事に終えられたことに深く感謝してお礼の言葉とさせていただきます。

マーライオンカップ大会に参加して

常葉大学 佐藤 拳士

今回のマーライオンカップに参加をさせて頂いて、沢山の事を学べました。ニュージーランドやオーストラリアが参加できなかったため、レベル的に高いとは言えませんが、選手一人ひとりのポテンシャルは高かったように思えます。そして、大差で負けていても、最後までソフトボールを楽しんでやっていました。この姿勢は見習うべきだと思いました。

ソフトボールだけでなく、シンガポールの歴史や現状なども肌で感じる事ができ、とてもいい経験ができました。このような機会を与えて頂き、ありがとうございました。

常葉大学 佐藤 圭亮

今回このような形で国際試合という非常に貴重な経験をさせていただき感謝しています。

シンガポールでは、日本と環境が違う中、過密なスケジュールで試合をし、技術面はもちろん、文化の面での違いを感じました。日本は恵まれていると率直に感じました。この経験を今後のソフトボール人生に活かしていきたいと思います。ありがとうございました。

常葉大学 庄司 佳弘

海外に行くこと自体が初めてだったので不安と興奮が入り混じっていた。

一番初めに感じたのが「暑さの違い」だった。気温は30℃を超え、湿度も90%以上と日本とは比べ物にならない暑さだった。3日間で7試合という強行日程の中無事に終えることができた。その中で感じたことは、ソフトボールをしている姿に「楽しさ」が伺えた。結果ばかりを求めている私はソフトボールを楽しむということを忘れていた。このことをリーグ前に気づくことができたことはとても大きかった。また、シンガポール在住の日本人チームの雰囲気は凄いと感じた。何があっても声を出して切り替え、みんなでチームを盛り上げる姿勢は見本にしなければならないと感じた。何より西カレやインカレで上位進出を目指すうえでの暑さの中で1日4試合という過酷な日程を経験できたことだ。西カレ・インカレで苦しい場面になってもその時のきつさを思い出せば耐えられるのではないかと思う。

今回マーライオンカップに参加させていただき、様々な経験ができ、たくさんのことを学ぶことができました。この経験をこれからのソフトボール人生で存分に活かしていきたいと思う。このような機会を与えてくださった関係者の皆様に感謝しています。

常葉大学 田村 幸也

日本以外の環境でソフトボールをするのは初めてでした。日本の夏よりも暑く、プレイをするのはとても大変でした。その中でもシンガポールのチームは暑さにも負けじとソフトボールを楽しんでいました。私たちも「ソフトボールを楽しむ」ということを見習い、これからのソフトボール人生を楽しみながら、これからも多くのことを勉強していきたいと思います。今回このような機会を与えてくださり、ありがとうございました。

常葉大学 高塚 千晴

今回このような機会を与えてくださった皆様に感謝しています。

今大会に選手サポーターという形で参加させていただきました。まず、日本とは違う環境、文化に戸惑いました。更に3日間で7試合という日本

ではあまりない過密スケジュールでの開催でした。そんな中チーム一丸となり、結果優勝をすることができました。

また、現地の方の優しさに触れたり、現状を知ったりすることができ、試合以外にもとても貴重な経験をさせていただきました。この経験を様々な場所で活かしていけたらと思います。

常葉大学 荒木 大

自分にとって海外試合は初めての経験であり、戸惑うことが多かった。中でも空港を出た瞬間焼けるような暑さであり、気温は30℃を超え、湿度も90%ほどあったので万全なコンディションで試合が出来るのが不安であった。

全試合を終えてから現地の人との会話の中で、この暑い中でソフトボールをする理由として、最後にはやっぱりソフトボールが好きだからという言葉にたどり着いた、一見当たり前の事だが自分にとってはその一言に重みを感じた。今までの自分は勝負が全てでありこだわってきたが、それだけではなく競技を楽しむことの大切さを気づかせていただいた。国際大会という場で良い経験をさせていただきました。

最後にこの大会を企画していただいた東海学連の皆様方に感謝し、今後、日々精進をしてみたいです。

常葉大学 高橋 孝芳

私は今回、第2回マーライオンカップにチームのキャプテンとして参加させていただきました。4チームの選手が集まり一つのチームにまとめることは難しい事ですが、みんなの協力で東海選抜として良い成績で終えられたことに感謝と良い経験を積ませていただきました。

シンガポールでは自由時間も与えていただきホテルの周辺の探索や繁華街へも行くことができ現地の方々と接する機会も多くありました。この遠征で学んだことを今後私生活でも活かしていきたいと思います。

最後に、この遠征に引率、サポートしていただいた先生方や東海学連の皆様方及び現地でお世話

になった関係者の皆様方に深く感謝申し上げます。

中京大学 古川 寛雄

私にとってこのシンガポール遠征は初めて行く海外であり、とても貴重な経験になりました。シンガポールの気候は年中暖かく、毎日気温30℃を超える中での試合に最初は戸惑いました。さらにその中で1日4試合するという初めての経験ができ、暑さに慣れることができました。

この大会で私が一番嬉しかったことは、試合に全勝して優勝することができたことです。私個人の内容はあまりよくなかったのですが、チームの仲間と支えあい、全員で勝利を掴むことができました。この経験を日本に帰っても忘れずに西カレやインカレで東海地区のチームの活躍する姿を見てもらえるように頑張りたいと思います。

中京大学 佐野 裕也

今回のシンガポール遠征では、私にとってとても良い経験となりました。まず、私自身海外に行くのは初めてのことで期待と不安でいっぱいでした。いざ行ってみると、とても暑く、日本とは違う気候を体験しました。その気候の中、1日4試合というスケジュールをこなし、体力的にも、精神的にも成長できたと感じています。そして今回は自チームの選手だけでなく、他の大学の選手も参加しています。普段ならば当たり前のことも、そうではなくなり、選手間同士のコミュニケーションや、選手、監督間のコミュニケーションの重要性を改めて感じました。これらの経験を生かし、西日本インカレや、全日本インカレで戦っていきたいと思います。

中京大学 佐野 俊介

マーライオンカップを終え今でも印象に残っているのは、シンガポールの選手たちのひたむきな練習姿とオンとオフの切り替えのうまさだ。コーチの指示、アドバイスを熱心に聞き技術の向上に励む姿を見て、私も負けてられないもっとうまくなるためには何をしたらいいのかもっと必死にやらなければと強く思わせてくれました。また30℃

を超える暑さの中一日に4試合もやるといういままでにはない経験をし、「へとへと」になっている私たちの横で明るく、ソフトボールを楽しんでいるのを見て競技を始めたころの純粹に楽しい、もっと上手になりたいという気持ちを思い出した。初の海外ということで食文化、言葉、生活習慣など驚くことがたくさんあった。インカレ、西カレでは普段と違う環境の中でいつも以上の結果を残さなくてはいけない。今回の経験をいかし、この夏インカレで優勝できるようあと2ヶ月練習に励みたいです。

中京大学 花岡 大輝

今回のマーライオンカップは私にとって初の海外遠征となりました。日本とは違う言語、食事、気候など慣れない環境で戸惑うことばかりでしたが、体調を崩さずベストな状態で試合に臨めたことはとてもよかったです。

自分の中で外国人はパワーがすごくフルスイングしてくるイメージでしたが、実際には小技もやってきたり、コンパクトなスイングでミートをしたりする選手もいました。そのため丁寧にコーナーへ投げること、緩急を使うこと、ストライクとボールの出し入れなどの投球術がとても大切なことだと学ぶことができました。また、とても暑い中、1日で4試合という試合数をこなしたことはとても自信ができました。この投球術や自信をこれからの試合で生かしていきたいです。

今回の遠征でシンガポールの文化や現地の方々の優しさにも触れることができ、とてもいい勉強になりました。最後にこの遠征の関係者の皆様にご感謝申し上げます。

中京大学 鈴木 友也

私は今回のシンガポール遠征で、とても貴重な体験を積むことが出来ました。特に大変だったことは体調管理です。気温が常に30℃を超える中、一日に4試合を行うなど日本では考えられないことを体験できたことで、様々なことを学びました。気温が高い分、体がすぐに温まるためアップを普段より短くしたり、水分の取り方、また試合と試

合の間の過ごし方やモチベーションの保ち方など、その場その場で臨機応変に対応できたことが私にとって大きな収穫になりました。また、その厳しい環境を乗り越えたことで、日本の夏場でも体調を崩さず問題なくプレーできるという自信をつけることもできました。

もう一つ勉強になったのが相手の投手です。シンガポールの投手は全体的にスライダーを多く投げるといふ特徴がありました。日本ではスライダーを投げる投手はそんなに多くないので、とてもいい経験が出来ました。これらの経験は簡単にできることではないので、自分の中で終わらせるのではなく、チーム全体で共有できるよう伝えていきたいと思っています。

中京大学 水本 健太

今回のシンガポールでの遠征を通して、他大学との交流はもちろん、現地の気温や語学などの環境に慣れ、順応することがその場において結果を出すために必要だということを身に染みて感じる事ができました。プレイの面においては、やはり体が大きくパワーがあると思ったので、配球する時にはタイミングをずらし、自分のスイングをさせないように工夫しました。そして結果的には東海選抜が優勝することができましたが、その裏でご協力してくださった方々がいるのを忘れずに感謝し、今回の経験をこれからの自分の競技生活に活かしていきたいです。

中京学院大学 西里 博樹

初めての海外遠征で感じたことは、先ず最初に外国の方は日本人と比べてパワーが桁違いでした。試合ではスピードで攻めるよりも、コントロールと緩急で攻めることを意識しました。

1日4試合と日本ではありえない過密日程で、自分達は毎日ヘトヘトになりながら試合をしていましたが、外国の選手は、常に全力で『ソフトボールを楽しむ・上手になりたい』という気持ちが伝わってきました、これは1番大切な気持ちだと思います。

残りの大学生活ではこの気持ちを忘れずインカ

レ優勝を目標に頑張りたいと思います。

中京学院大学 松本 和也

日本では一日最高2試合しかありませんが、今大会では一日4試合というハードな日もあり、初めてで、どのように気持ちを持って行けばいいか調整が大変でした。

シンガポールは日本と気候が全然違い、暑くばてないように試合中も体調管理に気を付けました。日本と海外の打者の大きな違いはパワーが大きく違うと感じ、スピードを意識せずにコントロール、球の切れ、緩急を意識して投げる事を徹底しました。

この経験を活かし残り少ない大学生活で頑張っていこうと思います。

中京学院大学 田中 琢也

シンガポールは日本と違い気温が高く、また2日目に1日4試合という日本では有り得ない体験をしてきました。

その中で7試合を戦い全勝で優勝できたことはとても良い経験だったと思いますし、個人としても初の国際大会で不安も多少ありましたが、自分の力を出しきれた大会であったと思います。

外国の選手たちはとても粘り強く、追い込まれてからきわどい球は全てカットしていくというプレイが印象的であり、チームが負けているときでも諦めない心が全面に出ていたと感じました。

今大会に出場して大変貴重な経験をさせて頂いたことに感謝をし、この経験を残りの大学ソフトボール生活に活かしていきたいと思っています。

中京学院大学 前岡 隆杜

日本より気温は高く、最高気温35℃というなか3日間で7試合というハードな日程で試合を行い、結果は7戦7勝で優勝することができました。

結果は全勝でしたけれど、外国人の個々の能力がとても高く、特にチーム一丸となり最後まで諦めず攻めてくる所は怖いと感じました。

自分にプラスになったことはたくさんあり、この国際大会で、試合以外でも本当に貴重な体験が

沢山できました。これを活かし大学ソフトボールで活躍できるよう頑張りたいと思います。

日本福祉大学 相島 宏郁

このたびは第2回マーライオンカップに行かせていただきありがとうございます。私は第1回マーライオンカップにも行かせていただき、今回も参加させていただき多くの事を学ばせていただいたことに感謝しております。

1日4試合など、日本では考えられない数の試合をこなし、はじめは大変苦痛ではありましたが、その数多くの試合をする中でソフトボールができる幸せと楽しさを改めて感じることができました。

そして私は今、やはりソフトボールが大好きであるということを実感しています。私はこの遠征を通じて、自分自身チームにとって最高の投手に成長していきたいと思いました。

日本福祉大学 内堀 直樹

第2回マーライオンカップに参加させていただいてありがとうございました。

今回の大会を通して私が学んだものは、人と人との交流の大切さです。普段自分のチームでプレイしているだけだと狭い世界の中でしか自分を見ることができませんでしたが、今回、普段は敵同士の人達と同じ1つのチームとして一緒にプレイをしたことで、新たな自分を発掘することができ

ました。

一つ一つの言動や取り組む姿勢等、その他いろいろな面で視野も広がった遠征であり、私にとっては大きな経験をさせていただきました。

今回得た経験を活かして自分のチーム、そして東海リーグ全体のレベルアップに繋げていきたいと思っています。

日本福祉大学 矢野 聖人

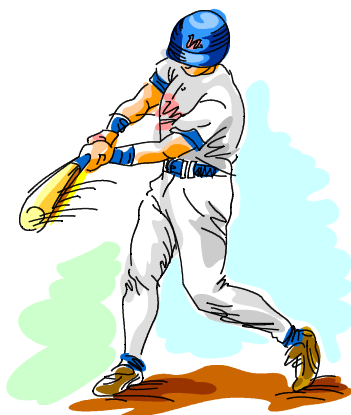
マーライオンカップ参加の機会を与えていただきありがとうございました。

今回の大会は選手ではなく、選手サポーターとして参加をさせていただきましたが、自分自身海外大会は初めてでしたので、スポーツをする環境や住む環境などが日本とは全く違っていて驚きましたし、多くの事を学ばせていただきました。

3日間で7試合という過密なスケジュールの中で試合をやっていくにつれてチームの団結も感じはじめ、優勝への意識が高まってきたと思います。

現地の方との会話等で、シンガポールの優しさを知ることができたこと、私にとって人生の中で貴重な経験をさせていただきました。

東海選抜で学んだチームワークや試合に向けての姿勢などを自分が選手サポーターとして学んだ事を様々な場面で活かせるように今後も頑張りたいと思います。



インドネシア男子ナショナルチーム来校 および千葉オープンチャレンジカップ参戦記

東京理科大学 柳 田 信 也

2015年3月、インドネシア男子ナショナルチームが本学に来校し、千葉オープンチャレンジカップに参戦した。これは、インドネシア野球ソフトボール連盟より(公財)日本ソフトボール協会(以下日ソ協)に、2015年6月に開催された「South East Asian Games」へ向けた選手強化のため、日本の強豪チームと強化試合を行いたいとの打診があったことに端を発する。日ソ協理事会において検討された結果、2018年に第18回アジア競技大会がインドネシア・ジャカルタで開催されることから、インドネシアのソフトボール普及振興・強化は、日ソ協の標榜する「アジア近隣諸国とのスポーツ交流の促進と相互理解を深める」目的にとっても有益であると判断し、三宅選手強化本部長から本学と日本体育大学に打診があり、両校にお招きすることとなった。本学にお越しいただくのは

2011年9月以来、4年ぶり2度目であった。日本体育大学で5日間計6試合をこなした後、3月22日に本学野田キャンパスにお越しいただき、翌23日より第17回千葉オープンチャレンジカップに特別招待チームとして参加をしていただいた。本大会は、千葉県ソフトボール協会の審判員等の研修大会を兼ねて、毎年3月に十数チームが参加して行われているシーズンイン序盤のチームの完成度を測る試金石的大会として定着しており、関東近郊のチームを中心に、北海道や東北からもインカレ出場チームが参集するものである。

インドネシアチームは、A/Bの2チームに分かれ、計8試合をこなした。戦績は、大会結果をご参照いただければ一目瞭然であり、インカレ常連校と肩を並べる素晴らしい試合内容であった。特にインドネシアAチームは、第Iブロック(予選ラウンド第1位通過のブロック)において、見事

優勝、インドネシアBチームは決勝ラウンドで惜しくも強豪国士舘大学に敗れたものの、第3位という好成績であった。なお、優勝したインドネシアAチームは予選ブロックで国士舘大学にコールド勝ちを収めている。これらの成果が実ったものか、8月にシンガポールで開催された東南アジア競技大会では、見事準優勝の成績を収め、合宿の成果が発揮されたとの朗報が届いた。

大会全体を通して、特に投手力と打力のポテンシャルの高さには驚愕の思いであった。粗削りな部分が目立つことは否めないが、そのパワーとスピードは日本人大学生を圧倒するものがあつた。彼らの多くが野球選手を兼ねていることが影響しているかもしれないが、ディフェンス面の基礎やソフトボール特有の細かい戦術の精度を上げることでアジアの強豪へと成長する可能性を秘めた素晴らしいチームであつたと思う。インカレ常連校が何チームもコールド負けを喫した彼らの勢いは、観戦していて爽快な気持ちをもたらしてくれた。

大会終了後には、歓迎パーティーや富士山ツアーなども行い、国際交流を深めた。自由で明るく(時折行き過ぎた感があるのは否めないが)、優しい彼らの姿は本当に微笑ましいものであつた。誰にでも笑顔であいさつをし、自分の食べているものを必ず他人に勧め、当たり前のように子どもや高齢者に席を譲る姿は、現在の大学生に足りない何かを教えてくれたような気がする。またいつか、国境を越えた球友とソフトボールを楽しみたいと思う。

最後に、このような機会をいただいた、三宅豊選手強化本部長をはじめ日本ソフトボール協会関係各位に心より感謝申し上げる次第である。

香港男子代表チームの来日とその交流国際親善大会への参加

高知工科大学 伊 勢 幸 広

2015年10月、クラブチーム「東かがわクラブ」が中心となり、香港男子ナショナルチーム、ジェイテクト、高知工科大学の4チームで、東かがわ市白鳥中央公園多目的広場において、ソフトボール交流を目的とした国際親善大会が開催された。

この開催にあたっては、香川県東かがわ市を拠点として活動している東かがわクラブが香港代表選手の王偉雄氏を受入れたことがきっかけであったが、4月に古市監督（東かがわクラブ）、劉国業監督（香港代表）らが、東かがわ市役所を訪問した際には、市側としても新たな国際交流の広がりにも期待を寄せていたという。

開催に向け本学ソフトボール部にご連絡をいただいたのは、6月中旬頃。東かがわクラブの工藤助監督から連絡をいただき、迷うことなく二つ返事で参加をお願いした。これにより、地域(地域)を越え、私達にとって、未知の領域である「国際親善大会」への参加が決まった。

大会は二日間（10月17、18日）にわたり開催され、それぞれのチームが総当たりで2試合ずつの計6試合、全12試合が行われた。香港代表チームは、若い選手が大半で、今回の交流は今後のチームを牽引するであろうと期待されるメンバー主体で臨んだということであった。そのため、日本の3チームとの対戦では、一日目の試合は、ソフトボールらしい出塁や細かな駆け引き、時には狙い澄ましたようなスイングにより、引っかけ回され

たような展開が多くみられたが、二日目には、交流を楽しみ、全力で取り組む姿勢に、流れが徐々に傾く・・・というような場面も見られた。結果はさておき、香港代表チームの一つ一つのプレーにひたむきに取り組む姿勢は、本学の学生のみならず、対戦チームや観客として訪れた方々の目を惹くものであった。

試合終了後に、本チームと香港代表チームの主将同士のやりとりから集合写真を撮ることになったのだが、それに続き、個人で写真を撮る者、また、ユニフォーム交換をする者・・・と輪が徐々に広がっていった。

このたび、ソフトボールというスポーツ種目を通じ、普段では到底できないような経験ができたことは大変ありがたく、個人としても今回のような機会やご縁を大切にしていきたいと思う。

最後に、このような貴重な経験をさせていただくきっかけとなった、東かがわソフトボールクラブの工藤様をはじめ監督の古市様、当日の大会運営に際しご尽力された方々や応援に足を運んでいただいた地域の方々、また、関係者各位に心から感謝申し上げると共に、私自身にとっても、これからもソフトボールの魅力に真摯に向き合っていきたいと感じる節目の一つの出来事となったことをご報告させていただく。



【研究論文】

我が国におけるソフトボールの文化的特性に関する一考察
ー 教育と競技の関係性から ー

東北福祉大学 舟山 健一

【本研究の目的】

本研究は「ソフトボールとはなにか」という文化的特性を教育と競技の関係性から把握することを目的とする。なぜなら、これまでのようにソフトボールを「野球のミニチュア版」として考えるのではなく、ソフトボールそのものの文化的特性を把握したうえで、今後のプロモーションの方向性を考察してみたいからである。その背後には、本研究によって得られた成果を、日本ソフトボール協会のプロモーション活動に示唆を与えたいという意図がある。

これまでソフトボールは、教育やオリンピック等の各種国際大会、そしてその時々々の社会情勢に大きく影響されてきた。また、野球の室内練習用として1887年にアメリカで開発されたソフトボールは、現在約200カ国で行われている。そして、世界選手権をはじめとした各種国際大会の開催や、オリンピック種目にも採用され「競技」としても独自に成長し現代社会に定位している。

一方で、我が国におけるソフトボールは、戦後の民主化教育を背景に学校体育に積極的に導入され、教育と密接な関係の中で独自に発展してきた。その後、昭和52年～平成元年の一時期にソフトボールは中心教材から外れたが復活し、結果的に平成24年度から施行されている新中学校学習指導要領において初めて必修化された。

ではなぜ、競技種目と教育種目という全くかけはなれたようにみえる「競技」が同じソフトボールと呼ばれているのだろうか。この問いを言い換えれば、つまりソフトボールの文化的特性を把握するには、教育と競技を包括する視点が必要なのである。しかし、これ

までのソフトボールをめぐる議論は、教育と競技に分断され対話を持たなかったことで、ソフトボールの特性が「野球のミニチュア版」という本質的で不可変的な視点からのみで語られてきた。そのため、ソフトボールという文化領域が時代に対応するなかで変化する多様性や“魅力”を十分に描き出すことはできなかったと考えられる。

【先行研究の検討】

これまで、ソフトボールに関連する先行研究は、「バールボール型の教材研究」と「競技力向上に関する研究」に大別される。

(1) 近年のベースボール型の教材研究として

平成に入ると、バールボール型の教材研究は多くなされてきている。代表的な研究としては、藤田¹⁾、田口²⁾、伊藤³⁾、田中⁴⁾、引地⁵⁾、らの研究が挙げられるが、これらは総じてソフトボールは「野球のミニチュア版」であるという前提から「どのように体を使うのか」という身体活動の形式からのみ競技特性を把握しようとしてきた。しかし、その視点一辺倒では、ソフトボール独自の特性を把握することは難しいとと考えられる。

(2) 競技力向上の研究

ソフトボールの競技力向上に関して、投球の動作分析については奥野⁶⁾、女子チームのマネジメントに関しては二瓶⁷⁾、ゲーム分析に関しては佐藤⁸⁾の研究などがある。しかしこれらの研究は、現代の競技としてのソフトボール、すなわち「ファーストピッチ」にのみ着目した研究であり、スローピッチも含めた文化的特性を把握するに至っていない。

(3) 本研究に近接する研究

本研究に近接する研究として、吉村⁹⁾と吉村・丸山¹⁰⁾の研究が挙げられる。ソフトボールの特性に関して吉村によると、ソフトボールは、本来ボールの大きさとルール（スローピッチとファーストピッチに大別）によっていつでも、どこでも、だれでもプレイできるスポーツとして誕生し、発展してきたものであるという。また、この指摘を踏まえたうえで吉村・丸山は「ソフトボールとは、それ故に、国際的な視野からは10数種類のオフィシャルゲームがあり、それらを総称したスポーツがソフトボールであることを理解しておかなければならない」と述べている。すなわち、ソフトボールは我が国において職場・地域社会のリクリエーションとして、誰もが手軽に楽しめるといった特性を持っていると同時に、より高度な技術を競い合う多数の全国大会と、アジア大会・世界選手権大会までが定期的に開催されているスポーツとして、愛好者から競技者までの様々な要求を満たすスポーツであるという。

しかし、これらの指摘も、ソフトボールの特性が本質的で不可変的な視点からのみによって述べられている。そのため、ソフトボールという文化領域が時代に対応するなかで変化する多様性やその“魅力”を十分に描き出すことはできなかったと考えられる。

【分析の枠組み】

本研究はソフトボールという文化領域が、時代に対応する中で変化する文化的特性を探究しようとする試みである。それは、スポーツ一般や他競技との比較によって明らかになるのではなく、ソフトボールという個別具体的な競技種目が有する歴史固有的なそれを明らかにすることを意味する。つまり、どのようにソフトボールという競技種目が成立し、どのような歴史的変遷を辿るなかで現在の文化的特性が成立しているのかを明らかにしたいのである。

そこで、本研究は菊¹¹⁾の歴史社会学的手法を分析視角に倣った。なぜなら、菊の研究手法

は、上述した本研究の目的を追求していくうえで重要な補助線となると考えているからである。つまり、特定の文化領域の特性を、他との比較による“なぜ”という位相で説明するのではなく、“どのように”という視点から歴史的に構築されたのかを追うことで、その固有性を描き出すことを可能にする手法だからである。

菊は、スポーツにおける文化の構成要素を以下のように述べている。すなわち「（１）各時代や各社会によって価値づけられた特定の目標に関わる信念や観念の体系（観念文化）、（２）ルールとそれに基づく技術などに関わる一定の行動様式の体系（行動文化）、（３）運動を発揮させたり、させやすくしたりする物的条件としての施設や用具などの事物の体系（物質文化）」という３つの文化的側面である。そのうえで、社会の仕組みや歴史的変動により「スポーツをめぐる文化は変化し続けていく」という研究視点を持つことで、特定種目の文化空間を通史的、可變的に捉える点が特徴的である。本研究は、この通史的、可變的なものとしてソフトボールという文化領域を次のように捉え直した。

すなわち、ソフトボールの文化的構成要素として菊が示した文化の構成要素に吉村・丸山らが示したソフトボールの特性を合わせ、分析の枠組みとしたのである。

（１）観念文化：老若男女がその技術水準に合わせて、競技的にも、レクリエーション的にもプレイすることができる。つまり「いつでも」「どこでも」「誰でも」プレイできるスポーツという文化位相。“幅広い層が親しめ楽しめる”

（２）行動文化：ソフトボールのルールには、大別するとファーストピッチとスローピッチの２種類がある。さらに場所や競技者のレベルによってルールを自在に変更できるという文化位相。

（３）物質文化：１号球、２号球、３号球、３号球革製、学校体育ソフトボール、以上５種類のボールがあり、全て野球ボールよりも

大きい規格である。また、専用球場やグラウンドは勿論のこと公園、空き地等の狭いスペースでもプレイできるスポーツである文化位相。

【方法】

分析の枠組みで示した「ソフトボールの文化的構成要素」を基に、スローピッチに関しては教育という制度との関係を中心に文献研究を行った。ファーストピッチに関しては文献研究と、競技スポーツを主導している日本協会¹²⁾関係者及び、ファーストピッチの発展に関わりの深かった関係者からのインタビューにより明らかにした。

具体的には、スローピッチに関しては学習指導要領及びベースボール型の教材研究の歴史的変遷の分析を中心に明らかにした。ファーストピッチに関しては、日本ソフトボール協会に関連する資料と、ソフトボール唯一の専門誌である「ソフトボールマガジン」を中心に明らかにした。また、ファーストピッチの変遷において、昭和30年～昭和50年の情報は文献からは得られなかったため、この時期を照射するために、当時かわりの深かった人物にインタビュー調査を行った。

【結果と考察】

日本ソフトボールの軌跡を簡略的に述べれば、以下のようにいえよう。ソフトボールは、野球の冬季の練習用として、アメリカで発明されたスポーツとして、手軽に「打つ、捕る、投げる」という、野球の構造的な特性を楽しむことができるレクリエーションスポーツとして、軍人や女性を中心に広まった。これがスローピッチソフトボールである。

学習指導要領及びベースボール型の教材研究の歴史的変遷から明らかになったことは、大正10年に紹介され戦後は学校体育の中に積極的に導入されたソフトボールは、導入から現在においても一貫してスローピッチソフトボールがなされている。これが、大衆化されたソフトボールである。

日本ソフトボール協会に関連する資料、またソフトボールマガジンから明らかとなったことは、学校教育の中で大衆化していくスローピッチソフトボールと同様に、ファーストピッチソフトボールも昭和30年代前半までは、大会でも学校体育の中で行われているそれと同じレベルであった。しかし、昭和30年代後半にはウィンドミル投法（図1）が発生し、現代のファーストピッチの原型ともいえる、拮抗した試合が登場しはじめる。昭和50年代に入るとウィンドミル投法は、全国的に広まりを見せると同時にソフトボール特有の「スラップ打法（図2）」が生み出された。これらの技術が集約された現代のファーストピッチの象徴とも言える試合が、北京五輪の決勝戦といえよう。具体的にこの決勝戦では、緊迫感のある投手戦が繰り広げられ、両者の総得点の半分がこの打法と戦略から生み出された。

以上を本稿の分析の枠組みから考察すると、次のことが言えよう。学校体育に定位し続けたスローピッチとは異なり、昭和55年以降のファーストピッチは、ウィンドミル投法から繰り出される速球と、それに対応するために、歩きながら助走をつけ凡打を狙う「スラップ打法」を生みだし、その機能的特性や構造的特性が大きく変容していったことが明らかとなった。

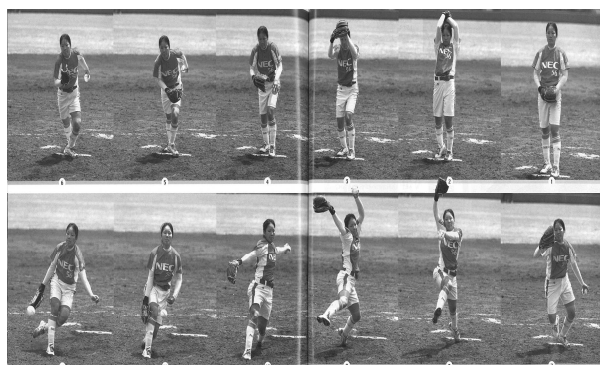


図1 ウィンドミル投法の連続写真

一般的に、高度化されたソフトボールがファーストピッチとして、教育を通して大衆化されたのがスローピッチであると考えられて

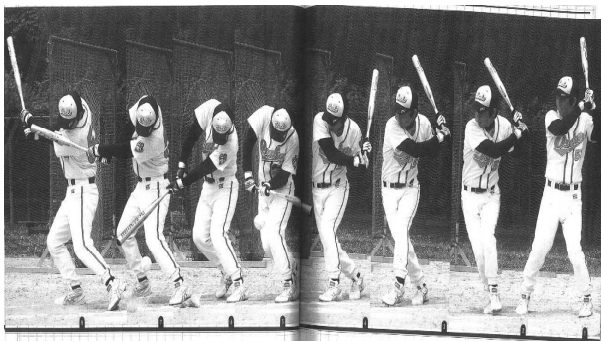


図2 スラップ打法の連続写真

きた。しかし、本研究が明らかにした文化としてのソフトボールは、スローピッチソフトボールからファーストピッチソフトボールが独立することにより両者が文化的に断絶した固有の文化として成立していく過程と現状であった。つまりこれまで、日本のソフトボールは一つの文化と考えられてきたが、そうではなくスローピッチ文化とファーストピッチ文化という二つの独立した文化が併存しているのが現代における日本ソフトボール文化なのである。なぜなら、スローピッチ文化とファーストピッチ文化は快樂¹³⁾の志向が決定的に異なるからである。いわば、スローピッチ文化とは「攻めの志向」であり、ファーストピッチ文化は「守りの志向」であり、快樂の志向が正反対であることが理解された。

それぞれの文化の位相を、文化的構成要素によって示すと以下のように考えられた。

1 スローピッチ文化の位相

(1) 観念文化：老若男女がその技術水準に合わせて、レクリエーションとしてプレイすることができる。つまり「いつでも」「どこでも」「誰でも」プレイできるスポーツという文化位相。“幅広い層が親しめ楽しめる”

(2) 行動文化：「打つ」「捕る」「投げる」という野球の構造的特性を、野球以上に楽しむことができる。特に打つという「攻め」がその楽しみの中心となる。さらに場所や競技者のレベルによってルールを自在に変更できるという文化位相。

(3) 物質文化：1号球、2号球、3号球、

学校体育ソフトボール、以上4種類のボールがあり、全て野球ボールよりも大きい規格である。また、専用球場やグラウンドは勿論のこと公園、空き地等の狭いスペースでもプレイできるスポーツである文化位相。

2 ファーストピッチ文化の位相

(1) 観念文化：多くの人でプレイでき、さらに「する」以外にも「見る」スポーツとしても楽しむことができる文化位相。

(2) 行動文化：ウィンドミル投法やスラップ打法等から繰り出される、スピード感のあるゲーム展開で「守り」がその楽しみの中心となる。リエントリー制度や、DH制があり戦略や作戦を立てること自体を楽しむことができる。

(3) 物質文化：3号球、3号球革製、ボールを使用し、全て野球ボールよりも大きい規格である。ファーストピッチ専用の球場や道具を使用するという文化位相。

【結論】

両者が文化的に断絶したのは、平成初期にウィンドミル投法が国内に定着したことによるものである。これにより、ファーストピッチは守りの快樂を、スローピッチは攻めの快樂を志向することになり、結果的に快樂の志向が対照的な文化になったのである。

このように、快樂の志向が決定的に異なる文化として「スローピッチ文化」「ファーストピッチ文化」は独立し、独自の文化的特性を持つことになったのである。

【日本ソフトボール協会への提言】

今後日本協会がプロモーションを行うにあたり、スローピッチとファーストピッチは「別の文化」とあるということを認識し、それぞれをプロモーションしていく必要があるのではないかと。なぜなら、協会はこれまで「競技としてのファーストピッチ」のみを主導してきており、「競技ではないスローピッチは」常にそのプロモーションの対象にはな

らないできた。ソフトボールは一つであり、ファーストピッチソフトボールをプロモーションすることはスローピッチのプロモーションと兼ねていると考えてきたからである。しかし、このように日本ソフトボールを一般スポーツの「高度化と大衆化」の問題と同一線上で捉えてしまえば、現実には起きているファーストピッチ文化の中で生じている「高度化と大衆化」という動向を看過し、本質的な意味でのプロモーションにつながらないのではないだろうか。

高度化と大衆化は、同一文化の中で起きる問題であるならば、ソフトボールをファーストピッチ文化、スローピッチ文化という2つの文化形態として認識することで、それぞれの文化内でおきる「高度化と大衆化」という視点からのプロモーションが実現可能になるだろう。

【今後の課題】

本研究は、文化論に終始することで結果的に、経済などの他領域との関係性に言及することが出来なかった。その為、具体的なソフトボールのプロモーション施策を提示することが出来なかった。

次の展開として、具体的に「二つの文化をそれぞれどうプロモーションしていくか」ということを課題とし研究に取り組みたい。

【文献】

- 1) 藤田 昭 (1991) 自らチャレンジするベースボール型ゲームの授業作りの工夫. 学校体育, 44 (2) : pp. 28-30.
- 2) 田口了二 (1991) どの子ども意欲的に楽しく取り組むゲームを目指してーソフトボールの実践ー. 学校体育, 44 (12) : pp. 48-51.
- 3) 伊藤 隆 (1992) ソフトボール. 体育科教育, 40 (4) : pp. 45-47.
- 4) 田中佐俊 (1994) どの子ども特性を味わせるソフトボールの工夫ーティーバッティングソフトボールー. 学校体育, 47 (7) : pp. 50-53.
- 5) 引地秀美 (1997) 楽しいティーボールの実践. 学校体育, 50 (1) : pp. 26-28.
- H 堀井重人 (1999) 共通課題を設定したソフトボールの学習. 学校体育, 52 (1) : pp. 44-47.
- 6) 奥野暢通 (2011) ソフトボールのウィンドミル投法の高速度撮影による動作分析: 指導法に関する基礎的研究. 四天王寺大学紀要, 52 : 185-192.
- 7) 二瓶雄樹 (2012) 団体スポーツにおける個人を活かすチームマネジメントーC大学ソフトボール部の実践例ー. スポーツパフォーマンス研究, 4 : 16-25.
- 8) 佐藤理恵 (2012) ソフトボール競技のゲーム分析ー攻撃におけるボールカウント別打率ー. 東京女子体育大学・東京女子体育短期大学紀要, 47 : 79-83.
- 9) 吉村 正 (1990) ソフトボール. 体育科教育, 38 (2) : pp. 34-36.
- 10) 吉村 正・丸山克俊 (1991) ソフトボール. 体育科教育, 39 (3) : pp. 42-46.
- 11) 菊幸一 (2012) スポーツ文化論の視点. 井上俊・菊幸一編よくわかるスポーツ文化論. ミネルヴァ書房: 京都, pp2-5.
- 12) 佐伯聡夫 (1988) スポーツ社会学講義. 森川貞夫・佐伯聡夫. 大修館書店: 東京.
- 13) ジョン フィスク (1998) 抵抗の快樂ーポピュラーカルチャーの記号論 (山本 雄二訳). 世界思想社: 京都

【実践報告】

アクティブ・ラーニングにおける「投げる動作の習得」について ー 反転授業の実践より ー

但 尾 哲 哉（神戸親和女子大学）

背 景

文部科学省よりアクティブ・ラーニングにおける学修の形態が推奨されている。アクティブ・ラーニングを学修の形態として取り入れるための環境としてラーニング・コモンズを設置する大学も急増している。学修の形態が推奨され、学修の環境が整備される中で身体活動を伴う体育授業はいかにあるべきかを「反転授業」を用いて実践した結果報告である。

I はじめに

中央教育審議会の答申で、「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて ～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」を基軸にアクティブ・ラーニングが打ち出された（2012年8月）。同審議会答申の用語集によればアクティブ・ラーニングとは「教員による一方向的な講義形式の授業とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習方法の総称。学修者が能動的に修学することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループディスカッション、ディベート、グループワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である」と説明されている。

これを受け、身体活動を伴う体育授業でアクティブ・ラーニングをいかに実践すべきかを模索する中で「投げる動作の習得」を「反転授業」において実践することを試みた。

反転授業とは、事前に学習内容の解説を行い、受講生の理解を図り基本的な学習を自宅

や授業外の空き時間（予習）に行い、個別指導や問題解決学習など知識の定着や応用力の育成に必要な学習を授業中に行う授業スタイルである。

そこで、本研究では「投げる動作の習得」を目的とした反転授業の実践より、授業計画のあり方、受講生の反転授業の受け入れと活動態度、受講生の反転授業による投げる動作の習得および知識の定着を明らかにすることを目的とした。

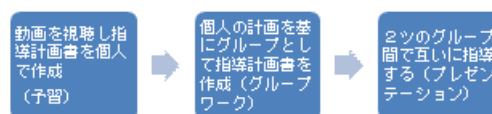
II 研究方法

1. 実施の概要

K S 女子大学スポーツ学科の実技科目「ソフトボール」において反転授業を行った。本時の学習の流れ（表－1）は、インターネット環境を活用し、日本ソフトボール協会ホームページ内学校体育ソフトボールガイドブック「ベースボール型」指導者用動画またはYouTubeで同じ動画を各自視聴しながら指導計画書I（表－2、次頁）を作成する。

各人の指導計画書を基にグループとしての指導計画書を作成する。次にグループ間で交互に指導を行う。この作業により能動的に学修を行い、さらにグループディスカッション、グループワークにおいて汎用的能力を養いながら、投げる動作の習得に取り組む。最後に授業担当者が、投げる動作における疑問点、応用的な指導方法についての補足説明を行う。

表－1 学習の流れ



2. 調査対象者

K S 女子大学スポーツ専攻学科1年生

表－2 指導計画書

指導計画書 I

学籍番号

氏名

以下のYOU TUBE 動画を視聴し、この指導計画書 I に要点を整理してください。

学校体育・ベースボール型 指導用動画

- ① 学校体育ベースボール型 「主動作につながる体作り」
- ② 学校体育ベースボール型 「ボールの握り方」
- ③ 学校体育ベースボール型 「肘の使い方」
- ④ 学校体育ベースボール型 「下半身の動き」

気を付ける点：各項目ともに、指導ポイントの順番に留意してください。

1、「ボールの握り方」

*個人差を考慮してください。

2、「肘の使い方」

*肩の使い方、手首の使い方も関連させ考えてください。

3、「下半身の動き」

*大きな2つのエネルギーを明確にしてください。

4、2と3が、連動したトータルな動きを考えてください。

*連動した動きを考えた時、2と3の動き以前に予備的な動作も発生します。

準備局面 ⇒ 主要局面 ⇒ 終末局面 （運動学の領域より）

2015年春学期開講科目「ソフトボール」受講生36名

3. 実施期間・実施場所

期間：2015年4月～5月「ソフトボール」授業内

場所：K S 女子大学グラウンド

4. 授業用視聴覚教材

日本ソフトボール協会 学校体育推進委員会作成「ベースボール型」指導用動画を使用した。

5. 質問紙法

第2週目講義内で「質問回答協力をお願い」^(※1)と題して配布。当日内に、教務担当事務のレポート提出用箱にて回収。36部配布36部回収100%回収率であった。回答は無記名である。

なお、質問紙の内容、本授業第1週目、第2週目における取り組みの趣旨、アクティブ・ラーニング、反転授業の意味を受講生に事前に伝えることにより、受講生から率直な回答や意見を得られないと判断し、アクティブ・ラーニング、反転授業の説明は事後である第3週目に行った。

Ⅲ 反転授業を取り入れた授業計画と実践

「ソフトボール」の授業は、春学期15週の15回開講である。その内の第1週目、第2週目、第3週目と第15週目を実施日とした。36名を5名7グループに分け実施。残り1名分は、1つのグループを6名とした。

グループ間での発表は、2つのグループ間での実施。残り1グループ分は、1つのグループを3つのグループで構成した。

<第1週目>

授業は、グラウンド内のベンチに座り実施した。授業前半40分内で点呼、アイスブレイキング、半期間の授業ガイダンスを行った。授業後半40分内で学習内容と進め方について指導計画書Ⅰ（表－2）を配布し説明を行った。視聴した動画は、以下の動画4編である。

① 学校体育ベースボール型「主動作につながる体作り」

② 学校体育ベースボール型「ボールの握り方」

③ 学校体育ベースボール型「肘の使い方」

④ 学校体育ベースボール型「下半身の動き」

内①「種動作につながる体づくり」は、投げる動作の全体的なイメージを把握するために視聴し、指導計画書作成項目には含めていない。また、4. _____の項目は③「肘の使い方」と④「下半身の動き」を受講生自身がまとめて作成する項目とした。

計画書作成のための要点として

- ・ 箇条書きで良いこと。
- ・ 重要なポイントである点と考える点を指導ポイントの順番に記入すること。

補足説明として

- ・ 指導計画書Ⅰ①～④の動画内容と1. _____～4. _____の作成項目の番号が一緒ではないこと。
- ・ ④下段文の、準備局面、主要局面、終末局面の説明
- ・ 計画書にはYou Tube動画としか明記されていないが、日本ソフトボール協会ホームページでも視聴が可能であること。
- ・ 最後に第2週目のグループメンバー発表を行った。

<第2週目>

グラウンド内のベンチ、階段等の座れる場所でグループワークを行うように指示を出した。また実際に動いての確認も積極的に行うようにも指示を出した。

活動内容は

- ・ 予習してきた内容をグループ内で各自が発表し、互いに不足している点を補い合いながらグループとしての指導計画書を作成した。
- ・ 次にグループ内でまとめた内容を2つのグループ間で互いに指導をし合った。この、学習の流れを（表－1）に示した。
- ・ 授業者は、グループ間を巡回し進行状況を見ながら、概ねの終了を確認しグループ

での活動を終えた。この間授業者は、受講生の能動的な活動に主を置き、観察と活動内容の記録に留めた。

- ・ 次に授業者は、受講生より投げる動作の疑問点、指導上の問題点、今日の授業で出た問題点等を聞きながら解説を行った。
- ・ 解説終了後に、「質問回答協力のおかげ」^(※1)用紙を配布当日内に回収する旨を伝えた。

<第3週目>

授業の導入で、アクティブ・ラーニング、反転授業の説明を行い、第1週目、第2週目の授業内容の理解を得た。また、第2週目の復習として再度「投げる動作」の確認を行っ

た。

授業の展開においては、各人が意識する点を確認しながら二人一組でのキャッチボールを行った。二人の間は、5 mからソフトボールにおける塁間までに距離を段階的に伸ばし、また1球ごとの投球間隔を長くもち、丁寧な投球を心掛けるように指示を出した。

<第15週目>

春学期授業最終日に、「投げる動作の」確認テストを実施した。主観的なテストであるが、出来る限りの客観性を持たすために①軸足、踏み込み足の方 ②重心の移動と回転 ③肩、肘の使い方、の3ポイントを評価基準として確認をした。

IV 質問紙回答結果

表一3 「質問回答協力のおかげ」

1) 「今回の予習課題に、どのくらいの時間がかかりましたか」 (時間は切り捨)

60分	8名	22.2%
50分	4名	11.1%
40分	10名	27.7%
30分	10名	27.7%
20分	3名	0.83%
10分	1名	0.27%

2) 「体育の授業で、予習をしたことはありますか」 (保健は省く)

はい	3名	0.83%
いいえ	33名	91.6%

3) 「今までに「投げる」の動きを授業で習ったことはありますか」

はい	19名	52.7%
いいえ	17名	47.2%

4) 「今回の授業で、今まで以上に「投げる」の理解は深まりましたか」

はい	35名	97.2%
いいえ	1名	0.27%

「はい、と答えたひとで、書けるひとは箇条書きで結構ですから理由を書いてください」

- ・ 動画、映像を詳しく見たから
- ・ 自分で指導ポイントを調べたから
- ・ 投げ方の予習をして実践したから
- ・ 調べた動作や、理論を自ら実践したから

- ・ 予習内容を、確認しながら投げたから
- ・ 予習して、その動きを考えながら投げたから
- ・ 友達と教え合うことで、より理解ができた
- ・ 予習する環境があったから
- ・ 予習内容を、詳しく指導してもらえたから
- ・ 細かく動作を確認しながら予習ができたから
- ・ 予習をしてから先生の話詳しく聞けたから
- ・ 互いに教えたり、教えてもらったりしたから
- ・ 予習して、今まで知らなかったことを知ったから
- ・ 友達と教えあったりして、悪いところがわかったから
- ・ 投げると言うことだけで、上半身の肩、肘、手首や、下半身などたくさんの部分を使ってエネルギーを作っているということがわかりました

記述者 30名 83.3%が肯定的な意見を述べている（同意の記述は省略して記載）

記述者の中に否定的な意見はなかった

無記述 3名 0.83%

V 考 察

以上の結果から、視聴覚教材を使用しての反転授業における「投げる動作の習得」において一定の成果を得ることができた。

成果として

- ・ 頻繁な説明が不要になり、学習時間の停滞が少なくなった。
- ・ 頻繁な説明や1回の説明時間が短くなり、運動学習量が多く確保できた。
- ・ 動画は再生が可能のため、細かなところの理解度が早かった。
- ・ 動画により他方面から動作を見ることができイメージがつかみやすかった。
- ・ 受講生は、単に動画を視聴するだけではなく、指導計画書を作成するために細かいところまでの理解があった。
- ・ グループ活動において進行するため「わからない」で終わることが少なかった。
- ・ 予習内容を実践する中で、受講生がまた受講生同士で積極的に投げる動作を学修していた。
- ・ 受講生は、予備知識があるために授業者からの説明も理解がしやすかった。
- ・ 15週目の確認テストにおいても評価基準とする動きは、受講生全員の理解があった。授業者は、なにより授業を多く停滞させなく進められたことが大きな成果であった。

一例として通常の授業で36名の受講生にボールの握り方を説明するのには、集合状態で説明を数回繰り返し、実際にボール握っている受講生の中を巡回指導することになる。しかし、今回の授業においては、受講生が事前に動画で視聴し、指導計画書を持っているため受講生同士の確認で、授業の停滞はなかった。受講生同士の、話し合いと互いの指導の中で授業が進んで行き、受講生の能動的な姿勢がうかがえた。質問4)の、今まで以上に「投げる」の理解は深まったかの質問結果からも97.2%の受講生が深まったと回答している。

（表－3）

授業者の一方向的な授業ではなく、受講生自身が、予習において「投げる動作」の学修に取り組み、その基礎的な知識を認知し、認知した内容をグループワーク、グループディスカッションで深め、さらにお互いを指導する実践する中で、投げる動作の動きを習得した。この過程の中で、受講生は基礎的な知識を知っても、次に人に伝える作業で問題に直面し、互いの考えを集約し解決策を見出していた。

以上のことから、動画を活用した、反転授業において「投げる動作の習得」に一定の成果が得られたと結論付ける。

【調査報告】

頭部へのボール接触事故に関するアンケート調査結果報告

～フェイスガードつきヘルメットの許可とその他安全に対する対応策の提言～

学連強化部 二 瓶 雄 樹（中京大学）

目的

この調査は、頭部へのボール接触事故の実態を明らかにし、外傷・障害の部位・程度を把握することを目的として実施されました。その結果から、“フェイスガードつきヘルメット”の必要性について言及し、安全なソフトボール競技の実施を目指すことを意義とします。

方法

このアンケート調査は2015年12月末に、インターネットのメールでの送信と各チームでの紙媒体での実施、そして郵送による結果の収集によって行われた。

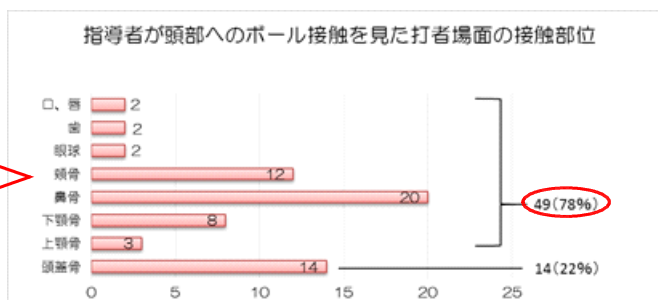
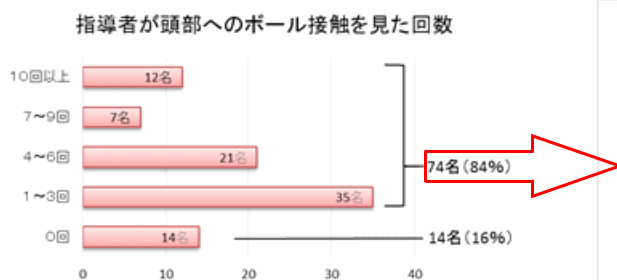
回答者

対象者は、全日本大学ソフトボール連盟に所属する男女62チームの指導者89名と選手1776名（2015年度全登録232チーム、全登録者4

979名）でした。指導者は平均年齢42.3歳、平均指導歴12.3年で男65名（73%）、女24名（27%）、男子のみの指導者が22名（25%）、女子のみの指導者が56名（63%）、両方の指導者が11名（12%）でした。そのうち監督が57名で45名（59%）が1部所属、26名（34%）が2部所属でした。選手は平均年齢19.8歳、平均競技歴9.5年で男子671名（38%）、女子1105名（62%）、そのうち投手337名（19%）、捕手200名（11%）、内野手733名（42%）、外野手485名（28%）でした。左打ちが754名（43%）、右打ちが967名（55%）、両打ちが45名（2%）で1部所属が1040名（64%）、2部所属が423名（26%）でした。

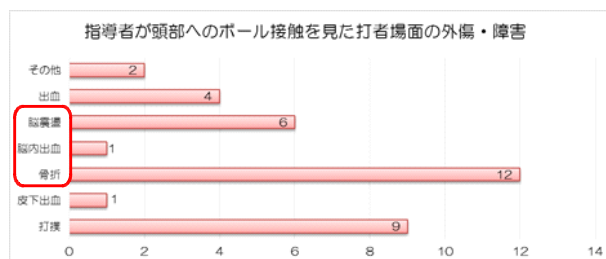
結果と考察

以下には、はじめに指導者の調査結果と考察、次に選手の調査結果と考察を述べる。



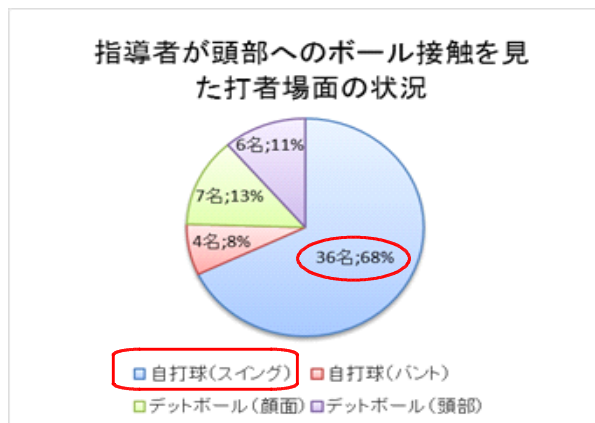
I. 指導者が現場で、頭部へのボール接触事故を直接目撃したことがあるのか、その有無とその目撃回数について訊いた。その結果、84%の指導者が頭部へのボール接触を目撃していることが明らかとなった。そのうち、49（78%）の接触部位が頭蓋骨（頭部：ヘルメット）を除く顔面部であることわかった。つまり8割をこえる指導者が頭部へのボール接触事故を目撃しており、そのうち約8割が防

具のない顔面部へのボール接触事故（最も悪い症状の事故）であることが明らかになった。



Ⅱ. 次に打者場面の外傷・障害の内容について訊いたところ、即生死に関わる脳内出血が1件、脳震盪、骨折などの重傷が18件あることがわかった。これは受傷した場合の衝撃の強さ、障害の重さ、つまりは頭部にボールが接触した場合の危険性の高さを示していると考えられます。

Ⅲ. 続いて指導者が頭部へのボール接触を目撃した打者場面の状況（最も悪い症状の事故）について訊いた。その結果、36名（68%）がスイング時の自打球、4名（8%）がバント時の自打球であったと回答した。特にインコースのライズボールが投球された場面での自打球事故が多く（自由記述結果）、この球種は同じベースボール型競技の野球にはないため、ソフトボール競技の特有の事象であると考えられる。またデットボールが頭部に接触した場合、最も悪い症状となる約半分が防具のない顔面部であることも明らかになり、前述同様危険性の高さを示した。



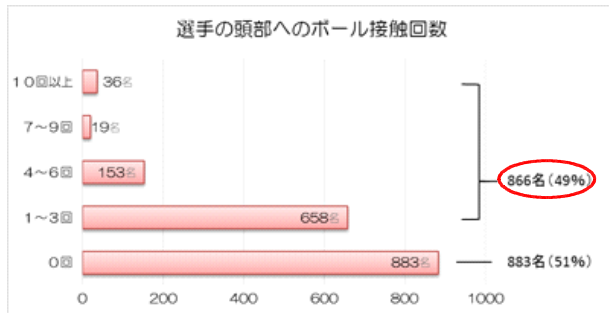
Ⅳ. このような打撃時の目撃だけではなく、走者時でも頭部へのボール接触事故を27名（37%）の指導者が目撃していることが明らかとなった。その状況は「内野のダブルプレー時の二塁からの送球」、「狭殺時」、「捕手からの送球」、「内野手の送球」、「クロスプレー時の送球」等があった。打者時同様、その症状は危険性の高い結果であった。しかし一方で、現在他国で市販されている、「フェイスガードつきヘルメット」は大型のものが多く、クロスプレー時には野手にケガを負わせる危険性、つまり新たな事故を誘発する

可能性も考えられる。これについては（自由記述）「着けるのはいいけど、それをつけることにより他のけがのリスクが増えないかが心配」や「着用により、守備者にけがを負わせる危険性があるため、打者および打者走者のみを使用に限定」等の回答があった。そのため走者の「フェイスガードつきヘルメット」の使用には慎重な判断が必要であり、また用具の開発（野手にケガを負わせるリスクの低い）をメーカー等に促す必要があると考える。

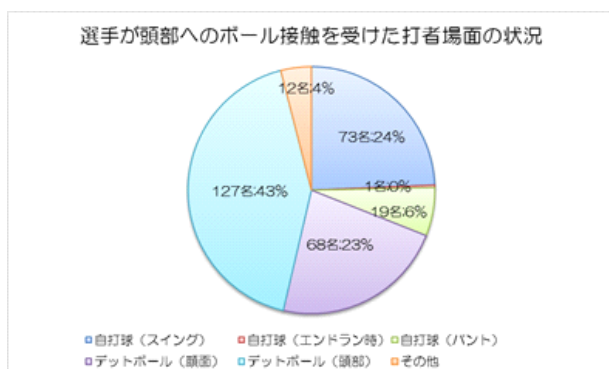
Ⅴ. 指導者に対して“フェイスガードつきヘルメット”の着用についての意見を訊いた。その結果、65名（74%）の指導者から「義務化しないまでも着用したければ認めるべき」という回答を得た。「着用を認めるべきではない」と回答した者はいなかった。この回答に対する理由（自由記述）では「プレイへの影響（視界・見え方）の懸念から義務化はしないまでも、要望、必要性に応じていく」や「頭部、顔面は重大なケガにつながる為、使用を認めるべき。選手の技術レベルによっては必要・不必要があるので選択できるようにすることが良いのでは」、「安全上は必要と考えるが義務化までは必要ないと思う（パフォーマンスの低下）着用したい者が着ければいいと思う（エルボガードのように）」等、頭部へのボール接触の危険性の高さに言及しつつも、着用は任意とすべきだという回答が見られた。以上のことから、「フェイスガードつきヘルメット」の着用は任意として認めるべきであると考え（その他、動作や視界に関する懸念もあった）。しかしその使用範囲については、前述したように走者が野手とのクロスプレー時に新たな事故を誘発する危険性も考えられるため、打者および打者走者に限定するのが妥当だと考える。

Ⅵ. 頭部にボールを接触したことのある選手は、866名（49%）おり、そのうち10回以上接触を経験した選手は36名（2%）であった。約半数の選手が頭部へのボール触事故を経験していることが明らかとなった。その場面は、

打者時が36%で約4割、走者時が9%で約1割の選手が頭部へのボール接触事故を経験していることがわかった。



VII. 打者場面での状況はデットボールが66%と最も多く、そのうち23%が顔面へのボール接触事故を経験していた。また自打球での経験者は30%であった。また打者時、走者時の外傷・障害では脳挫傷が3名、脳震盪が22名、骨折が26名経験しており、その頭部へのボール接触事故の危険性の高さが伺えたとともに、視力低下が3名おり、後遺症が残ることも明らかとなった。



VIII. 選手に対して“フェイスガードつきヘルメット”の着用についての意見を聞いた。その結果、1035名 (59%) の選手から「義務化しないまでも着用したければ認めるべき」という回答を得た。「着用をみとめるべきではない」と回答したものは116名 (7%) であった。指導者の回答同様、任意での着用を認めるべきだと考える選手が大半であることが明らかとなった。

まとめ

このように、頭部へのボール接触事故は大多数の指導者が目撃しており、半数の選手が経験している事象であった。また防具のない顔面部への接触事故は極めて重症度と危険性が高いと言える。さらに“フェイスガードつきヘルメット”“の着用については、認めるべきであるとの見解が大半を占めた。しかし、その着用範囲については限定する必要があると考える。以上のことから、全日本大学連盟加盟校のみが出場する大会（春・秋季各地区リーグ戦および決定戦、東西インカレ、全日本インカレなど）において、以下の対応策を提言する。

- ① “フェイスガードつきヘルメット”の着用を任意で認める。ただし、その他のヘルメットも含めヘルメット本体の色は同色でなければならない。
- ② “フェイスガードつきヘルメット”の使用は、打者および打者走者のみとし、塁上の走者はヘルメットを変更しなければならない。

この他、ソフトボール競技の安全性を確保するための意見として「投手へのフェイスガードを検討」や「キャッチャーのフルフェイスヘルメット」、「手の甲のガードも合わせて着用を認めるべき」等の新たな防具の許可を求める意見もあった。また「ランナーコーチのヘルメット着用」や「ホームでのブロック（禁止）」、「ベンチに打球が多く行くためベンチ前ネットがあった方がいい」等、周知すればすぐにでも安全性を確保できる意見も見られた。これらも今後、検討していく必要があるだろう。以上が今回の調査で得られた結果と考察、それらからの提言とする。

文責：中京大・二瓶
調査協力：城西大・長澤、
大阪国際大・西村

文部科学大臣杯第50回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

会期：平成27年8月28日(金)～9月1日(火)

会場：三重県伊勢市／磯部ふれあい公園・浜島ふるさと公園、他

大会概要

雨にも負けず4チーム入賞

大会記録長：堀 義光

本大会は志摩市、四季を通じて温暖な気候で、市全域が伊勢志摩国立公園に位置し、太平洋と英虞湾、的矢湾のリアス式海岸に囲まれた自然豊かな美しいまちです。古くから都に豊富な海産物を献上する「御食つ国（みけつくに）」と呼ばれ、カツオ漁や海女漁、英虞湾の真珠や的矢湾のカキ、アサリなどの養殖漁業、また観光のまちとして栄えてきました。

来年には、「伊勢志摩サミット」が志摩市賢島で開催されることで世界の注目を浴びています。

2021年には第76回国民体育大会が三重県で開催され、志摩市においてはソフトボールをはじめ3つの競技の運営に向けて準備が進められています。

志摩市磯部ふれあい公園ソフトボール球場他で、各ブロック予選を勝ち抜いた32チームの精鋭が一同に会し開催されました。

1日目は、朝方の大雨でグラウンドコンディションが悪く、早朝より関係者の皆様方のご尽力によりグラウンド整備が整い9時30分からスタートすることが出来ました。試合は、ナイターになり終了したのは21時近くまでかかりましたが、予定どおり16試合をすることが出来ました。2日目は、雨天のため順延となり3日目・31日は、天候にめぐまれて予定どおり12試合をすることができ、ベスト4が決定して立命館大学・日本体育大学・中京大学・福岡大学が準決勝へ駒を進めました。

最終日は、悪天候のためやむなく中止となりました。残ったチームは、本大会に入り非常に力を付けて強豪を破り勝ち上がってきただけに悔しいことと思います。しかしこれまで奮闘してきた力を今後に生かして活躍されることを期待します。

大会講評

大会史上初、無念の雨天中止

広報記録部長：水谷 博

大会初日は夜来の雨のため1会場を練習会場へ変更、2日は雨のために順延、そして予備日の4日目も雨、ついに準決勝戦と決勝戦を消化することが出来ず、50年のインカレ史上初の4校入賞という形で閉幕した。特に最終目については、微妙な天候であったために中止の決定は苦渋に満ちたものであった。選手やその父兄らの気持ちを察するに余りあるものがあつたが、大雨注意報が発令されている天気予報とグラウンド状況に百名近い大会役員の負担を考慮すればやむを得なかったものと思われる。

さて、試合結果だが、今大会も1回戦から強豪校同士が対戦する厳しい組合せになっていた。Aブロックでは東京勢と関西勢が激突したが4連覇を狙う早稲田大学を止めたのは関西リーグ2位の立命館大学であった。死のブロックになっていたBブロックは、やはり底力が一歩抜きん出ていた日本体育大学勝ち上がった。Cブロックは、東海ダービーを制した中京大学がベスト4へ進出した。Dブロックは、九州地区予選1位の福岡大学が西日本優勝の関西大学に猛打を浴びせて勝利し、九州地区のレベルの高さを示した。

男子らしい大味な試合もあつたが、総じて緩いグラウンドコンディションにもかかわらずスピーディーで緊迫感のある試合が多くあつたように思われる。ただ、試合中のマナー・応援の方法、そして大会本部から連絡される事項のチーム内への「徹底」についてはまだまだ課題が残されている。後者の不徹底に起因して監督が出場停止を言い渡されたという不祥事は、初めてのことであり誠に残念であった。

文部科学大臣杯第50回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

	8月29日(土)	8月31(月)	9月1日(火)
1. 国 士 舘 大 学(49)	6	5	
2. 大 阪 体 育 大 学(15)	0		5
3. 中 央 大 学(26)	1	3	
4. 京 都 産 業 大 学(37)	0		
5. 北 海 道 大 学(3)	1	4	
6. 立 命 館 大 学(33)	10		6
7. 早 稲 田 大 学(50)	2	3	
8. 神 戸 学 院 大 学(25)	0		
9. 日 本 体 育 大 学(50)	13	2	
10. 環 太 平 洋 大 学(9)	6		2
11. 城 西 大 学(21)	3	0	
12. 九 州 産 業 大 学(12)	0		
13. 国 際 武 道 大 学(22)	1	4	
14. 中 京 学 院 大 学(12)	2		0
15. 広 島 大 学(15)	2	2	
16. 熊 本 学 園 大 学(29)	0		
17. 沖 縄 国 際 大 学(21)	14	1	
18. 大 阪 経 済 大 学(2)	6		4
19. 東 京 学 芸 大 学(7)	0	2	
20. 常 葉 大 学(18)	7		
21. 信 州 大 学(10)	2	0	
22. 高 知 工 科 大 学(3)	9		9
23. 東 海 大 学(41)	5	7	
24. 中 京 大 学(45)	6		
25. 日 本 福 祉 大 学(4)	3	11	
26. 高 知 大 学(14)	2		1
27. 高 崎 経 済 大 学(29)	6	9	
28. 四 天 王 寺 大 学(5)	4		
29. 日 本 大 学 工 学 部(19)	2	4	
30. 福 岡 大 学(40)	10		8
31. 関 西 大 学(39)	3	2	
32. 岡 山 大 学(9)	1		

立命館大学

日本体育大学

準決勝と決勝は雨天のため実施できず4校入賞

中京大学

福岡大学

※ () 内は出場回数で、校名変更のあった大学は以前の名称での出場も含む。

試合結果

▼第1日（8月29日）1回戦

大阪体育大学 0000000 : 0
国士舘大学 230100x : 6

[大] ●松田崇志－河井友希・高松健太

[国] ○高木 光・池田空生・星野嵩幸－
服部 祐介

(本)西田勘汰 (三)後藤勇大・岩田健太郎

【評】国士舘大学、完封で初戦突破！

国士舘大学は初回一死一・二塁から4番後藤勇大の右中間を抜ける三塁打で二者生還、2点を先取する。2回には二死二塁から2番久保が一・二塁間を抜ける適時打で1点を、3番西田の中堅越本塁打でさらに2点を追加。4回には8番岩田が右翼右を抜ける三塁打で出塁、9番山口の一塁への打球の間に岩田の代走岡村が生還、1点を追加した。投げては先発高木が5回1安打、続く池田、星野がそれぞれ1回無失点で大阪体育大学に勝利した。大阪体育大学は、2回と5回に走者を出すも後続がなく無得点で敗退した。

中央大学 0001000 : 1
京都産業大学 0000000 : 0

[中] ○川村卓未－井原奨之

[京] ●松岡涼介－杉本 幸紀

(二)藤野海聡・竹崎正起

【評】中央大学が1点を守りきり勝利！

中央大学は4回一死満塁から7番川村の左翼への犠飛で1点を挙げ、この1点が決勝点となった。投げては先発川村が初回と3回に危機を迎えるが、後続を抑えて危機を脱した。

一方、京都産業大学は、初回先頭藤野の二塁打、3回には一死から9番竹崎の二塁打で好機をつかむが力が一歩及ばず敗退した。

立命館大学 000415 : 10
北海道大学 000001 : 1

[立] ○中原隼生、相佐瞭太－田苗遼平

(本)藤野慎之助②、岡野孝祐

(三)川内雄大 (二)岸 英太

[北] ●木村 拓－十良澤健二

(本)細川卓翁 (二)井上 知厚

【評】立命 北海道を圧倒し二回戦に進出

3回まで投手戦で進んできたが、立命館大学は4回無死一塁から5番藤野の中堅越本塁打で2点を先制。さらに無死一塁から7番岡野の中堅越本塁打で2点を追加、5回には4番岸の右中間二塁打を足掛かりに1点を、6回には二死一・二塁から3番川内の中堅越三塁打、さらに5番藤野のこの日2本目となる右翼越え本塁打で計5点を入れて圧勝した。北海道大学は5回まで相手投手中原に抑えられていたが6回一死二・三塁から3番十良澤の左翼への犠飛で1点を挙げ完封を阻止した。

早稲田大学 0000110 : 2
神戸学院大学 0000000 : 0

[早] ○松木俊皓、吉田尚央－大嶋 翼

(三)水本将文、塩沼泰成 (二)塩沼泰成

[神] ○島袋卓也－仲本 匡

【評】早稲田大学が完封で二回戦進出

早稲田大学は5回無死一塁から9番塩沼の左中間二塁打で1点を先制、6回には8番水本9番塩沼の三塁打で1点を追加。投げては先発松本、二番手吉田の継投で神戸学院大学を完封、二回戦に進出した。一方、神戸学院大学は6回一死満塁と一打逆転の好機をつかむが、後続が断たれて涙をのんだ。

環太平洋大学 00123 : 6
日本体育大学 33043x : 13

[環] ●先村 翼、大原涼太郎－山内貴博

(本)井上知厚、仲森敦也、尾本心平、

武末翔一 (二)井上知厚

[日] ○河野拓郎、中坂 誠－山内直人

(本)山内直人、古賀健太、高野晃平、

(三)古賀健太 (二)高野晃平、湯浅拓人

【評】日本体育大学がコールドで逃げ切り

1回戦から東のチャンピオンと西の2位が激突したこの試合は、東の日本体育大学が圧勝した。初回二死一・二塁から5番古賀の左中間三塁打などで3点を先制。2回には二死一・三塁から4番

山内の右翼越本塁打で3点を追加、4回には一死満塁から5番古賀の中堅越満塁本塁打で4点を、5回には一死から9番高野の左翼越本塁打から4連続長短打で計3点を入れてコールドで勝利した。一方、環太平洋大学は3回二死から1番井上の右翼越本塁打、4回と5回と3本の本塁打で計6点を入れて追いすがり意地を見せたが、余りに序盤の失点が大きく緒戦で涙をのんだ。

九州産業大学 0000000 : 0
城西大学 300000x : 3

〔九〕●金山佳太ー鳥山 健

(二)木下孝祐

〔城〕○宮原 廉、黒沢勝也、宮原廉ー
飯田敏弘

【評】城西大学が初回の得点を守り抜く

城西大学は初回無死一・二塁から足をからめた攻撃で3点を挙げてそのまま逃げ切った。一方、九州産業大学は、毎回走者を出すも城西大学の3投手から決定打が奪えず、あと一歩及ばなかった。

国際武道大学 0000001 : 1
中京学院大学 1000001x : 2

〔国〕●滝口悠真ー大曾根教雄

〔中〕○竹本流星ー西里博樹

(二)藤原雄歩、高橋拓海

【評】中京学院大学がサヨナラ勝ちで2回戦進出

中京学院大学は初回一死一・二塁から4番荒川の二遊間を抜ける適時打で1点を挙げ、7回二死満塁から4番荒川が一塁への内野安打で捕師が生還。サヨナラ勝ちを収めた。一方、国際武道大学は7回に一死一・三塁から1点入れ同点に追いつくが、あと一打が出ず惜敗した。

広島大学 0000020 : 2
熊本学園大学 0000000 : 0

〔広〕○庄林 希、片岡真一ー小野弘汰

(本)庄林 希

〔熊〕●江藤 紘一ー小原諒也

【評】広島大学が一打で勝負を決める

白熱した投手戦に決着をつけたのは広島大学だ

った。6回一死一塁から3番庄林が右翼越本塁打で2点を入れて勝利した。一方、熊本学園大学は2回と6回に得点圏内に走者も進めるも、相手投手に抑え込まれ惜敗した。

沖縄国際大学 20453 : 14
大阪経済大学 30300 : 6

〔沖〕○島袋卓也、金城太樹、島袋卓也、

伊波政樹ー大湾貴登

(本)大湾貴登 (三)仲村誉士

(二)島袋卓也、金城太樹、仲村誉士、

上原 正人

〔大〕●丸山敬太、丹羽大輝ー森内遼也

(三)山本浩之

【評】沖縄国際大学がコールドで2回戦進出！

沖縄国際大学は初回先頭大湾が中堅越本塁打と菊池、興儀、崎間の3連続単打で2点を先制、1点を勝ち越された3回無死一・二塁から4番崎間の三遊間適時打と5番金城の左翼越二塁打等で4点を入れ逆転する。同点に追いつかれた4回無死二・三塁から3番興儀の左翼への犠飛、6番仲村の左中間二塁打などで5点を、5回には仲村の三塁打などで3点を入れ試合を決めた。一方、大阪経済大学は初回一死一・二塁から4番山本の右翼三塁打などで逆点、3回には相手投手の乱れから3点を入れ追いついたが、あと一歩及ばなかった。

東京学芸大学 00000 : 0
常葉大学 00034x : 7

〔東〕○藤井 峻ー池田岳史

〔常〕●田村幸也ー佐藤拳士

(本)乾 翔太、酒井健志郎

【評】乾 翔太

常葉大学が東京学芸大学に圧勝

2年連続で同じ顔合わせとなったこの試合は、常葉大学が圧勝した。4回無死一塁から5番乾の中堅越本塁打などで4点を先制、5回には二死一・二塁から7番酒井の中堅越本塁打で3点を追加しコールドで試合を決した。投げては先発田村が三塁を踏ませない投球で勝利に貢献した。東京学

芸大学は、1 回、2 回、5 回と二塁までは走者を
出すが、本塁までは届かず完封を喫した。

高知工科大学 0 5 0 3 1 : 9
信 州 大 学 0 0 0 2 0 : 2

[高] ○安堵和博、木下稜太、赤木亮太－
藤田浩史、上瀬恭平

(本) 青野 巧 (三) 熊田航平

[信] ●筆脇伸紘－大日向桂作

(本) 大日向桂作

【評】高知工科大学圧勝で二回戦進出

高知工科大学は 2 回一死満塁から 1 番熊田の走者一掃の中堅越三塁打などで 5 点を先制、4 回一死満塁から 3 点を追加、5 回には一死から 2 番青野の右翼越の本塁打で 1 点を追加。投げては先発安堵が 4 回に 2 点を失うものの相手の打線を封じ込めコールドで二回戦に進出した。一方、信州大学は 4 回二死一塁から 6 番大日向が左翼越本塁打で 2 点を返し反撃に出るが、後続が断たれ涙を飲んだ。

中京大学 0 0 4 0 0 2 0 : 6
東海大学 0 3 0 1 0 1 0 : 5

[中] 古橋和也、○関口幸輝－水本健太

[東] ●高橋宏允－御手洗昂季

(本) 磯部白帆、中村健人

【評】中京大学が東海大学との接戦を制す

中京大学は 3 点を先制された 3 回単打と足をからめた攻撃で 4 点を挙げ逆転し、4 回に同点とされるが 6 回手堅い攻撃で 2 点を挙げた。投げては先発古橋から代わった関口が 1 点差にまで詰め寄られるが、後続を断ち切り勝利した。一方、東海大学は、2 回投手の乱れから 3 点を挙げ先制、1 点差とされた 4 回には 6 番磯部の左翼越本塁打で同点に追いついた。再逆転された 6 回には 5 番中村の中堅越本塁打で 1 点差としたが、後続が断たれて涙をのんだ。

高 知 大 学 2 0 0 0 0 0 0 : 2
日本福祉大学 0 0 0 1 2 0 x : 3

[高] ●田中裕也－日戸遼輔

(本) 田中雄大

[日] ○相島宏郁－井上 力

(三) 内堀直樹 (二) 安武卓哉、山口孝平
鈴木雄大

【評】日本福祉大学、逆転で二回戦に進出！

日本福祉大学は 4 回一死二塁から、6 番内堀の右翼越三塁打で 1 点を、5 回には一死一塁から 2 番代打山口が左中間を抜ける二塁打を放ち三塁走者安武が生還同点に追いつく。さらに走者二・三塁となった所で 4 番寺澤の左翼への犠飛で走者杉田が生還逆転に成功する。投げては先発相島が初回の 2 点をとられたものの、その後は得点を許さず勝利に貢献した。一方、高知大学は初回一死満塁から 5 番片岡の押し出し死球、6 番渋谷の中堅前適時打で 2 点を先制したが、その後相手投手の好投に阻まれ惜敗した。

高崎経済大学 0 0 4 0 1 0 1 : 6
四天王寺大学 1 0 0 0 1 1 1 : 4

[高] ○赤坂拓郎－橋野一哉

(三) 青沼良介、橋野一哉

[四] ●北出修茂、新川 優－山崎耕作

(三) 高畑大紀② (二) 新川 優

【評】高崎経済大が四天王寺大との接戦を制す

高崎経済大学は 1 点差とされた 3 回一死三塁から 4 番赤坂が左中間への適時打で同点とすると、5 番青沼と 7 番橋野の三塁打で計 4 点を挙げ逆転、5 回と 7 回にも 1 点ずつを挙げ四天王寺大学の追撃をかわした。投げては先発赤坂が追いつかれそうになるも、粘りのある投球で相手打線を封じ込めた。一方、四天王寺大学は初回先頭高畑の右翼越三塁打を足掛けに 1 点を先制、6 回には 6 番新川の二塁打、7 回には高畑の三塁打をきっかけに 1 点ずつを挙げるもあと一歩及ばなかった。

福 岡 大 学 0 1 6 1 2 : 10
日本大学工学部 1 1 0 0 0 : 2

[福] ○多久島力也、石田悠太－山中洋介

(本) 難波成旭② (三) 喜多村周平

(二) 安部秀隆 山中洋介

[日] ●菅野和輝ー込山健太郎

(二)前川昭平

【評】福岡大学 逆転コールド勝利で二回戦進出

福岡大学は1点差の3回無死一塁から3番難波の右翼越本塁打、続く4番喜多村の左中間三塁打などで6点を挙げ逆転、さらには4回には難波の2打席連続の本塁打で1点を追加、5回には一死一・三塁から4番喜多村の中堅への犠飛びなどで2点を追加した。投げては先発多久島が4回2失点で抑え、2番手石田が1回を3連続三振で試合を締めた。一方、日本大学工学部は1回に1点を先制し、同点とされた2回には二死二・三塁から1番前川の左翼前適時打で一度は追い越すも3回以降相手投手陣に阻まれ得点することはできなかった。

岡山大学 0000001:1

関西大学 120000x:3

[岡] ●川上賢人ー三村友洋

(二)川上賢人

[関] ○松田祐汰ー黒田裕太

(本)岡田知洋

【評】関西大学が逃げ切って二回戦進出

関西大学は初回一死一・二塁から4番太田の中堅への飛球で二死となるが、二塁走者宮瀧が一気に生還1点を先制する。2回には一死一塁から8番岡田の左翼越本塁打で2点を追加する。投げては川上が要所をおさえる投球で7回に1点を取られるが逃げ切って勝利した。岡山大学は7回8番川上の二塁打で出塁、走者一・三塁から1番真壁の中堅前適時打で1点を返すが、後続が断たれて惜敗した。

▼第2日(8月30日)雨天中止

▼第3日(8月31日)2回戦

中央大学 0000210:3

国士舘大学 012011x:5

[中] ●川村卓未ー井原奨之

(三)川村卓未

[国] ○高木 光ー服部祐介

(本)西田勘汰、後藤勇大 (二)中島優人

【評】国士舘大学が先行逃切り

国士舘大学は2回無死一塁二塁から6番高木の安打で先制し、続く3回には3番西田の2点ホームランで追加点をあげ、5回に1点差にされた直後、代打中島の二塁打で追加点を挙げ、さらに6回4番後藤の本塁打でだめ押しの1点をあげて逃げ切った。一方、中央大学は5回7番川村の三塁打などで2点を返し、6回にも追加点を挙げたが、あと一歩が及ばなかった。

立命館大学 0110200:4

早稲田大学 0000201:3

[立] ○中原隼生ー田苗遼平

(本)川内雄大 (二)岡野孝祐、内田拓也

[早] ●松木俊皓、豊田誉彦、松俊 皓、

吉田尚央ー大嶋 翼

(三)山口晋平

【評】立命館大 接戦で早稲田大の4連覇を阻む

立命館大学は2回失策と犠打で二死三塁とし、8番奥村渉の三遊間タイムリーで1点を先制する。3回には3番川内雄大の右翼越本塁打で1点。5回には1番から3連打で無死満塁から4番岸英太の死球で1点、5番藤野慎之助の中堅犠飛で追加点を得リードを広げた。一方、早稲田大学は5回裏二死二塁三塁から3番溝口聖の適時打で2点を還した。7回には守備の乱れから3番溝口聖の左翼邪犠飛で1点差までせまるも及ばなかった。

城西大学 0000000:0

日本体育大学 002000x:2

[城] ●宮原 廉ー飯田敏弘

[日] 河野拓郎ー山内直人

(三)湯浅拓人 (二)河野拓郎

【評】日本体育大学、完封勝ちで準々決勝へ進出

日本体育大学は3回無死から9番高野晃平・1番谷本卓成の連打で一二塁とし、2番湯浅拓人の遊撃ゴロが失策を誘い1点を先取。1死後、4番山内直人の中堅犠飛で2点目をもぎ取る。河野投手は3安打、9奪三振で城西大学の攻撃を封じた。

一方、城西大学の宮原投手は被安打4、奪三振6の好投を見せたが報われなかった。

広島大学 0000200 : 2
中京学院大学 200020x : 4

[広] 庄林 希、●片岡真一ー小野弘汰

(三)小野弘汰 (二)新谷恭平

[中] ○竹本流星、松本和也ー西里博樹

(三)田中琢也、高橋拓海

(二)藤原雄歩、西里博樹、荒川侑介

【評】中京学院大学 突き放して準々決勝戦へ

中京学院大学は1回3番藤原の二塁打、4番荒川の安打で先取点を挙げ、5番西里の二塁打で2点目を挙げた。同点にされた5回に2番高橋の三塁打、3番藤原の安打、4番荒川の二塁打で2点を挙げて試合を決めた。一方、広島大学は5回8番門田が四球で出塁し続く9番小野の三塁打、1番赤城の安打で同点としたが、その裏中央学院大学に2点を獲られ惜敗した。

沖縄国際大学 0001000 : 1
常葉大学 010100x : 2

[沖] ●島袋卓也ー大湾貴登

(本)與儀翔平

[常] ○田村幸也ー佐藤拳士

(本)乾翔太

【評】常葉大学、接戦をものにする

常葉大学は2回4番荒木の四球を足がかりに6番田村の安打で先制し、4回には5番乾のセンターオーバーのホームランで2点目をあげた。一方、沖縄国際は、3番與儀の本塁打で同点としたが、その後、常葉田村投手に抑えられて涙をのんだ。

高知工科大学 00000 : 0
中京大学 00421x : 7

[高] ●安堵和博、赤木亮太ー藤田浩史、

上瀬 恭平

(二)熊田航平

[中] ○古橋和也ー水本健太

(本)佐野悠真、生田宗範 (三)生田宗範

【評】中京大学5回得点差コールド

中京大学は0対0で迎えた3回9番黒田、1番佐野俊介の連続四球と4番鈴木 of 安打でまず1点、続く5番佐野悠真の3点ホームランでこの回一挙に4点を挙げ試合を有利に進めた。続く4回には8番三島、1番佐野優介、2番青野の安打で6点目、5回には6番生田のホームランで7点目を挙げて、5回コールドで準々決勝にこまを進めた。一方、高知工科大学は中京大学古橋投手に抑えられ、散発3安打で三塁も踏ませてもらえなかった。

日本福祉大学 03101213 : 11
高崎経済大学 10100601 : 9

[日] 相島宏郁、太田悠貴、○宮城太亮ー井上力

(本)安武卓哉 (二)宮城太亮②、安武卓哉、井上 力

[高] 赤坂拓郎、●多胡和輝ー橋野一哉

(本)橋野一哉 (二)青柳晴帆、青沼良介、鈴木裕貴

【評】日本福祉 延長を制し準々決勝戦進出！

日本福祉大学は、2回に逆転するも6回に再逆転され、7回に追いつく。延長の8回、一死満塁で4番寺澤のセンター犠牲フライで勝ち越し、6番内堀のセカンド強襲安打で2点を追加し勝利をものにした。一方、高崎経済大学は、6回に本塁打を含む6本の長短打を集中させ、6点を挙げるも、終盤に好リリーフした宮城投手を打ち崩すことができずに惜敗した。

福岡大学 0040000 : 4
関西大学 0002000 : 2

[福] ○石田悠太ー山中洋介

(本)難波成旭 (二)多久島力也

[関] ●高桑公岐、松田祐汰ー黒田裕太

(二)那須 一

【評】福岡大学先行逃げ切りでものにした

福岡大学は3回7番原口の安打と、8番多々島の二塁打で先制点を挙げ、1番伊達の安打と3番難波の2点ホームランで、この回一挙に4点を挙げ試合を決めた。一方、関西大学は4回4番太田の死球と5番那須の二塁打、7番穂束の安打で2点を返したが、後続を断たれ惜敗した。

▼第3日（8月31日）準々決勝戦

国士舘大学 03100010 : 5
立命館大学 30020001x : 6

[国] 高木 光、星野嵩幸、●池田空生－
服部祐介

(二)横山翔大

[立] 相佐瞭太、○中原隼生－田苗遼平

(本)内田拓也、藤野慎之助、奥村 渉

(二)岸 英太

【評】立命館 タイブレーカーを制して準決勝戦へ!!

立命館大学は、初回先頭打者内田の中堅越え本塁打で先制点を挙げ更に4番岸の二塁打でチャンスを拡げ5番藤野の2点本塁打で初回3点を挙げた。その後1度は、逆転されたが4回5番藤野が内安打で出塁し二死8番奥村の2点本塁打で逆転した同点で迎えた8回一死一・二塁で3番川内の右翼前安打でサヨナラ勝利を収めた。

一方、国士舘大学は、2回5番後藤が中堅前安打で出塁し7番8番の連続安打で無死満塁のチャンスを作り1番横山の2塁打で同点とし、更に3回には、逆転した。その後得点され逆転をゆるしたが、7回には2番久保が中堅前安打で出塁5番後藤の中堅前安打で生還し同点とした。8回にもチャンスを作ったがあと1本が出ず惜敗した。

日本体育大学 0100100 : 2
中京学院大学 0000000 : 0

[日] ○河野拓郎－山内直人

(三)古賀健太、湯浅拓人 (二)山内直人

[中] ●竹本流星－西里博樹

【評】

日本体育大学は、2回4番古賀の三塁打でチャンスを作り7番河野の中堅手への犠牲打で先制した。さらに5回無死から8番鈴木の中堅前安打で出塁し二死から2番湯浅の三塁打で貴重な追加点を挙げた。投手河野は、9奪三振を奪う好投で勝利し準々決勝への進出を決めた。

一方、中京学院大学は、相手投手の好投により2安打9奪三振に抑えられ、三塁を踏むことなく

敗れ去った。

中京大学 6200010 : 9
常葉大学 1010011 : 4

[中] ○花岡大輝、関口幸輝－水本健太、
明松憲志

(三)生田宗範② (二)佐野俊介

[常] ●田村幸也－佐藤拳士

(本)庄司佳弘、佐藤圭亮、阿部田拓也

酒井健志郎

【評】中京大学、大量得点で準決勝へ

東海ダービーとなった準々決勝戦、中京大学は初回打者12人の猛攻で6点を挙げた。2回にも5番佐野が四球で出塁しすぐに盗塁し一死二塁から6番生田の右翼越え三塁打で追加点を挙げ試合を優位に進めた。花岡・関口2投手も要所を抑える好投で打線に依って準決勝へ進出した。

一方、常葉大学は、初回先頭打者庄司の右翼越え本塁打で反撃し3回には、2番佐藤の中堅越えの本塁打で追加点を挙げ更に、6回7回にも本塁打で追加点を挙げた。本塁打がいずれもソロ本塁打で追撃ならず敗れた。

日本福祉大学 001000 : 1
福岡大学 210104x : 8

[日] 相合勇輝、●宮城太亮、太田悠貴－
井上 力

(三)安武卓哉

[福] ○多久島力也－山中洋介、板野祥平

(本)多久島力也 (二)難波成旭

【評】福岡、6回の乱れに乗じてコールド勝ち

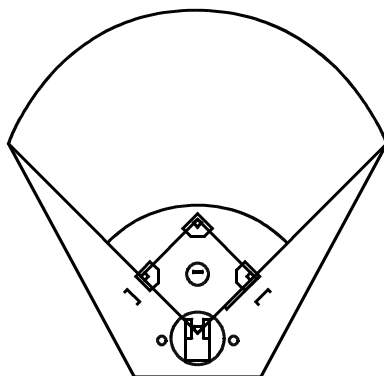
福岡大学は初回一死二塁から3番難波の二塁打で先制点を挙げ2回にも追加点を挙げさらに4回には8番多久島の左翼越え本塁打で得点し、6回には死球と2本の安打で二死満塁として4番喜多村の中堅前安打で得点差コールドゲームとした。多久島投手は、1点に抑える好投で勝利に貢献し準決勝へコマを進めた。

一方、日本福祉大学は、初回安武が四球で出塁し二死一塁・三塁のチャンスを作ったが後続なく、3回無死から1番安武の右翼線を抜く三塁打でチ

チャンスを作り3番井上の中堅への犠打で1点を得点したが涙をのんだ。

▼第4日（9月1日）準決勝戦：雨天中止

▼第4日（9月1日）決勝戦：雨天中止



全日本大学(男子)選手権大会入賞校・入賞回数

大学名	優勝	2位	3位	入賞
日本体育大学	28	5	4	1
国士舘大学	4	7	6	
早稲田大学	4	3	7	
中京大学	3	6	7	1
東海大学	2	5	6	
立命館大学	2	2	3	1
沖縄国際大学	2		2	
京都産業大学	1	4	5	
中京学院大学	1	1	1	
環太平洋大学	1	1		
琉球大学	1			
福岡大学		4	7	1
高崎経済大学		3	1	
同志社大学		3	1	
学習院大学		1	2	
神戸学院大学		1	6	

大学名	優勝	2位	3位	入賞
関西大学		1	5	
国際武道大学		1	1	
都留文科大学		1		
広島修道大学			4	
九州東海大学			2	
茨城大学			1	
愛媛大学			1	
愛知大学			1	
大阪体育大学			1	
山梨学院大学			1	
龍谷大学			1	
九州産業大学			1	
熊本学園大学			1	
九州共立大学			1	
高知工科大学			1	

※50回連続出場校：日本体育大学・早稲田大学・国士舘大学

男子大会打撃ベスト10（規定打席数7以上）

順 位	位 置	選 手 名	大 学 名	打 打 安 得 打 犠 牲 四 死 三 盜 殘 打 出 本 三 二 															
--------	--------	-------	-------	---------------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

男子大会投手成績ベスト10（規定投球イニング数7以上）

順位	選 手 名	大 学 名	投球回	打 者	打 数	被 安 打	失 点	自 責 点	被 犠 牲 打	与 球	与 球	奪 三 振	被 本 塁 打	暴 行	不正	投 球 数	防 御 率	勝 試 合	負 試 合	試 合 数
1	川村 卓未	中 央	13	50	45	11	5	0	2	3	0	8	2	0	0	198	0.00	1	1	2
1	宮原 廉	城 西	13	50	43	8	2	0	1	5	1	24	0	1	2	238	0.00	1	1	2
3	松田 祐汰	関 西	11 1/3	47	44	11	1	1	0	3	0	6	0	0	0	175	0.62	1	0	2
4	松岡 涼介	京都産業	7	30	26	6	1	1	1	0	3	6	0	1	0	106	1.00	0	1	1
5	河野 拓郎	日本体育	18	67	62	10	3	3	1	3	1	24	2	1	1	267	1.17	3	0	3
6	中原 隼生	立 命 館	17	71	59	11	4	3	4	6	2	11	0	0	1	269	1.24	3	0	3
7	庄林 希	広 島	10	42	39	9	2	2	0	3	0	11	0	0	0	174	1.40	1	0	2
7	多久島力也	福 岡	10	42	31	4	3	2	2	7	1	5	0	0	0	161	1.40	2	0	2
9	竹本 流星	中京学院	19	78	67	11	5	4	2	8	1	29	0	1	0	307	1.47	2	1	3
10	石田 悠太	福 岡	8	33	27	5	2	2	2	3	1	8	0	0	0	146	1.75	1	0	2



文部科学大臣杯第50回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

会期：平成27年8月28日(金)～9月1日(火)

会場：三重県伊勢市／大仏山公園野球場・スポーツセンター、他

大会概要

予備日も雨天で4チーム入賞

大会記録長：吉田ケイ子

伊勢市は、四季を通じて温暖な気候で市全域が伊勢志摩国立公園内に位置しリアス式海岸に囲まれた自然豊かな町、また多くの海産物を献上する「御食つ国（みけつくに）」と呼ばれかつお漁、海女漁、英虞湾の真珠や牡蠣、あおさなどの養殖漁業、また観光の町として栄えたところです。

開会式は男女一緒に、三重県営サンアリーナに於いて行われました。男女各ブロックを勝ち抜いた精鋭、男子女子それぞれ32チームが集まり盛大に行われ、地元皇學館大学のよさこい部「雅（みやび）」によるよさこい踊りで締めくくられました。

大会初日は、曇り空の中3会場では時間通りに行われたが、1会場が前日の雨で急遽会場を移動というハプニングがあった。開催地協会の役員の皆様のご尽力に支えられて各会場とも白熱した試合が展開された。2日目は雨のため順延となり3日目に2回戦、準々決勝が行われた。大会予備日の4日目は準決勝、決勝が行われる予定であったが、またもや雨にたたられ、試合をすることができず、中京大学、東海学園大学、東京富士大学、日本体育大学、4校の同時入賞という形で大会は閉会の運びとなった。

なお、大会記録の面からは、中京大学の2回戦での二塁打を含む7連続安打8得点、17安打の14得点は最多記録には及ばないものの見事な記録と思われる。また、タイ記録だが、東海学園大学の金子真衣選手は1回戦の富士大学戦で最多本塁打1試合2本、2打席連続本塁打の記録があった。

大会講評

大会史上初の4チーム入賞は遺憾

広報記録部長：水谷 博

今回も1回戦から強豪校同士が対戦する厳しい組合せになっていた。特に、東京都リーグ優勝の早稲田大学と関西リーグ優勝の園田学園女子大学、関東地区予選1位の山梨学院大学と東海地区予選2位の中京大学の対戦はその最たるものであろう。

ブロック別に見ていくとEブロックでは、この緒戦に勝利して勢いに乗った中京大学が、前年度優勝の東京国際大学も撃破して勝ち抜けた。Fブロックでは西日本優勝の東海学園大学が各地区の強豪チームを倒してベスト4へ勝ち上がった。その戦い方には余裕すら感じられた。Gブロックは東日本優勝の東京富士大学が武庫川女子大学と大阪大谷大学の関西勢、東京都春季リーグ戦と東日本で辛酸をなめて奮起が期待された伝統ある東京女子体育大学を打ち破った。その戦いは決して楽なものではなかったはずであるが、確かな実力を有している証左であろう。Hブロックも死のブロックであった。東京都の春の覇者である早稲田大学を1回戦で破った園田学園女子大学が、その勢いで勝ち抜けかと思われたがそれを阻止したのは、50回連続出場の古豪日本体育大学であった。これは粘りに粘った伝統の力であろう。

準決勝戦は、東京富士大学×日本体育大学と中京大学×東海学園大学という東京地区・東海地区のダービー戦で、決勝戦は東西2大学の対決になるところであった。近年にない高いレベルでのいろいろな意味で興味深い試合が展開されなかったのは、誠に遺憾であった。ただ、最後まで試合の実施に向けてご尽力をいただいた地元役員の皆様には記して御礼申し上げます。

文部科学大臣杯第50回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

	29日(土)	31日(月)	9月1日(火)
1. 山梨学院大学(7)	5	14	
2. 中京大学(38)	6		
3. 東海大学(28)	10	0	7
4. 中国学園大学(5)	3		
5. 東京国際大学(5)	7	1	
6. 環太平洋大学短期大学部(18)	0		1
7. 国士舘大学(21)	8	0	
8. 鈴鹿大学(7)	5		
9. 富士大学(11)	0	7	
10. 東海学園大学(14)	3		6
11. 関東学園大学(5)	1	0	
12. 立命館大学(14)	0		
13. 日本女子体育大学(46)	0	3	
14. IPU環太平洋大学(9)	5		0
15. 金沢学院大学(6)	1	1	
16. 大阪国際大学(18)	0		
17. 日本福祉大学(3)	0	1	
18. 城西大学(13)	1		0
19. 福岡大学(18)	0	3	
20. 東京女子体育大学(50)	7		
21. 大阪大谷大学(8)	0	5	
22. 東京富士大学(4)	3		5
23. 武庫川女子大学(40)	7	2	
24. 文教大学(11)	0		
25. 美作大学(2)	1	7	
26. 日本体育大学(50)	8		3
27. 天理大学(3)	1	5	
28. 松本大学(11)	8		
29. 奈良学園大奈良文化女子短大(2)	1	2	
30. 東北福祉大学(13)	0		0
31. 園田学園女子大学(38)	6	6	
32. 早稲田大学(12)	1		

中京大学

東海学園大学

準決勝と決勝は雨天のため実施できず4校入賞

東京富士大学

日本体育大学

※ () 内は出場回数で、校名変更のあった大学は以前の名称での出場も含む。

試合結果

▼第1日（8月29日）1回戦

山梨学院大学 000230000 : 5
中 京 大 学 100040001x : 6

[山] 板垣明星、佐藤美智、●内藤加菜一

森田 紀代美

(三)望月朱里、有吉萌々子 (二)櫻井円香

[中] 山本光莉、金丸侑志帆、○森あすか一

平川穂波

(本)倉田実沙 (二)香山紗貴子、小寺真琴

【評】中京大学、延長を制し2回戦進出！

中京大学は、延長9回裏、一死満塁のチャンスに5番今川選手がレフト前に決勝打となる安打を打ち、サヨナラ勝利を収めた。山梨学院大学は、同点に追いつかれた6回以降、3人目の森投手を打ち崩せず、惜敗した。

中国学園大学 00300 : 3
東 海 大 学 70201x : 10

[中] ●鼓 志保一井上麻子

(三)原田佳美 (二)関野文子

[東] ○菊地原悠一露木智加

(三)松本咲彩、院去智子 (二)弓場ひさき

松本咲香

【評】東海大学、打線爆発で勝利する！！

東海大学は、初回到打者11人で7点を挙げる猛攻で、試合を決める。一方、中国学園大学は、3回到打線が繋がり4本の安打で、3点を挙げるも、その後、打線が振るわず敗戦した。

環太平洋大学短期大学 00000 : 0
東 京 国 際 大 学 03013x : 7

[環] ●船津真帆、中村 葵、山口未悠一

宮尾由奈美

[東] ○相良未来一大塚あすか

(本)池信里奈 (三)松本由佳

【評】東京国際大学が着実に得点を重ね、環太平洋大学短期大学部を退けた！

東京国際大学は2回、7番松本の三塁打と9番庄子の安打で3点を先制、4回到打線8番池信の本塁打で加点、5回にも打線が繋がり3点を挙げ、コ

ールド勝ちを決めた。投げては相良投手が3安打に抑え勝利した。環太平洋大学短期大学部は、大量リードを許しながらも粘り強く戦った。5回8番宮尾の安打と次打者のエラーでチャンスを作ったものの、得点に結びつけることが出来なかった。

国士舘大学 0200024 : 8
鈴 鹿 大 学 0050000 : 5

[国] 樋口幸希、○小出帆南美一本田渚沙、

櫛田佳澄、本田渚沙

(二)依田奏緒、藤田百合子

[鈴] ●三木聡美一西井春菜

(本)長尾 梓、坂 小夏 (二)木村彩乃

【評】国士舘大学、逆転で接戦を制す！

国士舘大学は、1点差で迎えた7回、4本の長短打と2四球を連ね4点を挙げ、逆転勝利した。一方、鈴鹿大学は、3回2本の本塁打と打線が繋がり5点を挙げ、一度は逆転したが、2番手の小出投手に打線が振るわず、惜しい試合を逃した。

富 士 大 学 0000000 : 0

東海学園大学 011010x : 3

[富] ●織田志保、下山千晶、鈴木成実一

鈴木佑美

[東] 長瀬りえ、○木村麻利亜、長瀬りえ一

金子真依

(本)磯淵沙樹、金子真依② (二)磯淵沙樹

【評】東海学園大学 3本の本塁打で2回戦へ

東海学園大学は2回、4番磯淵の左中間への本塁打で先制、3回、5回到打線9番金子の2打席連続本塁打で2点を追加し、投げては長瀬、木村両投手が、9つの三振を奪う力投で勝利を収めた。一方、富士大学は、散発5安打に抑えられ、三塁を踏めずに敗れた。

立 命 舘 大 学 0000000 : 0
関東学園大学 001000x : 1

[立] ●本庄 遥一日高由菜

[関] ○猪井玲那一柳尾美佳

【評】関東学園大学、接戦を制して2回戦へ！

関東学園大学は、3回一死2塁のワンチャンス
を3番柳尾の中前安打で得点し、猪井投手が7奪
三振の好投で、逃げきった。一方、立命館大学は
1回、5回と得点のチャンスを作るが、あと一本
が出ず、涙をのんだ。

日本女子体育大学 0000000 : 0
IPU・環太平洋大学 003101x : 5

[日] ●竹松星香、眞鍋 梓、鈴木美帆－
佐々木竜子

[環] ○吉井朝香、竹原由菜、山田夏生－
小嶺来未
(本)宮本真緒 (二)溝口香夏子

【評】環太平洋大学、投打がかみ合い勝利！

環太平洋大学は、3回1番有吉の内野安打を3
番鎌田の中前安打、4番溝口の左中間を抜く二塁
打と5番金江の犠牲フライで3点を先制し、勝利
を収めた。日本女子体育大学は、環太平洋大学の
3投手の好投で二塁を一度も踏めず、2安打に抑
えこまれて敗れた。

金沢学院大学 0000010 : 1
大阪国際大学 0000000 : 0

[金] 徳原 萌、西野朱音、大和 未沙、
○木梨鈴子－上之浦成美

[大] ●北山柚花－齋藤 成美

【評】金沢学院大学、接戦を制し勝利する！

金沢学院大学は、6回、代打田之上選手の中前
安打を足がかりに、ワンチャンスを生かした1得
点を、4人の投手で守りきった。一方、大阪国際
大学は、初回から得点圏にランナーを進めながら、
後続を打ち取られ、あと一本が出なかった。

日本福祉大学 0000000 : 0
城西大学 001000x : 1

[日] ●宇野かな－志知真奈美
(三)天野佑香 (二)田中 唯、天野佑香

[城] ○並木あかね－綿貫奈緒
(二)寺岡優花、鮎澤 愛

【評】城西大学、接戦を制し2回戦へ

城西大学は3回、二死から内野安打の走者を4

番寺岡選手の右翼越えの二塁打で先制、並木投手
が1点を守りきり完封。日本福祉大学は3本の長
打を打ち、試合を押し気味に進めながら、後続が
続かず敗れた。

東京女子体育大学 0010501 : 7
福岡大学 0000000 : 0

[東] ○秋元菜穂、西舘紗愛、萩原あゆみ－
上島紗羽、本山奈穂子、上島紗羽

(本)大平あい、長久保遼 (二)櫻岡春香②

[福] ●堀本明日香、増本亜美、堀本明日香－
甲木翔子
(二)田畑まなみ

【評】東京女子体育大学、投打がかみあい勝利！

東京女子体育大学は、3回2番大平の本塁打で
先制し、5回打線が連なり、6番長久保の3ラン
で追加点を重ねる。投げては、秋元投手が5安打
に抑え、勝利を掴んだ。一方、福岡大学は初回に
無死一・二塁のチャンスを得るが、好守に阻まれ、
得点を挙げることはできなかった。

大阪大谷大学 2000000 : 0
東京富士大学 010002x : 3

[大] ●大西優季、吉崎菜々海－青木千秋
(二)増田彩芽、入谷玲生奈

[東] ○江渡祐希－深沢未花

(本)荻野みなみ (二)長谷川ゆりか②、
黒澤花菜

【評】東京富士大学、接戦を制して2回戦へ

東京富士大学は、2回に6番黒澤選手の左中間
を破る二塁打を足がかりに先制し、6回には2番
長谷川、3番荻原の二塁打、本塁打で2点を加
点し、試合を決めた。大阪大谷大学は、江渡投手に
散発4安打、8三振に抑えられ、チャンスを作れ
なかった。

文教大学 00000 : 0
武庫川女子大学 0043x : 7

[文] ●滝本瑞歩－上本羽純
(二)村松由季代

[武] ○尾崎千裕、中嶋美夏絵、稲田愛子－

横野丹音

(本)川口 藍 (三)田中つばさ、福元美紗
畠田奈実 (二)川口 藍、中村瑞穂

【評】武庫川女子大学が着実に得点を重ね、文教大学を退けた！

武庫川女子大学は、3回1番川口選手の本塁打、7番代打田中選手の三塁打等で4点を挙げ、4回に3点加えて試合を決めた。一方、文教大学は2安打、9三振に抑えられ、持ち味を出せずに終わってしまった。

日本体育大学 0003032 : 8
美作大学 0000010 : 1

[日] 岡村奈々、大村 茜、○有馬 瞳、
白井桃佳、山田 蓮一字野有加里、
吉松梨乃
(本)吉松梨乃 (二)飯田瑞稀

[美] ●平佐みくに一薮日香里

【評】日本体育大学が終盤に得点を重ねて2回戦に進む！

日本体育大学は、4回に四球を足がかりに打線が繋がり、3点を先制、6回7回にも加点し試合を決めた。美作大学は、平佐投手に11三振を奪われながらも、6回に1点を還したが、及ばなかった。

松本大学 13202 : 8
天理大学 00100 : 1

[松] ○山下ひかり、舟木彩菜、眞島里佳一
早川涼香
(二)神戸めぐみ②

[天] ●木村真悠、佐々木菜那、神野まどか一
遠藤綾乃

【評】松本大学、毎回安打で勝利！

松本大学、初回に先制し、毎回安打で追加点を重ねる。一方、天理大学は、3回に1点を還すが、4安打に抑えられ敗退した。

東北福祉院大学 0000000 : 0
奈良文化女子短大 010000x : 1

[東] ●永谷真衣一佐々木菜緒

(二)山田沙也加

[奈] ○大塚巳那子一増田みゆき
(本)松本早紀

【評】奈良文化女子短大、1本塁打で完封勝利

奈良学園大学奈良文化女子短大は2回、4番松本選手のレフトオーバーの本塁打で先制、この1得点を大塚投手が3安打散発に抑えて、完封勝利する。一方、東北福祉大学は、中盤に得点圏に進めるが、後続が続かず敗れた。

早稲田大学 0000100 : 1
園田学園女子大学 203100x : 6

[早] ●宮川眞子、常盤紫文、泉 花穂一
大内佳那

(二)武内有紀

[園] ○原 奈々、原田 悠、市谷愛美一
二宮はな

(本)樋口菜美 (二)田中瑠莉

【評】園田学園女子大学、投打がかみあい勝利！

園田学園女子大学は、初回に先制し、3回、4回と足を生かした攻撃で追加点を重ねた。投げては3人の投手で3本の安打に抑え、勝利する。一方、早稲田大学は、5回に安打と犠牲フライで1点を挙げるが、持ち味を出せずに終わってしまった。

▼第2日(8月30日)2回戦：雨天中止

▼第3日(8月31日)2回戦

中京大学 0158 : 14
東海大学 0000 : 0

[中] ○山本光莉、寺澤小百合一平川穂波
(二)長谷瑞希、今川瑞希、阿部瑚那美

[東] ●菊地原悠、高橋千夏、菊地原悠一
露木智加、渡邊真央

【評】中京大学、打線爆発で準々決勝へ！

中京大学は1点リードで向かえた3回、1番長谷の二塁打などで一死一三塁のチャンスを作ると4番倉田、5番今川、6番平川の3連続タイムリーと8番佐藤のタイムリーで一挙に5点を奪い、突き放した。4回にも8長短打を集中し、8点を

挙げ、4回コールドで準々決勝にコマを進めた。
一方東海大学は、1回戦の勢がなく打線が沈黙し、1安打に抑えられ敗れた。

国士舘大学 0000000 : 0
東京国際大学 000001x : 1

〔国〕●樋口幸希ー本田渚沙

〔東〕○相良未来ー大塚すか

【評】東京国際大学、接戦を制し準々決勝へ

東京国際大学は6回1番今崎が四球で出塁すると盗塁、犠打で三塁まで進み、3番碓の二塁内野安打で待望の1点を先取し、逃げ切った。国士舘大学は安打数では上回ったがあと1本が出ず、東京国際大学相良投手の粘り強い力投に涙をのんだ。

関東学園大学 00000 : 0
東海学園大学 1600x : 7

〔関〕●猪井玲那、磯 知里ー柳尾美佳、高田亜李紗

〔東〕○長瀬りえ、塩見 瞳ー金子 真依
(本)磯淵沙樹 (二)大西朱音

【評】東海学園大学、2回の集中打で5回コールド勝ち、準々決勝へ！！

1点リードの東海学園大学は2回下位打線が一死満塁のチャンスを作り、1番大西が走者一掃の左中間二塁打を放ち3点を追加、さらに二、三塁から4番磯淵がレフトに3点本塁打を放ち、5回コールド勝ちを決めた。投げては長瀬、塩見両投手が関東学園打線を1安打に抑え、準々決勝に進んだ。関東学園は序盤の大量失点が響き、挽回することができなかった。

金沢学院大学 0000010 : 1
環太平洋大学 0010002x : 3

〔金〕徳原 萌、西野朱音、山中美輝、大和未沙、●木梨鈴子ー上之浦成美

(二)中島 雅

〔環〕吉井朝香、竹原由菜、○山田夏生ー小嶺来未

(本)福井実咲 (三)福井実咲

(二)宮本 真緒

【評】IPU・環太平洋大学が投手戦を制してサヨナラホームランで勝利、準々決勝へ進出！

環太平洋大学は3回8番宮本が左越二塁打、9番川渕の初球犠打で走者三塁、1番有吉の犠飛で先取。同点の7回、一死二塁に2番福井が粘って10球目を左越サヨナラ2点ホームランを放ち試合を決めた。金沢は6回1番中島左中間二塁打、2番桑原が犠打で走者三塁、4番奥村の安打で同点に追いつくも追加点を取れずに惜敗した。金沢は5人、環太平洋は3人の投手が好投、終盤まで緊迫した試合であった。

城西大学 1000000 : 1
東京女子体育大学 002010x : 3

〔城〕●並木あかねー綿貫奈緒

〔東〕○秋元菜穂ー上島紗羽

(本)大平あい

【評】東京女子体育大学、逆転で準々決勝進出！

1点ビハインドの東京女子体育大学は3回、1番山田の四球を足がかりに一死満塁のチャンスを作り、6番浜田の左前タイムリーで逆転に成功。5回にも2番大平の右中間本塁打で追加点を挙げ、激戦をものにした。一方、城西大学は、初回5番東福の三遊間を破るタイムリーで先制したが、2回以降秋元投手に2安打で抑えられ惜しくも敗れた。

武庫川女子大学 0001001 : 2
東京富士大学 203000x : 5

〔武〕●尾崎千裕、稲田愛子ー横野丹音

(本)川口 藍 (三)長船実幸

〔東〕江渡祐希、○千葉咲実ー深沢未花

(本)田口美佳 (二)黒澤花菜②

【評】東京富士大学、先行逃げ切り準々決勝へ。

東京富士大学は、1回1番濱岡のバント安打を足掛かりに5番黒澤の右中間二塁打で2点先制。3回にも4番田口の右越本塁打、5番黒澤の左中間二塁打などで追加点を上げた。一方、武庫川女子大学は4回7番長船の右中間三塁打、7回1番川口の中越本塁打などで2点を返し、安打数では

上回るもののあと一歩及ばなかった。

松 本 大 学 0 0 0 0 2 2 1 : 5
日本体育大学 2 2 0 0 0 3 x : 7

〔松〕 山下ひかり、舟木彩菜、●杉山恭香奈ー
早川涼香

(二)濱田佳歩

〔日〕 岡村奈々、有馬 瞳、山田 蓮、
○大村 茜ー 宇野有加里、吉松梨乃、
宇野有加里、吉松梨乃、宇野有加里
(本)宇野有加里 (二)吉松梨乃

【評】日本体育大学、接戦を制し、準決勝進出！
同点に追いつかれた日体大は6回、7番菊池、
8番加藤の連続安打などで一死二、三塁のチャン
スを作り、1番宇野の右前適時打で勝ち越し、さ
らに相手失策などで2点を追加し、粘る松本大学
を振り切った。松本大学は5回、6回に2本の適
時打などで同点に追いついたが、あと一歩及ばず
涙をのんだ。

奈良文化女子短大 0 0 0 1 1 0 0 : 2
園田学園女子大学 3 0 1 1 1 0 x : 6

〔奈〕 ●大塚巳那子、森本叶恵、豊田理沙ー
増田 みゆき

(三)南 早紀 (二)松本早紀

〔園〕 ○原田 悠、原 奈々ー二宮はな
(本)中村光里 (三)堤加菜子
(二)中村光里

【評】園田学園女子大学、そつなく得点を重ね準
決勝へ！！

園田学園は初回1番石川の二遊間を抜く安打を
足掛かりに一死二、三塁から4番田井、5番中村
の左中間二塁打で先制。その後も着々と得点を重
ね、原田、原両投手の継投で逃げ切った。奈良学
園は4回5番増田の適時打、5回代打南の三塁打、
代打木村の左犠飛で粘りを見せたが惜しくも敗れ
た。

▼第3日(8月31日)準々決勝戦

中 京 大 学 3 0 2 0 2 0 0 : 7
東京国際大学 0 0 1 0 0 0 0 : 1

〔中〕 金丸侑志帆、山本光莉、○森あすかー
平川穂波

(本)平川穂波 (三)長谷 瑞希

(二)今川瑞希、平川穂波、長谷瑞希

〔東〕 ●相良未来、池信里奈ー大塚あすか

【評】中京大学、5本の長打を生かし準決勝へ

中京大学は1回、1番長谷の皮切りに5番今川
の左越二塁打、6番平川の一塁強襲二塁打など、
5本の長短打で3点を先取。3回には6番平川の中
越本塁打、5回には1番長谷の三塁打で追加点
を挙げ試合を決定づけた。東京国際大学は毎回走
者を出すものの金丸、山本、森の3投手の力投に
後続が断たれ得点できず敗退した。

東海学園大学 0 1 0 2 0 3 0 : 6
環太平洋大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0

〔東〕 長瀬りえ、○木村麻利亜ー金子真依

(本)木村麻利亜 大西朱音 (二)金子真依

〔環〕 ●吉井朝香、竹原由菜、山田夏生ー
小嶺来未

【評】東海学園大学、木村投手の好投で完封勝
利！！

東海学園は2回、5番木村の中越本塁打で先制
すると、4回には9番金子の適時打、四球押し出
しで2点、6回にも金子の二塁打、1番大西の中
越2点本塁打と着々と得点を重ね、投げては木村
投手が環太平洋打線を散発4安打に抑え完封、準
決勝にコマを進めた。環太平洋は、初回と6回に
一死から出た走者を東海学園の2投手に抑えられ
て進められず、ベスト4への道が断たれた。

東京女子体育大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0
東 京 富 士 大 学 0 5 0 0 0 0 x : 5

〔体〕 ●秋元菜穂ー上島紗羽

(二)山田静佳

〔富〕 ○江渡祐希ー深沢未花

【評】東京富士大学、6連続安打で5点を先取し
準決勝へ。

東京富士大学は2回二死後、6連続安打で一挙
で5点を先制。投げては江渡投手が8奪三振の好

投で準決勝へ駒を進めた。東京女子体大は散発4安打と打線が振るわず好機を見い出す事もなく敗れ去った。

日本体育大学 0200010:3
園田学園女子大学 0000000:0

〔日〕○岡村奈々一宇野有加里

(二)松本風香、吉松梨乃

〔園〕●市谷愛美、原 奈々一宮はな

(二)田中瑠莉

【評】日本体育大学、岡村投手の好投で園田学園女子大学を制し、準々決勝へ進出！

日体大は2回5番吉松の右翼前安打で出塁後、野手選択などで一死二、三星とし、投手の悪送球で2点を先

取した。6回にも5番吉松の左中間二塁打を生かし追加点を挙げ、試合を決めた。投げては岡村投手が巧みな投

球で完封勝利した。

園大は岡村投手に散発4安打と抑え込まれ三星を踏むことなく惜敗した。

▼第4日（9月1日）準決勝戦：雨天中止

▼第4日（9月1日）決勝戦：雨天中止



全日本大学(女子)選手権大会入賞校・入賞回数

大学名	優勝	2位	3位	入賞	大学名	優勝	2位	3位	入賞
日本体育大学	18	13	6	1	東海女子大学		1	1	
東京女子体育大学	15	15	8		東海学園大学		1	1	1
園田学園女子大学	6	4	9		鈴鹿国際大学		1	1	
東北福祉大学	3		2		九州女子大学			2	
日本女子体育大学	1	5	8		仙台大学			2	
大阪成蹊女子短大	1	4	5		東京富士大学			1	1
中京大学	1		11	1	関西外国語大学			1	
淑徳大学	1		2		神戸親和女子大学			1	
大阪大谷大学	1		2		龍谷大学			1	
中京女子大学	1		1		愛媛女子短期大学			1	
早稲田大学	1		1		龍谷大学			1	
東京国際大学	1				清和大学			1	
武庫川女子大学		2	6		福岡大学			1	
大阪国際大学		2	2		立命館大学			1	
大阪体育大学		1	1		環太平洋大学			1	

※旧校名分を含む ※第39回の優勝は2校 ※第50回は入賞4校 ※50回連続出場校：日本体育大学・東京女子体育大学

女子大会打撃ベスト10（規定打席数7以上）

順 位	位 置	選 手 名	大 学 名	打 席	打 点	安 打	得 点	犠 打	四 球	死 球	三 振	盗 塁	残 塁	打 出	本 塁	三 塁	二 塁	打 撃 率	試 合		
1	2	金子 真依	東海学園	8	6	5	4	4	0	2	0	0	0	0	7	2	0	1	0.833	3	
2	6	川口 藍	武庫川	7	6	4	3	2	0	1	0	0	0	2	0	5	2	0	1	0.667	2
3	9	岡本 知奈	中 京	11	10	6	1	0	1	0	0	1	2	3	0	6	0	0	0	0.600	3
3	6	神戸めぐみ	松 本	7	5	3	3	0	1	1	0	0	1	1	0	4	0	0	2	0.600	2
5	D1	池信 里奈	東京国際	8	7	4	1	3	0	1	0	0	1	3	0	5	1	0	0	0.571	3
5	DH	澤田 萌恵	国 士 館	7	7	4	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4	0	0	0	0.571	2
7	DP	吉松 梨乃	日本体育	10	9	5	2	2	0	1	0	1	0	2	0	6	1	0	2	0.556	3
8	DP	長谷 瑞希	中 京	11	10	5	6	2	0	1	0	0	0	3	0	6	0	1	2	0.500	3
8	5	松本 由佳	東京国際	8	8	4	2	2	1	0	0	0	2	2	0	4	0	1	0	0.500	3
8	3	磯淵 沙樹	東海学園	9	6	3	3	4	1	2	0	0	0	1	0	5	2	0	1	0.500	3
8	6	吉田 彩夏	東海学園	10	10	5	1	1	0	0	0	2	2	3	0	5	0	0	0	0.500	3
8	7	福井 実咲	環太平洋	10	8	4	1	2	2	0	0	0	1	4	0	4	1	1	0	0.500	3
8	8	有吉 茜	環太平洋	10	8	4	2	1	1	0	0	1	2	1	0	4	0	0	0	0.500	3
8	3	菊地 咲絢	日本体育	10	8	4	1	3	2	0	0	0	0	2	0	4	0	0	0	0.500	3
8	4	松本 風香	日本体育	12	10	5	4	1	0	2	0	1	2	2	0	7	0	0	1	0.500	3
8	3	田井亜加音	園田学園	10	10	5	1	4	0	0	0	1	1	1	0	5	0	0	0	0.500	3

女子大会投手成績ベスト10（規定投球イニング数7以上）

順位	選手名	大学名	投球回	打者数	打点	被安打	失点	責任意	自責点	被四球	与四球	与三振	奪三振	被本塁打	暴投	不正投	投球数	防御率	勝試合	負試合	試合数
1	森 あすか	中 京	7.2/3	31	29	6	0	0	0	0	1	1	5	0	0	0	95	0.00	2	0	2
1	木村麻利亜	東海学園	12.2/3	45	41	7	0	0	2	2	0	12	0	0	0	0	175	0.00	2	0	2
1	北山 柚花	大阪国際	7	27	25	6	1	0	2	0	0	3	0	0	0	0	89	0.00	0	1	1
1	岡村 奈々	日本体育	14	49	45	6	0	0	2	2	0	13	0	0	1	0	174	0.00	1	0	3
5	江渡 祐希	東京富士	17.2/3	75	67	13	1	1	1	5	2	19	0	0	0	0	293	0.40	2	0	3
6	原 奈々	園田学園	11.2/3	41	40	6	1	1	1	0	0	8	0	0	0	0	178	0.60	1	0	3
7	吉井 朝香	環太平洋	10	38	34	6	1	1	2	1	1	10	1	0	0	0	159	0.70	1	1	3
8	並木あかね	城 西	13	56	45	12	3	3	6	4	1	8	1	1	0	0	194	1.62	1	1	2
9	山本 光莉	中 京	8.1/3	33	31	7	2	2	0	2	0	1	0	0	0	0	112	1.68	1	0	3
10	秋元 菜穂	東 女 体	18	70	68	16	6	6	0	0	2	7	0	0	0	0	248	2.33	2	1	3

第30回東日本大学(男子)ソフトボール選手権大会

会期：平成27年8月7日(木)～8月10(月)

会場：長野県伊那市／富士塚スポーツ公園 他

	8 日	9 日	10 日	
1. 日本体育大学		9		
2. 東海大学	8	2	9	
3. 宮城教育大学	0			
4. 東京理科大学	5	18	7	
5. 日本大学	4	1		
6. 盛岡大学		0		
7. 中央大学		11		
8. 文教大学	33	10	3	
9. 長野大学	0			
10. 早稲田大学	4	13	早稲田大学	
11. 城西大学	3	4		
12. 福島大学	10	1		
13. 立教大学	9			
14. 山梨学院大学	0	21		
15. 国士舘大学	7	12		
16. 仙台大学	3	1		
17. 慶應義塾大学	6			
18. 東京国際大学	7	0	8	
19. 桜美林大学	0	2		
20. 関東学園大学		10		
21. 信州大学		0	4	
22. 東京学芸大学	2	7	3	
23. 高崎経済大学	11			
24. 学習院大学	4	0	5	
25. 日本大学工学部	1	6		
26. 国際武道大学		1		

優勝 日本体育大学 (2年連続13回目)

▼ 1 回戦

東海大学 1 2 2 1 2 : 8
宮城教育大学 0 0 0 0 0 : 0

○高橋宏光－御手洗昂季

●福岡星弥－菊池公明

日本大学 0 0 0 0 0 4 0 : 4
東京理科大学 0 3 0 0 1 0 1x : 5

●草野心平－芝 貴臣

○石崎一輝－関根洋佑

文教大学 9 7 14 3 : 33
長野大学 0 0 0 0 : 0

○高田慶太、武藤光佑－高橋一真、倉持大輝

●高橋英起、関森博之、秋山優輝－寺沢 涼、秋山優輝

城西大学 0 1 1 0 1 0 0 : 3
早稲田大学 1 0 0 1 0 0 2x : 4

●宮原 兼－飯田敏弘

豊田誉彦、○吉田尚央－大嶋 翼

立教大学 3 1 3 0 0 1 1 : 9
福島大学 3 0 1 2 1 1 2 : 10

高野竜一、佐々木涼輔、●中井玄太－後藤清紀、高野竜一

○高橋瞭太－小原広夢

国士舘大学 : 7
山梨学院大学 (棄権) : 0

慶應義塾大学 1 0 1 0 0 0 4 : 6
仙台大学 2 0 0 0 1 0 0 : 3

○石井陽一郎－中野颯太

●西 浩史、松田和成－土居史宙

東京国際大学 : 7
桜美林大学 (棄権) : 0

高崎経済大学 5 3 1 0 2 : 11
東京学芸大学 1 1 0 0 0 : 2

○赤坂拓郎－橋野一哉

●藤井 峻、福岡真司－池田岳史

学習院大学 0 0 0 2 2 0 0 : 4
日本大学工学部 0 0 0 0 0 1 0 : 1

○山下義朗、石井泰介－田沼俊哉

●藤井 峻、福岡真司－込山健太郎

▼ 男子 2 回戦

東海大学 0 0 1 0 1 0 : 2
日本体育大学 4 0 1 1 1 2x : 9

●佐藤拓矢、高橋宏允－御手洗昂季

○河野拓郎、児玉聡太－山内直人

東京理科大学 11 3 0 4 : 18
盛岡大学 0 0 0 0 : 0

○大江雄登、小山純平－関根洋佑、小松 誠

●高橋紳太郎、中川 卓－上野桐真

文教大学 3 0 2 1 0 4 0 : 10
中央大学 0 0 2 1 8 0 x : 11

●高田慶太－野口達樹

○川村卓未、宮川晋之輔－井原奨之

早稲田大学 6 4 0 0 3 : 13
福島大学 0 0 1 0 0 : 1

○豊田誉彦、杖子量哉－大嶋 翼、山本修平、林 友暉

●北原優希、高橋瞭太－小原広夢

国士舘大学 2 4 15 0 : 21
慶應義塾大学 1 0 0 0 : 1

○高木 光、星野嵩幸－服部裕介

●石井陽一郎－中野颯太

関東学園大学 2 5 0 3 : 10
東京国際大学 0 0 0 0 : 0

○井草裕太郎－松浦義明

●塚田英典－桑原拓也

信州大学 0 0 0 0 0 0 : 0
高崎経済大学 0 0 1 0 4 2x : 7

●筆脇伸紇－大日向桂作

○多胡和輝－橋野一哉

学習院大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0
国際武道大学 0 0 0 0 1 0 x : 1

●山下義朗－田沼俊哉

○滝口悠真－大曾根教雄

▼ 男子 3 回戦

日本体育大学 0 2 5 2 0 : 9
東京理科大学 0 0 1 0 0 : 1

○山城人志、開 康司、杉山希高－山内直人

●石崎一輝－関根陽佑

中央大学 0 0 0 1 1 1 0 0 : 3
早稲田大学 0 1 0 1 1 0 0 1x : 4

●川村卓未－井原奨之

松木俊皓、○吉田尚央－大嶋 翼

関東学園大学 0 1 0 1 : 2
国士舘大学 4 4 1 3x : 12

●高橋尚貴、井草裕太郎－松浦義明

○池田空生－服部裕介

国際武道大学 4 0 0 2 0 0 0 : 6
高崎経済大学 0 0 0 0 3 0 0 : 3

滝口悠真、○大池 渉－大曾根教雄

●赤坂拓郎－橋野一哉

▼ 男子 準決勝戦

日本体育大学 0 0 1 1 0 3 2 : 7
早稲田大学 0 0 2 0 0 0 1 : 3

○河野拓郎－山内直人

●松木俊皓、吉田尚央、豊田誉彦－大嶋 翼

国際武道大学 0 0 1 0 3 0 1 : 5
国士舘大学 0 0 4 2 1 1 x : 8

●滝口悠真、大池 渉－大曾根教雄

○高木 光、星野嵩幸－服部裕介

▼ 男子 決勝戦

日本体育大学 2 0 8 0 0 2 : 12
国士舘大学 0 0 3 0 1 0 : 4

○河野拓郎、山城人志－山内直人

●池田空生、星野嵩幸－服部裕介

第30回東日本大学(女子)ソフトボール選手権大会

会期：平成27年8月7日(木)～10日(月)

会場：長野県伊那市／伊那市営球場 他

	8 日	9 日	10 日
1. 日本体育大学	4		
2. 順天堂大学	2	6	
3. 金沢学院大学	12	日本体育大学 0	
4. 日本女子体育大学	2		
5. 東海大学	4	2	
6. 東京学芸大学	3		山梨学院 0
7. 国士舘大学	6	0	
8. 城西国際大学	8		
9. 富士林大学	8	1	
10. 学習院大学	0	13	
11. 山梨学院大学	6		
12. 関東学園大学	2		
13. 早稲田大学	11	2	
14. 淑徳大学	2	早稲田大学 1	
15. 桜美林大学	0		
16. 松本大学	10	1	
17. 城西大学	3		
18. 中央大学	1		4
19. 東京国際大学	2	1	
20. 東京女子体育大学	1		
21. 東北福祉大学	8	2	
22. 清和大学	1	2	
23. 東京富士大学	9		

優勝 東京富士大学(初)

▼ 1 回戦

金沢学院大学 0 8 0 4 : 12
 順天堂大学 0 0 0 2 : 2
 徳原 萌、○大和未沙、高岡理沙、羽生千明ー上之浦成美
 ●大倉紗良、郡司優花ー岩松遙希、樋口葉

日本女子体育大学 0 0 0 0 1 0 1 : 2
 東海大学 1 0 1 0 2 0 x : 4
 ●真鍋 梓、鈴木美帆ー佐々木竜子
 ○菊地原悠ー露木智加

学習院大学 0 0 0 0 0 : 0
 富士大学 2 3 3 0 x : 8
 ●藤代祐美香、飯島莉那ー石井倫美子
 ○鈴木成実、矢内亜衣ー鈴木佑美、千葉 薫

早稲田大学 0 0 3 2 0 6 : 11
 淑徳大学 0 2 0 0 0 0 : 2
 ○泉 花穂、常盤紫文ー大内佳那、加藤千陽
 ●安齊美琴、奥原美央ー菊池優理愛

松本大学 4 3 0 3 : 10
 桜美林大学 0 0 0 0 : 0
 ○山下ひかり、杉山恭香、眞島里佳ー早川涼香
 ●渡邊あすかー杉山翔美

東京女子体育大学 1 0 0 0 0 0 0 0 : 1
 東京国際大学 1 0 0 0 0 0 0 1x : 2
 ●秋元菜穂ー上島紗羽
 ○相良未来ー大塚あすか

清和大学 0 0 1 0 0 : 1
 東北福祉大学 0 2 1 5 x : 8
 ●古屋英恵ー松本美紀
 ○伊藤綾香ー佐々木菜緒

▼ 2 回戦

金沢学院大学 1 0 0 2 0 0 0 : 3
 日本体育大学 1 0 1 0 0 0 2x : 4
 木梨鈴子、山中美輝、●大和未沙ー上之浦成美
 岡村奈々、○大村 茜ー宇野有加里、吉松梨乃

東海大学 0 0 0 4 0 8 : 12
 東京学芸大学 0 0 3 0 0 0 : 3
 高橋千夏、○菊地原悠ー露木智加
 ●萩原紀恵、岩瀬仁美ー田邊 葉

国土舘大学 0 0 0 5 0 1 0 : 6
 城西国際大学 3 3 0 0 2 0 x : 8
 小出帆南美、●菅野奈々、樋口幸希ー櫛田佳澄、本田渚沙
 ○近部知奈美、熊谷朱音ー栗生千裕

山梨学院大学 0 0 3 0 1 0 2 : 6
 富士大学 3 0 0 0 0 0 0 : 3
 清水琴乃、○板垣明星ー森田紀代美
 下山千晶、●草刈里菜ー鈴木佑美

早稲田大学 0 2 0 1 0 2 2 : 7
 関東学園大学 0 0 1 1 0 0 0 : 2

○宮川真子、常盤紫文ー大内佳那
 ●猪井玲那、金子夏実、磯 知里ー高田亜李紗

城西大学 1 1 0 0 0 1 0 : 3
 松本大学 0 0 0 1 0 1 0 : 2
 ○並木あかねー綿貫奈緒
 ●杉山恭香、山下ひかりー早川涼香

中央大学 0 0 0 1 : 1
 東京国際大学 4 5 1 1x : 11
 ●杉田遙奈ー伊藤真由
 相良未来、○池信里奈ー大塚あすか、佐藤梨菜

東北福祉大学 1 0 0 0 0 : 1
 東京富士大学 4 1 0 4 x : 9
 ●永谷真衣、工藤 遥、伊藤綾香ー佐々木菜緒
 江渡祐希、○千葉咲実ー深沢未花

▼ 女子 3 回戦

日本体育大学 2 0 0 0 0 2 2 : 6
 東海大学 0 0 0 0 2 0 0 : 2
 岡村奈々、白井桃佳、西村安紀子、鈴木杏佳、○大村 茜ー
 吉松梨乃
 菊地原悠、今村沙希、●高橋千夏、矢作実緒ー露木智加

城西国際大学 0 0 0 0 : 0
 山梨学院大学 4 6 3 x : 13
 ●近部知奈美、熊谷朱音ー栗生千裕
 ○清水琴乃ー森田紀代美

早稲田大学 1 0 0 0 0 0 0 1 : 2
 城西大学 1 0 0 0 0 0 0 0 : 1
 ○泉 花穂、常盤紫文ー大内佳那
 ●並木あかねー綿貫奈緒

東京国際大学 0 0 1 0 0 0 0 : 1
 東京富士大学 0 0 0 0 1 0 1x : 2
 ●相良未来ー大塚あすか
 ○江渡祐希ー深沢未花

▼ 女子準決勝戦

山梨学院大学 0 0 0 0 0 0 0 1 : 1
 日本体育大学 0 0 0 0 0 0 0 0 : 0
 ○清水琴乃ー森田紀代美
 ●岡村奈々ー吉松梨乃

早稲田大学 0 0 0 1 0 0 0 : 1
 東京富士大学 0 0 0 0 0 0 2x : 2
 ●宮川真子ー大内佳那
 千葉咲実、○江渡祐希ー深沢未花

▼ 女子決勝戦

山梨学院大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0
 東京富士大学 0 0 0 1 3 0 x : 4
 ●清水琴乃、板垣明星ー森田紀代美
 ○江渡祐希ー深沢未花

第47回西日本大学(男子)ソフトボール選手権大会

会期：平成27年8月7日(金)～10日(月)

会場：京都府京都部市／横大路運動公園 他

	8月8日	8月9日	8月10日	
1. 環太平洋大学	18	7		
2. 大阪経済大学	0	7		
3. 九州共立大学	11	0	4	
4. 広島経済大学	12	6	0	
5. 南山大学	4	0	3	
6. 神戸学院大学	11	0	1	
7. 徳島大学	0	0	0	
8. 沖縄国際大学	7	0	0	
9. 京都大学	12	4	0	
10. 長崎国際大学	11	7	0	
11. 中京学院大学	3	5	0	
12. 四天王寺大学	2	9	0	
13. 大阪体育大学	7	6	0	
14. 熊本学園大学	9	2	0	
15. 広島工業大学	0	4	0	
16. 中京大学	11	3	0	
17. 京都産業大学	4	7	0	
18. 高知工科大学	0	4	0	
19. 福岡大学	8	1	0	
20. 日本福祉大学	1	3	0	
21. 常葉大学	4	1	0	
22. 名桜大学	1	10	0	
23. 同志社大学	10	3	0	
24. 広島大学	3	2	0	
25. 大阪教育大学	3	4	0	
26. 愛知大学	4	0	0	
27. 羽州産業大学	10	4	0	
28. 高知大学	1	5	0	
29. 関西大学	7	14	0	
30. 岡山大学	0	7	0	
31. 琉球大学	0	2	0	
32. 立命館大学	18			

優勝

関西大学

(40年ぶり3回目)

第47回西日本大学(女子)ソフトボール選手権大会

会期：平成27年8月7日(金)～10日(月)

会場：京都府京都市／伏見桃山城運動公園

	8月8日	8月9日	8月10日
1. 園田学園女子大学		8	
2. 至学館大学	27	0	9
3. 四国大学	0		
4. 神戸親和女子大学	3	0	7
5. 日本福祉大学	1	0	0
6. IPU・環太平洋大学		1	
7. 武庫川女子大学		5	2
8. 天理大学	26	1	1
9. 美作大学	1		
10. 奈良学園大奈良文化女子短大	3	5	1
11. 鈴鹿大学	2	4	
12. 福岡大学		1	
13. 鳥取短期大学		0	
14. 東海学園大学	7	7	1
15. 太成学院大学	0		
16. 立命館大学	6	3	2
17. 岐阜経済大学	0	0	
18. 大阪大谷大学		2	5
19. 九州共立大学		1	
20. 大阪国際大学	3	5	2
21. 環太平洋大学短期大学部	0		0
22. 同志社大学	5	1	
23. 中国学園大学	1	8	
24. 中京大学		4	

優勝
東海学園大学
(8年ぶり2回目)

第14回大学(女子)ソフトボール東海オープン大会結果

会期：平成27年3月17・18・20日

会場：愛知県安城市総合運動公園ソフトボール場

予選リーグ戦（第1・2日）

Aグループ	松 本	同志社	山学B	順位
松 本		● 2 - 7	○ 2 - 1	2位
同 志 社	○ 7 - 2		○ 3 - 2	1位
山梨学院B	● 1 - 2	● 2 - 3		3位

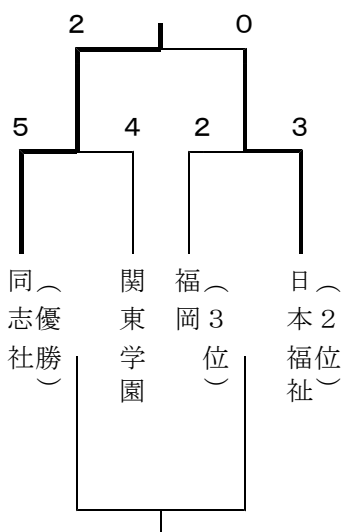
Cグループ	福 岡	青 山	至学館	順位
福 岡		○ 5 - 1	○ 7 - 0	1位
大阪青山	● 1 - 5		○ 10 - 2	2位
至 学 館	● 0 - 7	● 2 - 10		3位

Bグループ	東 学	関 学	常 葉	順位
東海学園		● 2 - 4	○ 3 - 2	2位
関東学園	○ 4 - 2		○ 8 - 4	1位
常 葉	● 2 - 3	● 4 - 8		3位

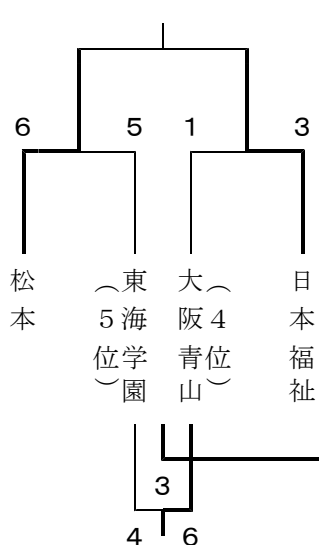
Dグループ	山学A	日 福	中 院	順位
山梨学院A		○ 5 - 1	○ 10 - 0	1位
日本福祉	● 1 - 5		○ 5 - 4	2位
中京学院	● 0 - 10	● 4 - 5		3位

順位決定戦（第2・3日）

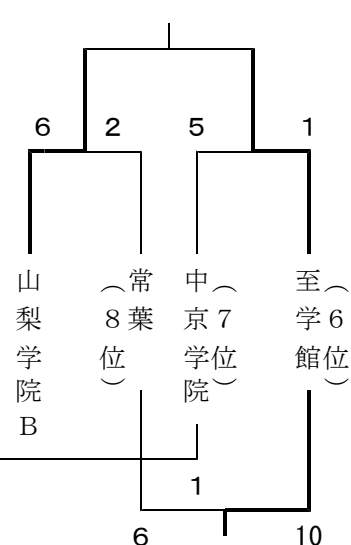
1～4位決定戦



5～8位決定戦



9～12位決定戦



※順位決定戦棄権チーム：山梨学院大学A・B、松本大学、関東学園大学

第14回大学(男子)ソフトボール東海オープン大会結果

会期：平成27年3月24・25日

会場：愛知県安城市総合運動公園ソフトボール場

予選リーグ戦（第1日）

Aグループ	中 院	関 学	常 葉	順位
中京学院		○ 11－1	○ 8－2	1 位
関東学園	● 1－11		● 1－11	3 位
常 葉	● 2－8	○ 11－1		2 位

Cグループ	中 央	同志社	中 京	順位
中 央		△ 6－6	● 1－2	2位 4.31
同 志 社	△ 6－6		● 1－4	3位 5.38
中 京	○ 2－1	○ 4－1		1位

※ 2～3 位は失点率による。

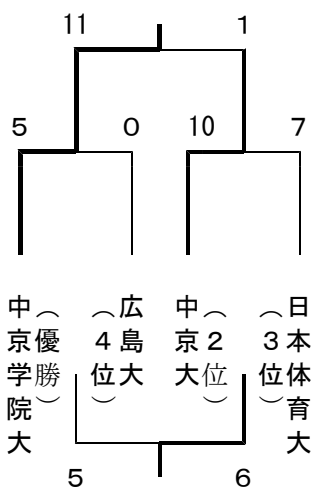
Ｂグループ	関 西	広 島	愛 知	順位
関 西		○ 4－1	● 2－3	2位 2.15
広 島	● 1－4		○ 7－0	1位 2.00
愛 知	○ 3－2	● 0－7		3位 5.94

Dグループ	日 体	京 都	聖 徳	順位
日本体育	—	○ 3－0	○ 7－0	1 位
京 都	● 0－3	—	● 5－6	3 位
岐阜聖徳	● 0－7	○ 6－5	—	2 位

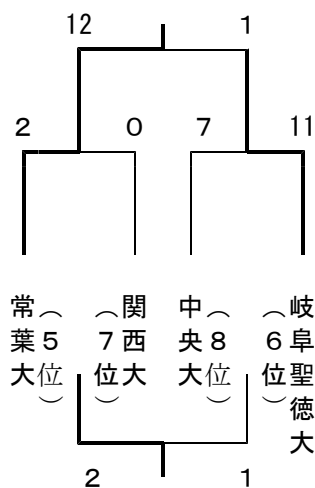
順位は失点率による。

順位決定戦 (第2日)

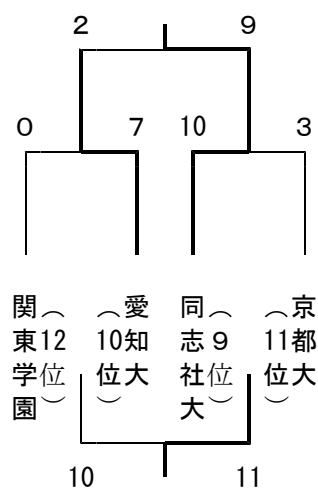
1 ~ 4 位決定戦



5 ~ 8 位決定戦



9 ~ 12位決定戦

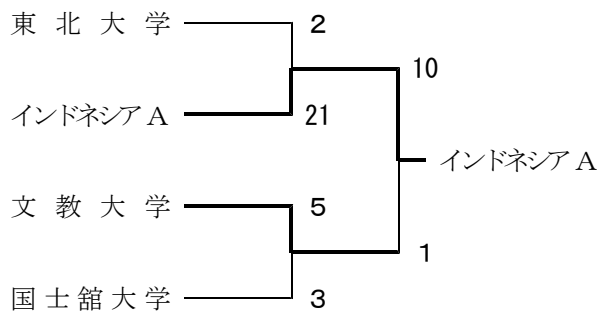


第16回 千葉オープン・チャレンジカップ・ソフトボールフェスティバル

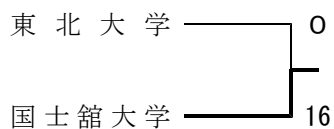
会期：平成27年3月24日(火)・25日(水)

会場：千葉県野田市／東京理科大学ソフトボール場

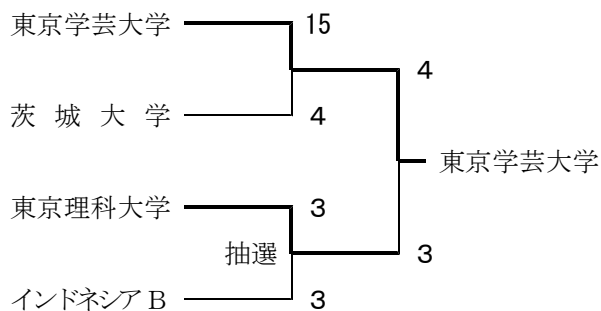
【予選Aブロック】



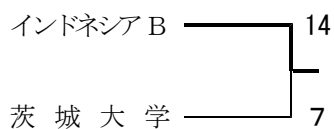
3位決定戦



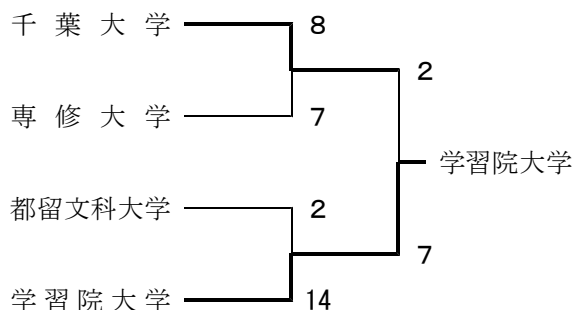
【予選Bブロック】



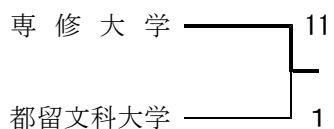
3位決定戦



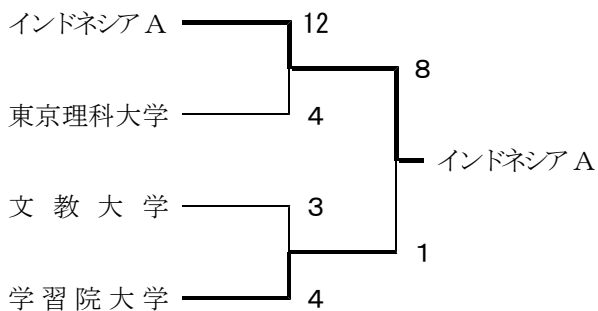
【予選Cブロック】



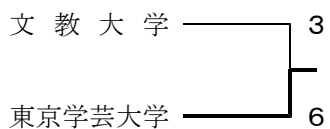
3位決定戦



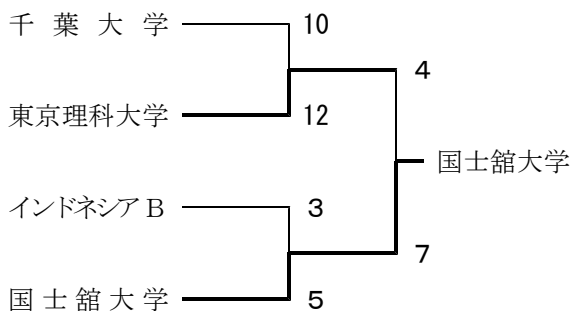
【決勝第Iブロック】



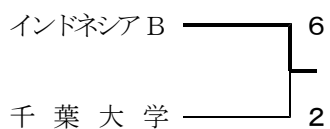
3位決定戦



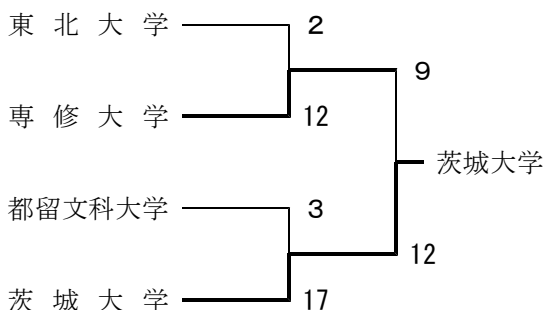
【決勝第IIブロック】



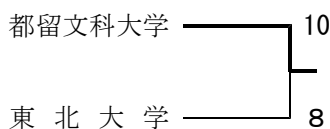
3位決定戦



【決勝第IIIブロック】



3位決定戦



第16回 「峠のまち」 Matsuida Cup 男・女大学ソフトボール強化大会

会期：平成27年4月18日(土)～19日(日)

会場：群馬県安中市／五料運動場・坂本スポーツ広場・久芳スポーツ広場

横川LEAG	都留文	山 梨	千 葉	東海	順
都留文科		● 2－10	● 2－12	○ 9－1	4
山梨学院	○ 10－2		● 2－10	● 6－12	3
千 葉	○ 12－2	○ 10－6		● 0－8	2
東 海	● 1－9	○ 12－6	○ 8－0		1

碓氷LEAG	関 学	千 葉	東 海	信 州	順
信 州	●	●	●	●	4
高崎経済	○	●	●	●	3
関東学園	○	○	○	○	1
城 西	○	○	●	●	2

※1～2位、3～4位は大会規定による。

順位決定戦

◇1～2位：東 海 大 学 3－0 関東学園大学

◆5～6位：山梨学院大学 13－7 高崎経済大学

◇3～4位：千 葉 大 学 8－11 城西大学

◆7～8位：都留文科大学 1－3 信州大学

【女子】

BLEAG	新島A	松 本	東 福	関 東	順
新島学園 短期大A		● 5－12	● 0－10	● 1－12	4
松 本	○ 12－5		1 3－4	△ 6－6	3
東北福祉	○ 10－0	○ 4－3		△ 6－6	1
関東学園	○ 12－1	△ 6－6	△ 6－6		2

DLEAG	新島B	城 西	富 士	東 海	順
新島学園 短期大B		● 0－10	● 1－9	● 4－9	4
城 西	○ 10－0		● 1－8	● 4－5	3
富 士	○ 9－1	○ 8－1		○ 2－1	1
東 海	○ 9－4	○ 5－4	● 1－2		2

順位決定戦

◇1～2位：東北福祉大学 2－6 富 士 大 学

◆5～6位：松 本 大 学 11－3 城 西 大 学

◇3～4位：関東学園大学 8－1 東 海 大 学

◆7～8位：新島短期大A 3－1 新島短期大B

【最終結果】(男子／女子)

優 勝：東 海 大 学／富 士 大 学

準優勝：関東学園大学／東北福祉大学

第3位：城 西 大 学／関東学園大学

第4位：千 葉 大 学／東 海 大 学

第5位：山梨学院大学／松 本 大 学

第6位：高崎経済大学／城 西 大 学

第7位：信 州 大 学／新島短期大A

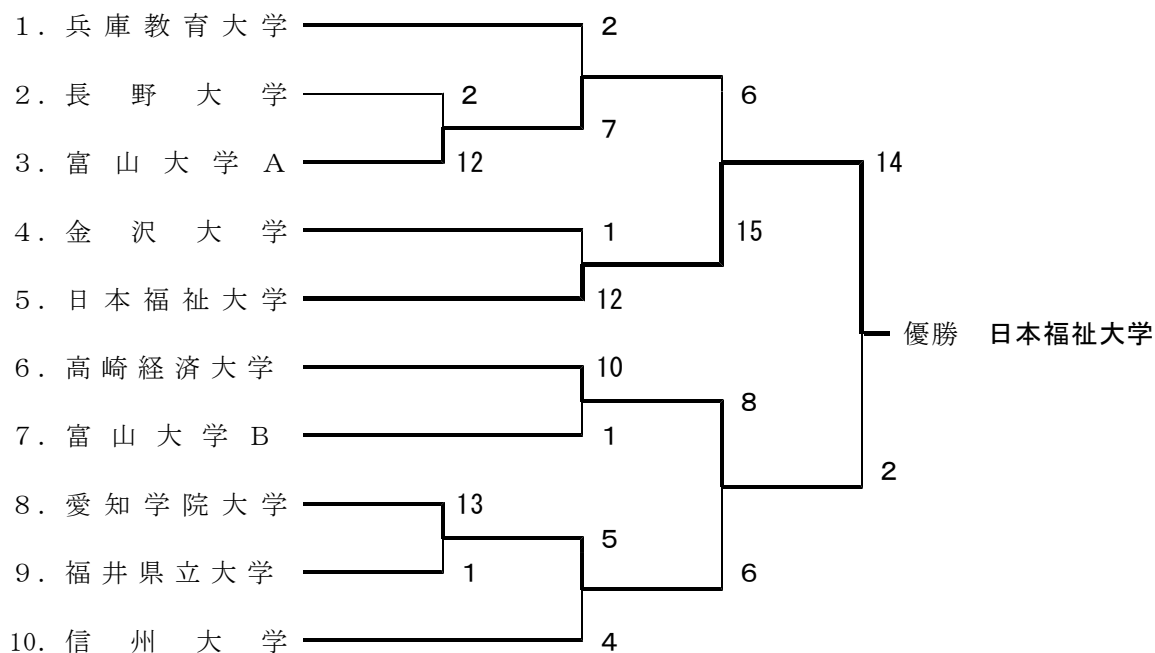
第8位：都留文科大学／新島短期大B

第12回 北信越大学オープンソフトボール大会

会期：平成27年 7月11日(土)・12日(日)

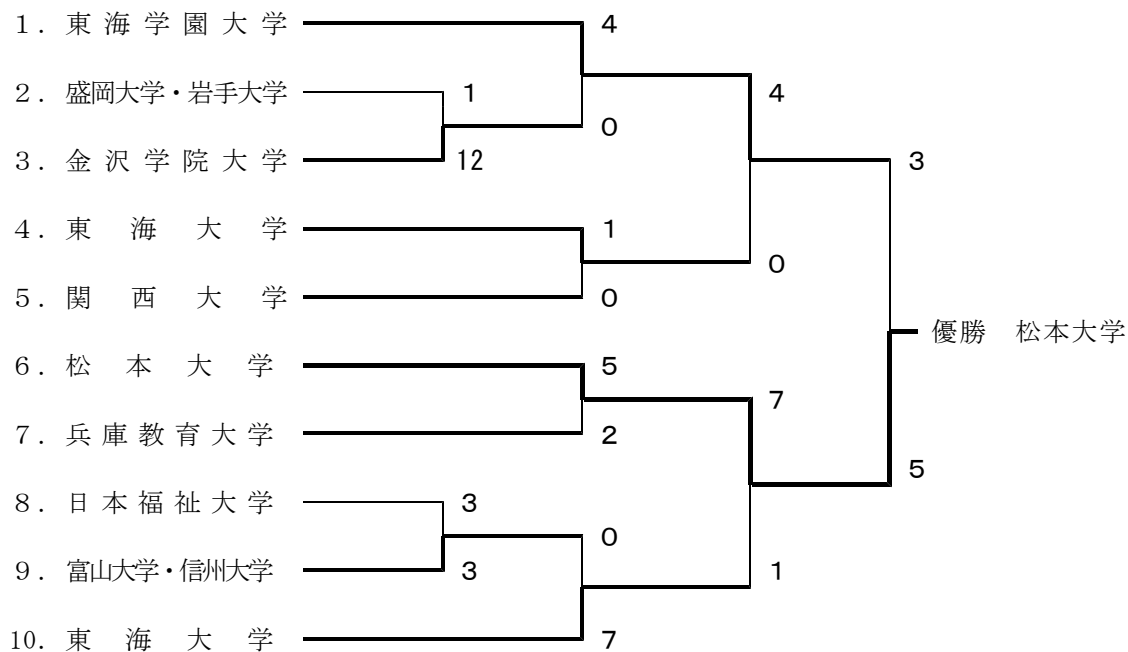
会場：富山県富山市／岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場

【男子】



敗者戦：福井県立大学18－2 長野大学、金沢大学13－3 富山大学 B、兵庫教育大学11－4 信州大学

【女子】



敗者戦：日本福祉大学 8－0 盛岡大学・岩手大学、関西大学12－0 兵庫教育大学、
金沢学院大学16－0 富山大学・信州大学

第7回 HAKUBA CUP 大学女子ソフトボール大会

会期：平成27年8月18日(火)～20日(木)

会場：長野県白馬村／村営北部グラウンド他

●第1日（1次予選トーナメント）

【白馬】

東京国際大学	7				
4	関西大学	2	2		
	金沢学院大学	10	5		
0	国際武道大学	1			
				金沢学院	

【杓子】

東京富士大学	2				
2	清和大学	0	2		
3	岐阜経済大学	0	0		
	奈良文化短大	5			
				東京富士	

【鍵】

2	大阪青山大学	2			
	山梨学院大学	3	3		
1	新島学園短大	3	2		
	日本福祉大学	7			
				山梨学院	

【乗鞍】

大阪国際大学	4				
0	至学館大学	1	2		
8	東海大学	4	9		
	松本大学	5			
				松本	

●第2日（2次予選トーナメント）

【岩岳】

金沢学院大学	9				
0	至学館大学	1	1		
7	大阪青山大学	0	0		
	奈良文化短大	5			
				金沢学院	

【八方】

東京富士大学	14				
6	国際武道大学	1	7		
	東海大学	2	1		
0	日本福祉大学	2			
				東京富士	

【五竜】

山梨学院大学	3				
1	清和大学	1	3		
5	関西大学	3	1		
	大阪国際大学	10			
				山梨学院	

【柵池】

松本大学	7				
3	新島学園短大	0	1		
7	岐阜経済大学	0	2		
	東京国際大学	5			
				東京国際	

●第3日（決勝トーナメント）

1～4位決定戦

8	1				
2	7	4	3		
金沢学院大学	東京富士大学	山梨学院大学	東京国際大学		
5			3		

5～8位決定戦

1	6				
4	1	7	2		
東海大学	大阪国際大学	松本大学	奈良文化短大		
3			2		

9～12位決定戦

8	2				
4	2	3	2		
関西大学	岐阜経済大学	大阪青山大学	国際武道大学		
15			2		

13～16位決定戦

8	1				
9	1	1	4		
日本福祉大学	新島学園短大	至学館大学	清和大学		
1			2		

●大会結果 優勝：東京富士大学、2位：山梨学院大学、3位：金沢学院大学、4位：東京国際大学

●最優秀選手賞：黒澤 花菜（東京富士大学）

第14回大学女子学生ソフトボール大会in八幡浜

会期：平成27年8月22日(土)・23日(日)

会場：愛媛県八幡浜市／王子の森公園グラウンド

予選リーグ戦

予選A	親和	龍谷	美作	青山	順
神戸親和		○ 3-2	* 6-0	○ 6-0	1
龍谷	● 2-3		● 3-6	* 0-4	4
美作	* 0-6	○ 6-3		● 4-0	2
大阪青山	● 0-6	* 4-0	○ 4-0		3

予選B	環短	園田	美作	順
環太平洋大学短大		● 0-7	● 1-2	3
園田学園	○ 7-0		○ 7-2	1
日本文理	○ 2-1	● 2-7		2

※2～3位は得失点差による。

予選C	大體	環太	同志社	順
大阪体育		● 0-3	● 0-10	3
環太平洋	○ 3-0		○ 4-0	1
同志社	○ 10-0	● 0-4		2

予選D	淑徳	国際	共立	順
淑徳		○ 4-1	● 2-10	2
大阪国際	● 1-4		● 0-2	3
九州共立	○ 10-2	○ 2-0		1

決勝トーナメント

1. 神戸親和女子大学	8								
2. 淑徳大学	3								
3. 園田学園女子大学	9								
4. 同志社大学	2								
5. 環太平洋大学	7								
6. 日本文理大学	0								
7. 九州共立大学	2								
8. 美作大学	1								

優勝 IPU環太平洋大学
(6年ぶり2回目)

エキストラマッチ

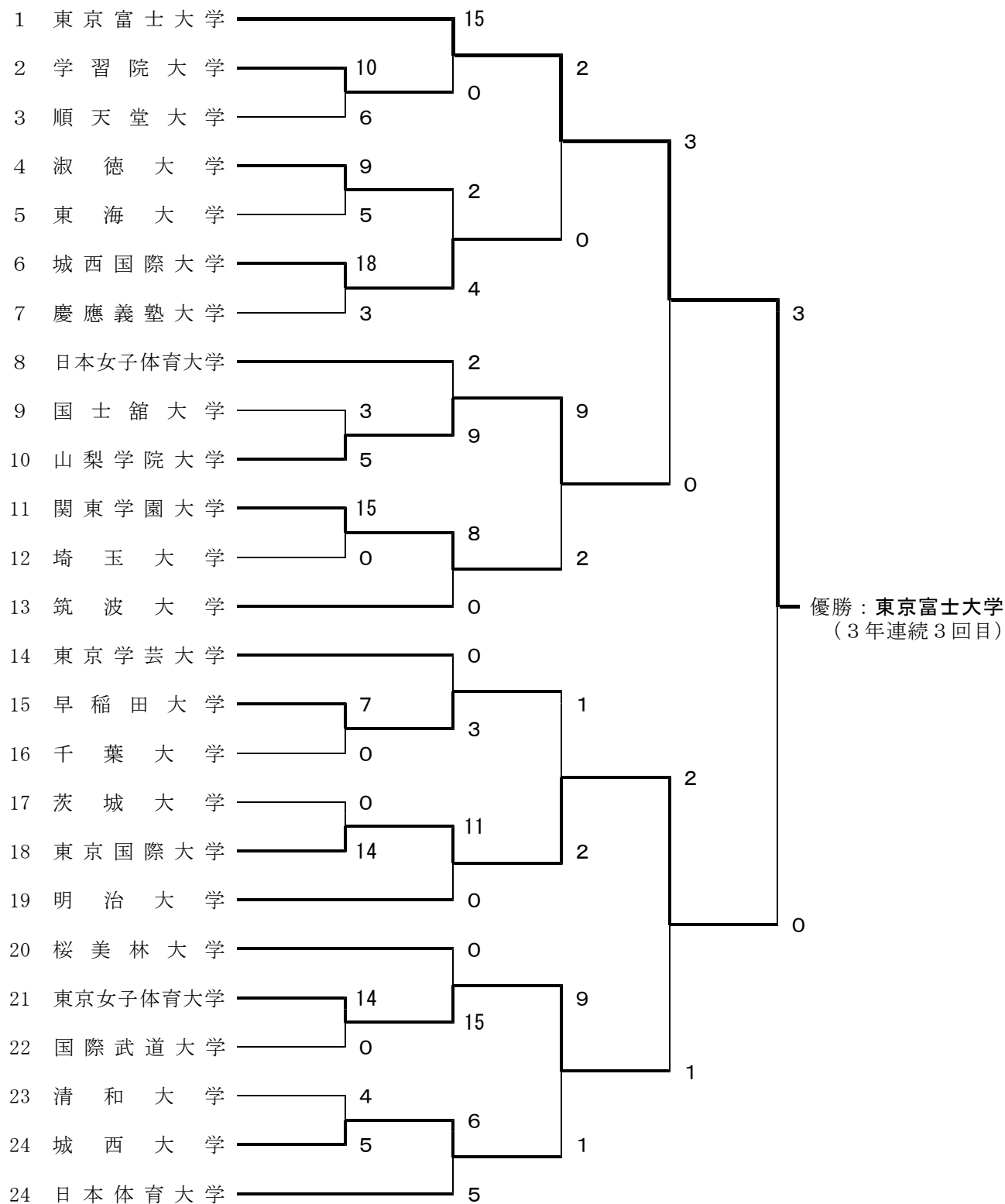
1. 大阪青山大学	10								
2. 環太平洋大学短大	4								
3. 大阪国際大学	3								
4. 大阪体育大学	1								
5. 龍谷大学	8								

第46回 関東大学男女ソフトボール選手権大会

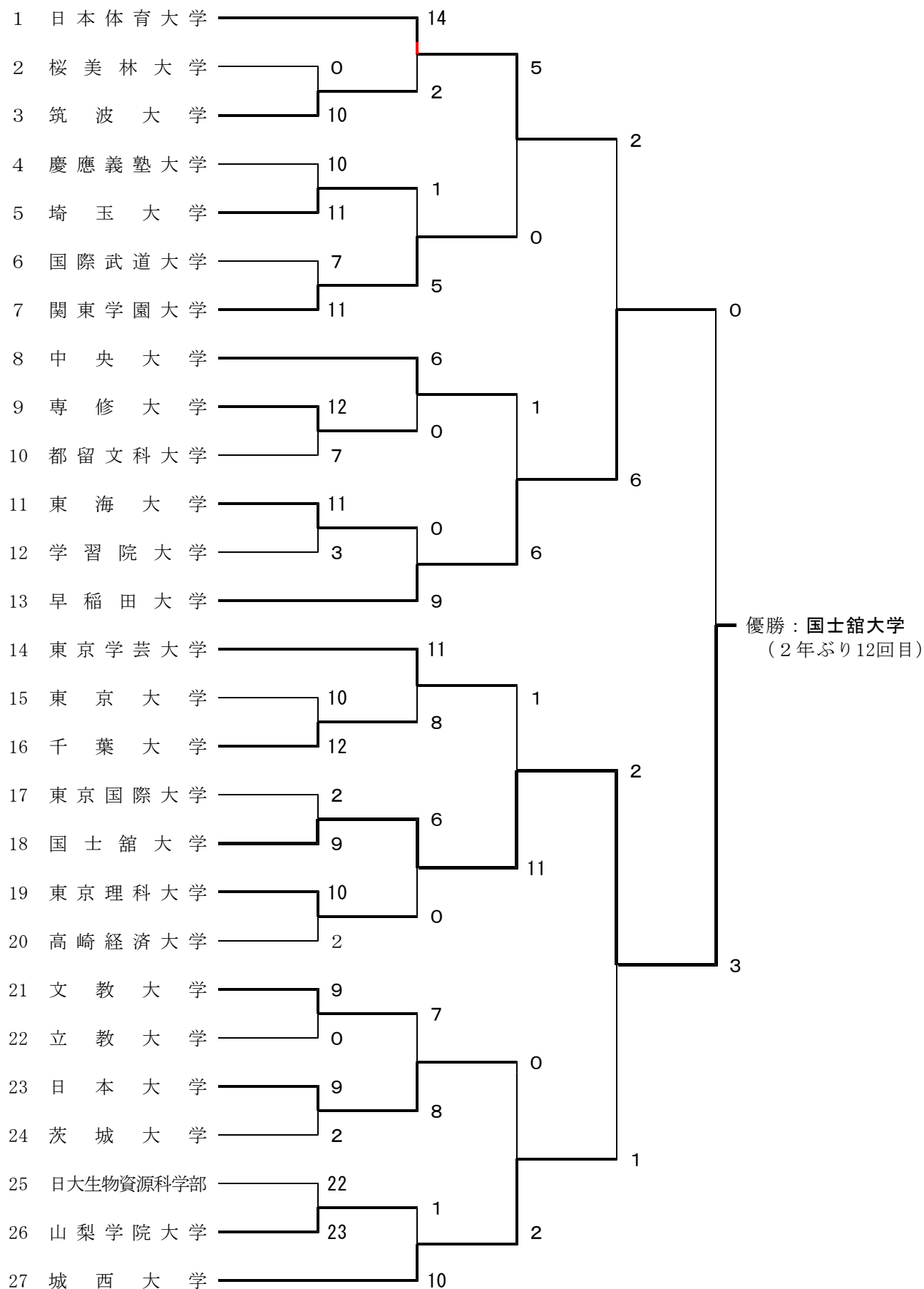
会期：平成27年11月14日(土)～16日(月)

会場：茨城県石岡市／総合運動公園 他

【女子】



【男子】



藤原初男杯第7回全国大学・実業団対抗ソフトボール選抜大会

会期：平成27年11月21日(土)・22日(日)

会場：愛知県豊田市／豊田市運動公園ソフトボール場・多目的広場

Aグループ	トヨタ	東 富	大 谷	中 京	理 化	城 西	園 田	東 学	勝	分	敗	順
トヨタ		○ 1-0	○ 4-0			○ 9-1	○ 3-0		4	0	0	優勝
東京富士	● 0-1			● 3-4	○ 7-3			○ 2-0	2	0	2	-
大阪大谷	● 0-4			● 2-3	○ 3-2			● 0-3	1	0	3	-
中 京		○ 4-3	○ 3-2			△ 3-3	● 2-12		2	1	1	-
東海理化		● 3-7	● 2-3			● 0-3	● 0-8		0	0	4	-
城 西	● 1-9			△ 3-3	○ 3-0			● 0-6	1	1	2	-
園 田	● 0-3			○ 12-2	○ 8-0			△ 0-0	2	1	1	-
東海学園		● 0-2	○ 3-0			○ 6-0	△ 0-0		2	1	1	-

Bグループ	織 機	東 福	I P U	日 福	DENSO	富 士	国 際	岐 経	勝	分	敗	順
豊田織機		○ 10-4	○ 3-0			○ 4-0	○ 9-0		4	0	0	2位
東北福祉	● 4-10			○ 4-0	● 3-4			○ 7-1	2	0	2	-
環太平洋	● 0-3			○ 4-0	○ 7-6			○ 3-2	3	0	1	-
日本福祉		● 0-4	● 0-4			○ 4-0	● 0-4		1	0	3	-
デンソー		○ 4-3	● 6-7			○ 7-0	○ 4-0		3	0	1	-
富 士	○ 4-0			● 0-4	● 0-7			○ 7-6	2	0	2	-
大阪国際	● 0-9			○ 4-0	● 0-4			△ 4-4	1	1	2	-
岐阜経済		● 1-7	● 2-3			● 6-7	△ 4-4		0	1	3	-

優勝：トヨタ自動車（4勝0敗失点率0.25） 準優勝：豊田自動織機（4勝0敗失点率1.00）

第61回全日本総合男子選手権大会

会期：平成27年9月26日(土)～28日(月)

会場：鹿児島県南九州市／知覧平和公園 他

[illegible]

第67回全日本総合女子選手権大会

会期：平成27年9月19日(土)～21日(月)

会場：岩手県花巻市／石鳥谷ふれあい運動公園 他

順位	チーム名	得点	順位	チーム名	得点
1.	トヨタ自動車(愛知)	15	6		
2.	M S H 医療専門学校(広島)	0	3		4
3.	東海学園大学(愛知)	0	7		0
4.	東京富士大学(東京)	6	1		3
5.	ビックカメラ女子ソフト高崎(群馬)	6	6		7
6.	日本精工(滋賀)	0	5		5
7.	NECプラットフォームズ(静岡)	1	4		0
8.	大和電気工業株式会社(長野)	6	3		7
9.	盛岡大学(岩手)	0	2		5
10.	福岡大学(福岡)	14	1		3
11.	豊田自動織機(愛知)	4	0		6
12.	山梨学院大学(山梨)	0	6		5
13.	ペヤングC(群馬)	2	5		3
14.	Y K K(富山)	3	4		6
15.	H o n d a(栃木)	7	3		10
16.	富士大学(岩手)	0	2		0
17.	太陽誘電(群馬)	10	1		2
18.	ドリーム☆ワールド(静岡)	0	0		1
19.	シオノギ製薬(兵庫)	2	0		3
20.	花王コスメ小田原(神奈川)	0	4		0
21.	伊予銀行(愛媛)	1	3		7
22.	武庫川女子大学(兵庫)	0	2		1
23.	日立(神奈川)	3	1		0
24.	環太平洋大学短期大学部(愛媛)	0	0		2
25.	デンソー(愛知)	7	7		1
26.	東北福祉大学(宮城)	0	6		0
27.	戸田中央総合病院(埼玉)	3	5		8
28.	I P U・環太平洋大学(岡山)	4	4		0
29.	関東学園大学(群馬)	0	3		10
30.	大垣ミナモトソフトボールクラブ(岐阜)	8	2		7
31.	日本文理大学(大分)	0	1		
32.	SGホールディンググループ(京都)	7	0		

【北海道東北地区】

平成27年度北海道・東北地区大学ソフトボール春季大会（男子）

会期：平成27年4月25日（土）・26日（日）、5月5日（土）・6日（日）

会場：宮城県柴田町／阿武隈川運動場、岩手県花巻市／石鳥谷ふれあい運動公園

チーム	北海道	弘 前	盛 岡	東 北	宮 教	仙 台	福 島	日大工	勝	分	負	順
北 海 道		*	○ 13-4	○ 13-0	● 5-6	● 2-10	*	*	2	0	2	8
弘 前	*		● 7-19	● 6-15	● 4-15	● 0-9	● 7-8	● 6-15	0	0	6	7
盛 岡	● 4-13	○ 19-7		○ 8-3	*	● 2-6	△ 13-13	○ 17-5	1	1	5	4
東 北	● 0-13	○ 15-6	● 3-8		○ 13-12	*	○ 6-4	○ 15-6	4	0	2	3
宮城教育	○ 6-5	○ 15-4	*	● 12-13		● 3-14	○ 12-6	○ 12-10	4	0	2	2
仙 台	○ 10-2	○ 9-0	○ 6-2	*	○ 14-3		○ 8-5	○ 10-1	6	0	0	1
福 島	*	△ 13-13	● 4-6	● 4-6	● 6-12	● 5-8		○ 18-1	1	1	4	5
日大工学	*	○ 15-6	● 5-7	● 6-15	● 10-12	● 1-10	● 1-18		1	0	5	6

※シードの関係で6試合以上を対象に順位付けする。

※勝率が同じ場合は、総得点の多い順、総失点の少ない順で順位をつける。

平成27年度北海道・東北地区大学ソフトボール春季大会（女子）

会期：平成27年5月3日（日）・4日（月）

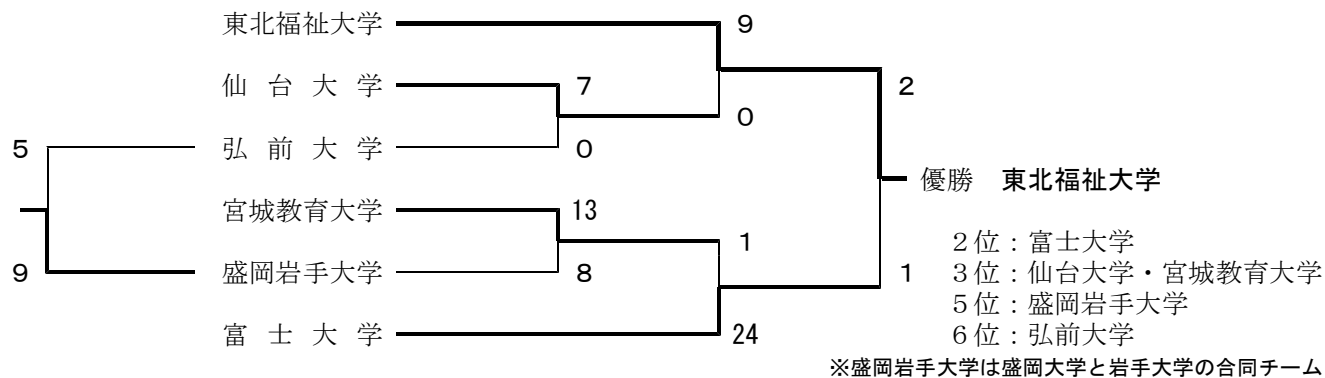
会場：岩手県八幡平市／松尾総合運動公園多目的運動広場

予選リーグ戦

予選A	東北福祉	宮城教育	弘 前	順位
東北福祉		○9-0	○22-3	1
宮城教育	○13-1		○9-8	2
弘 前	●3-22	●8-9		3

予選B	富 士	盛岡岩手	仙 台	順位
富 士		○20-0	○8-0	1
盛岡岩手	○13-1		●2-9	3
仙 台	●0-8	○9-2		2

決勝トーナメント

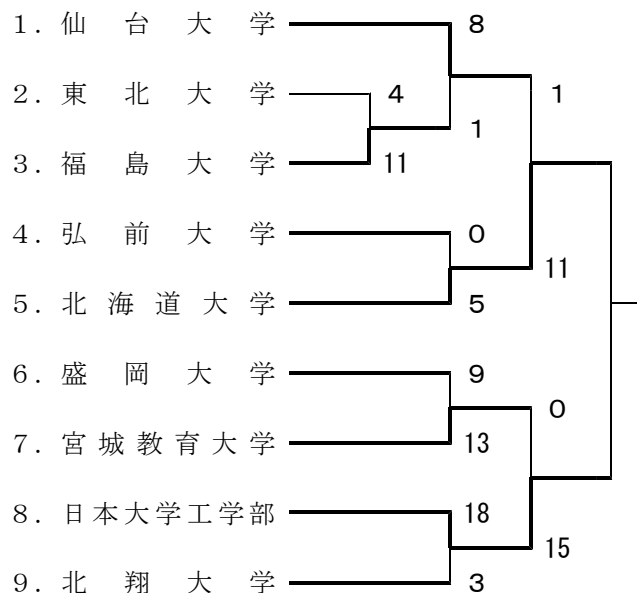


第36回北海道・東北地区大学ソフトボール選手権大会
兼、第50回全日本大学ソフトボール選手権大会北海道・東北地区予選会

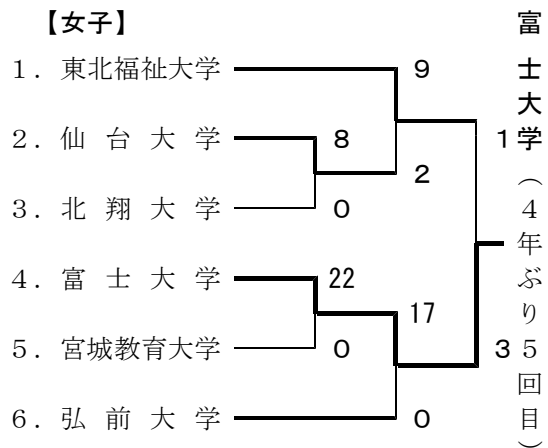
会期：平成27年 5月16日(土)・17日(日)

会場：山形県鶴岡市／櫛引総合運動公園(男子)、庄内町／八幡スポーツ公園ソフトボール場(女子)

【男子】



【女子】



※女子インカレ出場は、富士大学(6年連続11回目)、東北福祉大学(13年連続13回目)、

※雨天の影響により決勝戦を実施せず。

※男子インカレ出場は、北海道大学(2年連続3回目)と日本大学工学部(12年ぶり19回目)

平成27年度北海道・東北地区大学ソフトボール秋季大会（男子）

会期：平成27年10月17日（土）・18日（日）

会場：岩手県八幡平市／八幡平市松尾総合運動公園 多目的広場

予選リーグ戦

Aブロック	日大工学	弘 前	宮城教育	順位
日大工学		○19－9	●3－16	2
弘 前	●9－19		●6－16	3
宮城教育	○16－3	○16－6		1

Bブロック	北 海 道	盛 岡	東 北	順位
北 海 道		○16－4	○17－4	1
盛 岡	●4－16		●4－11	3
東 北	●4－17	○11－4		2

Cブロック

Cブロック	仙 台	福 島	北 翔	順位
仙 台		○9－8	○16－3	1
福 島	●8－9		○21－1	2
北 翔	●3－16	●1－21		3

順位決定戦

仙 台	2	北 翔	5
北 海 道	20	盛 岡	8
宮城教育	9	弘 前	3
福 島	7	東 北	8
日大工学	9		

最終成績

1位：宮城教育大学 2位：北海道大学 3位：仙台大学 4位：東北大学 5位：日本大学工学部
6位：福島大学 7位：盛岡大学 8位弘前大学 9位：北翔大学

平成27年度北海道・東北地区大学ソフトボール秋季大会（女子）

会期：平成27年10月24日（土）・25日（日）

会場：八幡平市松尾総合運動公園 多目的運動広場

予選リーグ戦

予選A	弘 前	岩手盛岡	東北福祉	順位
弘 前		○9－5	●18－4	2
岩手盛岡	●5－9		●0－9	3
東北福祉	○18－4	○9－0		1

予選B	富 士	宮城教育	仙 台	順位
富 士		○13－0	○14－0	1
宮城教育	●0－13		○4－1	2
仙 台	●0－14	●1－4		3

順位決定戦 東北福祉大学 5－0 富士大学、弘前大学 3－15 宮城教育大学、
岩手盛岡大学 1－15 仙台大学

最終成績 1位：東北福祉大学 2位：富士大学2位 3位：宮城教育大学 4位：弘前大学
5位：仙台大学 6位：岩手盛岡大学 ※岩手盛岡は盛岡大学と岩手大学の合同チーム

【関東地区】 第10回関東学生男子ソフトボール春季リーグ戦

会期：平成27年5月2日(土)・3日(日)・4日(月)

会場：埼玉県坂戸市／坂戸市民総合運動公園野球場、毛呂山町／西戸グラウンド

I 部リーグ

チーム	城西	国際武道	東海	東京理科	千葉	高崎経済	勝	分	敗	順位
城西		○3-0	○2-1	○3-2	○10-3	○22-1	5	0	0	優勝
国際武道	●0-3		○2-0	○11-1	●6-10	○16-6	3	0	2	2位
東海	●1-2	●0-2		○9-5	○6-4	○8-4	3	0	2	3位
東京理科	●2-3	●1-11	●5-9		△4-4	○12-11	1	1	3	5位
千葉	●3-10	○10-6	●4-6	△4-4		●2-4	1	1	3	4位
高崎経済	●1-22	●6-16	●4-8	●11-12	○4-2		1	0	4	6位

※勝ち点同数の順位はリーグ戦規定に基づき決定。

II 部リーグ

チーム	関東学園	山梨学院	渡橋国際	埼玉	都留文科	文教	勝	分	敗	順位
関東学園		○4-1	○11-1	○15-1	○11-1	○13-8	5	0	0	1位
山梨学院	●1-4		○12-7	○16-6	○9-2	●3-11	3	0	2	3位
東京国際	●1-11	●7-12		●8-9	○7-4	●2-19	1	0	4	5位
埼玉	●1-15	●6-16	○9-8		△5-5	●4-23	1	1	3	4位
都留文科	●1-11	●2-9	●4-7	△5-5		●9-11	0	1	4	6位
文教	●8-13	○11-3	○19-2	○23-4	○11-9		4	0	1	2位

III 部リーグ

チーム	茨城	日大生資	日大生産	筑波	中央学院	勝	分	敗	順位
茨城		○11-3	○25-2	●5-15	○19-5	3	0	1	2位
日大生資	●3-11		○16-5	△10-10	○17-8	2	1	1	3位
日大生産	●2-25	●5-16		●14-16	●8-13	0	0	4	5位
筑波	○15-5	△10-10	○16-14		○34-3	3	1	0	1位
中央学院	●5-19	●8-17	○13-8	●3-34		1	0	3	4位

I 部 II 部入替戦 高崎経済大学(I 部 6 位) 6-5 関東学園大学(II 部 1 位) ※高崎経済大学は I 部残留

II 部 III 部入替戦 都留文科大学(II 部 6 位) 5-22 筑波大学(III 部 1 位) ※筑波大学は II 部昇格

第10回 関東学生女子ソフトボール春季リーグ戦

会期：平成27年5月2日(土)・3日(日)・4日(月)

会場：埼玉県毛呂山町／大類ソフトボールパーク、鶴ヶ島市／運動公園

I 部リーグ

チーム	山梨学院	城西	城西	関東学園	淑徳	東海	勝	分	敗	順位
山梨学院	-	○4-1	●5-6	○2-0	○11-0	○7-0	4	0	1	優勝
東京国際	●1-4	-	○6-2	●4-6	○6-0	○9-2	3	0	2	2位
城西	○6-5	●2-6	-	○4-0	○15-6	●4-9	3	0	2	3位
関東学園	●0-2	○6-4	●0-4	-	○7-0	○7-0	3	0	2	4位
淑徳	●0-11	●0-6	●6-15	●0-7	-	●1-3	0	0	5	6位
東海	●0-7	●2-9	○9-4	●0-7	○3-1	-	2	0	3	5位

※勝ち点同数の順位はリーグ戦規定に基づき決定。

II 部リーグ

チーム	新島学園	清和	国際武道	城西国際	文教	順天堂	勝	分	敗	順位
新島学園	-	●3-4	○11-3	○19-7	●0-1	●0-1	2	0	3	5位
清和	○4-3	-	●7-10	●2-3	○13-5	○4-2	3	0	2	3位
国際武道	●3-11	○10-7	-	○7-6	○8-1	△4-4	3	1	1	1位
城西国際	●7-19	○3-2	●6-7	-	○7-2	○7-3	3	0	2	2位
文教	○1-0	●5-13	●1-8	●2-7	-	○11-0	2	0	3	4位
順天堂	○1-0	●2-4	△4-4	●3-7	●0-11	-	1	1	3	6位

※勝ち点同数の順位はリーグ戦規定に基づき決定。

III 部リーグ

チーム	千葉	筑波	茨城	埼玉	白鷗	勝	分	敗	順位
千葉	-	○11-9	○10-9	○8-7	●0-4	3	0	1	3位
筑波	●9-11	-	○10-3	○10-0	○4-3	3	0	1	2位
茨城	●9-10	●3-10	-	●5-9	●4-15	0	0	4	5位
埼玉	●7-8	●0-10	○9-5	-	●5-13	1	0	3	4位
白鷗	○4-0	●3-4	○15-4	○13-5	-	3	0	1	1位

※勝ち点同数の順位はリーグ戦規定に基づき決定。

I 部II 部入替戦 淑徳大学(I 部6 位) 7-0 国際武道大学(II 部1 位) ※淑徳大学はI 部残留

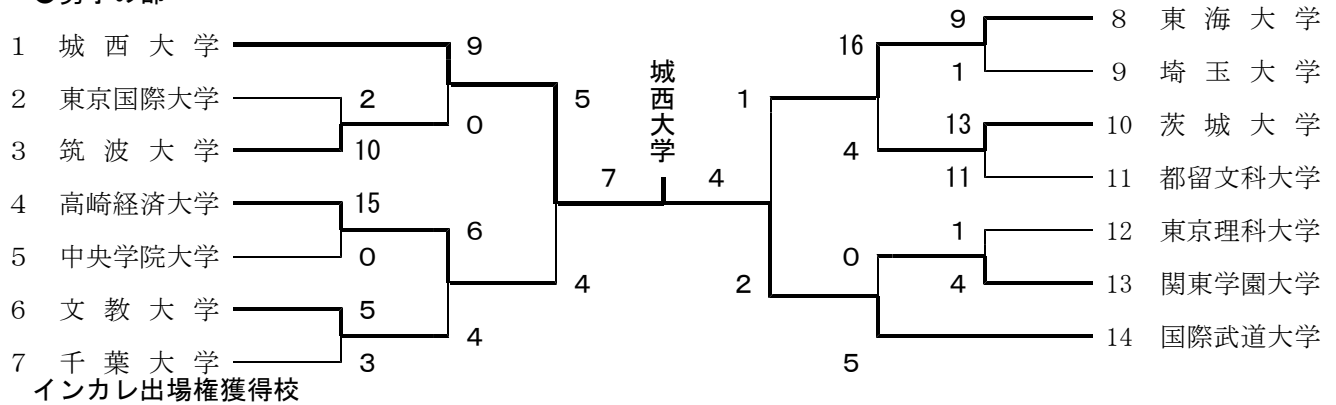
II 部III 部入替戦 順天堂大学(II 部6 位) 10-1 白鷗大学(III 部1 位) ※順天堂大学はII 部残留

第23回関東学生ソフトボール選手権大会 兼 第50回全日本大学ソフトボール選手権大会関東地区予選会

会期：平成27年 5月23日(土)・24日(日)

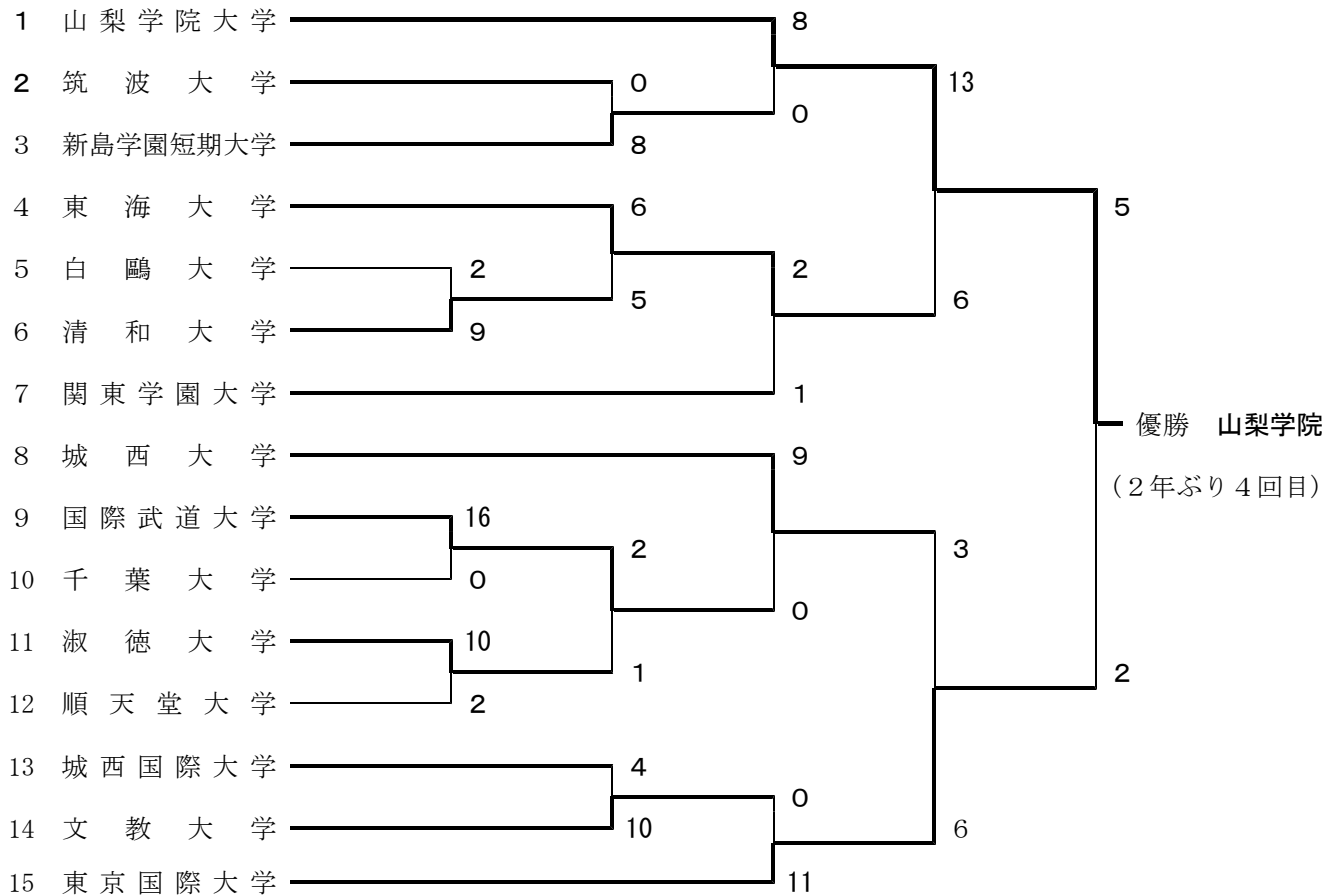
会場：千葉県千葉市／稲毛海浜公園球技場、他

●男子の部



城西大学（4年ぶり4回目の優勝、3年連続21回目）、国際武道大学（16年連続22回目）
高崎経済大学（2年連続29目）、東海大学（4年連続41回目）、

●女子の部



○敗者復活第5代表決定戦

新島学園短期大学	0	関東学園大学
関 東 学 園 大 学	2	

○敗者復活第6代表決定戦

国 際 武 道 大 学	1	
清 和 大 学	0	2
淑 徳 大 学	1	4
文 教 大 学	3	

インカレ出場権獲得校

山梨学院大学（7年連続7回目）、東京国際大学（5年連続5回目）、城 西 大 学（13年連続13回目）、東 海 大 学（3年連続28回目）、関東学園大学（4年連続5回目）、文 教 大 学（21年ぶり10回目）

第15回 関東学生男子ソフトボール秋季リーグ戦

会期：27年10月10日（土）・11日（日）・12日（月）

会場：群馬県藤岡市／烏川緑地グラウンド

I 部リーグ

チーム	城 西	国際武道	東 海	千 葉	東京理科	高崎経済	勝	分	敗	順 位
城 西		△0-0	○6-1	○9-2	○6-3	△2-2	3	0	2	2位
国際武道	△0-0		○7-6	○6-4	○9-2	○4-3	4	1	0	優勝
東 海	●1-6	●6-7		●0-9	○10-0	○6-5	2	0	3	3位
千 葉	●2-9	●4-6	○9-0		●1-6	●4-11	1	0	4	6位
東京理科	●3-6	●2-9	●0-10	○6-1		○9-5	2	0	3	4位
高崎経済	△2-2	●3-4	●5-6	○11-4	●5-9		1	1	3	5位

II 部リーグ

チーム	関東学園	文 教	山梨学院	埼 玉	東京国際	筑 波	勝	分	敗	順 位
関東学園		○6-0	○33-1	○20-1	○9-2	○18-1	5	0	0	1位
文 教	●0-6		○8-3	○14-8	○14-6	○7-0	4	0	1	2位
山梨学院	●1-33	●3-8		○14-11	●0-8	●4-23	1	0	4	5位
埼 玉	●1-20	●8-14	●11-14		●5-11	△3-3	0	1	4	6位
東京国際	●2-9	●6-14	○8-0	○11-5		○13-11	3	0	2	3位
筑 波	●1-18	●0-7	○23-4	△3-3	●11-13		1	1	3	4位

Ⅲ部リーグ

チーム	都留文科	茨 城	日大生資	中央学院	日大生産	勝	分	敗	順 位
都留文科		● 1 - 15	○ 9 - 6	○ 18 - 6	○ 12 - 4	1	0	3	2 位
茨 城	○ 15 - 1		○ 15 - 10	○ 18 - 0	○ 7 - 5	4	0	0	1 位
日大生資	● 6 - 9	● 10 - 15		○ 22 - 4	○ 13 - 10	2	0	2	3 位
中央学院	● 6 - 18	● 0 - 18	● 4 - 22		● 7 - 21	0	0	4	5 位
日大生産	● 4 - 12	● 5 - 7	● 10 - 13	○ 21 - 7		1	0	3	4 位

入替戦

I 部～II 部 千 葉 大 学 (I 部 6 位) 5 - 9 関東学園大学 (II 部 1 位) ※関東学園大学は I 部昇格

II 部～III 部 茨 城 大 学 (II 部 6 位) 13 - 12 茨 城 大 学 (III 部 1 位) ※埼玉大学は II 部残留

第15回 関東学生女子ソフトボール秋季リーグ戦

会期：平成27年10月10日(土)・11日(日)・12日(月)

会場：毛呂山町／大類ソフトボールパーク・駒形公園ソフトボール場 他

I 部リーグ

チーム	山梨学院	東京国際	城 西	関東学園	東 海	淑 徳	勝	分	敗	順 位
山梨学院		○ 7 - 0	○ 9 - 3	○ 6 - 2	● 5 - 7	○ 8 - 0	4	0	1	優勝
東京国際	● 0 - 7		● 0 - 5	○ 7 - 3	○ 9 - 5	○ 3 - 0	3	0	2	3 位
城 西	● 3 - 9	○ 5 - 0		○ 5 - 4	○ 10 - 0	● 1 - 2	3	0	2	2 位
関東学園	● 2 - 6	● 3 - 7	● 4 - 5		○ 5 - 3	○ 1 - 0	2	0	3	4 位
東 海	○ 7 - 5	● 5 - 9	● 0 - 10	● 3 - 5		○ 13 - 4	2	0	3	5 位
淑 徳	● 0 - 8	● 0 - 3	○ 2 - 1	● 0 - 1	● 4 - 13		1	0	4	6 位

※2位と3位、4位と5位の順位はリーグ戦規定による。

II 部リーグ

チーム	国際武道	城西国際	清 和	文 教	新島学園	順 天 堂	勝	分	敗	順 位
国際武道		● 0 - 9	● 2 - 6	○ 8 - 1	● 2 - 3	○ 4 - 3	2	0	3	5 位
城西国際	○ 9 - 0		● 1 - 4	● 1 - 3	○ 8 - 0	○ 10 - 3	3	0	2	3 位
清 和	○ 6 - 2	○ 4 - 1		○ 5 - 0	○ 3 - 0	○ 5 - 3	5	0	0	1 位
文 教	● 1 - 8	○ 3 - 1	● 0 - 5		○ 3 - 2	○ 25 - 3	3	0	2	2 位
新島学園	○ 3 - 2	● 0 - 8	● 0 - 3	● 2 - 3		○ 8 - 4	2	0	3	4 位
順 天 堂	● 3 - 4	● 3 - 10	● 3 - 5	● 3 - 25	● 4 - 8		0	0	5	6 位

※2位と3位、4位と5位の順位はリーグ戦規定による。

Ⅲ部リーグ

チーム	白 鷗	筑 波	千 葉	埼 玉	茨 城	日大生物	勝	分	敗	順 位
白 鷗		● 7-9	● 6-12	○ 8-0	○ 18-5	○ 22-0	3	0	2	3 位
筑 波	○ 9-7		● 9-10	○ 8-2	○ 8-1	○ 16-9	4	0	1	2 位
千 葉	○ 12-6	○ 10-9		△ 9-9	○ 12-10	○ 21-6	4	1	0	1 位
埼 玉	● 0-8	● 2-3	△ 9-9		● 4-7	● 14-15	0	1	4	6 位
茨 城	● 5-18	● 1-8	● 10-12	○ 7-4		○ 25-1	2	0	3	4 位
日大生物	● 0-23	● 9-16	● 6-21	○ 15-14	● 1-25		1	0	4	5 位

入替戦 10月17日 鶴ヶ島市／運動公園メイングラウンド

Ⅰ部Ⅱ部入替戦 淑徳大学(Ⅰ部6位) 3-2 清和大学(Ⅱ部1位) ※淑徳大学はⅠ部残留

Ⅱ部Ⅲ部入替戦 順天堂大学(Ⅱ部6位) 13-6 千葉大学(Ⅲ部1位) ※順天堂大学はⅡ部残留

【北信越地区】

第21回北信越地区大学男子・女子ソフトボール選手権大会
(兼、文部科学大臣杯第50回全日本大学ソフトボール選手権大会予選会)

会 期：平成27年5月16日(土)・17日(日)

会 場：新潟県上越市／少年野球場・高田公園ソフトボール場

【男子】

1. 福井県立大学	22						
2. 富山大学	15						
3. 長野大学	0						
4. 福井大学	1						
5. 信州大学	11						
6. 金沢大学	7						

優勝 信州大学 (インカレ出場権獲得、2年ぶり10回目)

【女子】

女子	松 本	金沢学院	金 沢	信 州	勝	分	敗	順 位
松 本		○ 3-0	○ 12-0	○ 11-0	3	0	0	優勝
金沢学院	● 0-3		○ 21-2	○ 10-0	2	0	1	2 位
金 沢	● 0-12	● 2-21		△ 8-8	0	1	2	3 位
信 州	● 0-11	● 0-10	△ 8-8		0	1	2	4 位

※3～4位は失点率による。 ※インカレ出場権獲得校：松本大学(10年連続10回目)、金沢学院大学(6年連続6回目)

第22回 北信越大学男女新人ソフトボール選手権大会

会期：平成27年10月10日（土）・11日（日）

会場：石川県白山市／グリーンパーク（サン・スポーツランド）

【男子】

チーム	金 沢	富 山	福井県	長 野	信 州	勝	分	敗	失点率	順位
金 沢		雨天中止	○13-12	●5-13	●0-20					雨天中止 順位なし
富 山	雨天中止		●9-17	○21-4	雨天中止					
福井県立	●12-13	○17-9		○9-2	雨天中止					
長 野	●13-20	●4-21	雨天中止		●1-9					
信 州	○20-0	雨天中止	雨天中止	○9-1						

【女子】

女子	金 沢	金沢学院	信 州	松 本	勝	分	敗	順 位
金 沢		●0-37	●0-16	●0-17	0	0	3	4位
金沢学院	○37-0		○8-0	△4-4	2	1	0	優勝
信 州	○16-0	●0-8		●5-9	1	0	2	3位
松 本	○17-0	△4-4	○9-5		2	1	0	2位

※1～2位は失点率による。

【東京地区】 平成27年度 第47回東京都大学ソフトボール春季リーグ戦

会期：平成27年4月11日～5月10日

会場：国士舘大学・早稲田大学 他

男子1部

チーム	日本体育	早 稲 田	国 士 舘	中 央	学 習 院	東京学芸	勝	分	敗	順 位
日本体育		○3-2	●1-6	○11-1	○10-0	○14-0	4	0	1	2位
早 稲 田	●2-3		●4-10	○8-0	○10-0	○15-0	3	0	2	3位
国 士 舘	○6-1	○10-4		●3-10	○12-1	○12-1	4	0	1	優勝
中 央	●1-11	●0-8	○10-3		○5-4	●4-5	2	0	3	5位
学 習 院	●0-10	●0-10	●1-12	●4-5		●6-7	0	0	5	6位
東京学芸	●0-14	●0-15	●1-12	○5-4	○7-6		2	0	3	5位

男子 2 部

チーム	明 治	日 本	専 修	東京都市	桜 美 林	慶應義塾	勝	分	敗	順 位
明 治		● 0 - 7	○ 8 - 6	○ 9 - 0	● 9 - 12	○ 8 - 6	3	0	2	2 位
日 本	○ 7 - 0		○ 8 - 0	○ 12 - 1	○ 5 - 0	○ 7 - 3	5	0	0	1 位
専 修	● 6 - 8	● 0 - 8		○ 11 - 5	○ 11 - 1	○ 1 - 0	3	0	2	3 位
東京都市	● 0 - 9	● 1 - 12	● 5 - 11		● 5 - 10	● 0 - 7	0	0	5	6 位
桜 美 林	○ 12 - 9	● 0 - 5	● 1 - 11	○ 10 - 5		● 2 - 3	2	0	3	5 位
慶應義塾	● 6 - 8	● 3 - 7	● 0 - 1	○ 7 - 0	○ 3 - 2		2	0	3	4 位

男子 3 部 A セレクション

チーム	成 蹊	帝 京	明 星	東京農業	大東文化	勝	分	敗	順 位
成 蹊		● 4 - 5	● 5 - 7	○ 14 - 13	○ 7 - 5	2	0	2	3 位
帝 京	○ 5 - 4		● 2 - 3	○ 7 - 2	● 4 - 8	2	0	2	2 位
明 星	○ 7 - 5	○ 3 - 2		○ 7 - 6	○ 11 - 1	4	0	0	1 位
東京農業	● 13 - 14	● 2 - 7	● 6 - 7		○ 9 - 4	1	0	3	4 位
大東文化	● 5 - 7	○ 8 - 4	● 1 - 11	● 4 - 9		1	0	3	5 位

男子 3 部 B セレクション

チーム	東 京	立 教	文教湘南	東 洋	勝	分	敗	順 位
東 京		○ 12 - 4	○ 12 - 9	● 3 - 13	2	0	1	2 位
立 教	● 4 - 12		△ 6 - 6	● 5 - 6	0	1	2	3 位
文教湘南	● 9 - 12	△ 6 - 6		● 4 - 11	0	1	2	4 位
東 洋	○ 13 - 3	○ 6 - 5	○ 11 - 4		3	0	0	1 位

男子 3 部 A B セレクション 優勝決定戦 明星大学 5 - 2 東洋大学

男子入れ替え戦

1 部 - 2 部 学習院大学 (6 位) 2 - 8 日本大学 (1 位) ※日本大学は 1 部昇格

2 部 - 3 部 東京都市大学 (6 位) 15 - 10 東洋大学 (1 位) ※東京都市大学は 2 部残留



女子 1 部

チーム	日本体育	東京富士	早稲田	東女体	国士館	日女体	勝	分	敗	順位
日本体育		○4-3	●2-6	○2-1	●4-5	○7-3	3	0	2	2位
東京富士	●3-4		●3-4	○2-0	○5-0	●5-6	2	0	3	3位
早稲田	○6-2	○4-3		○6-0	○5-3	○4-0	5	0	0	優勝
東女体	●1-2	●0-2	●0-6		○6-0	○7-0	2	0	3	4位
国士館	○5-4	●0-5	●3-5	●0-6		○12-5	2	0	3	5位
日女体	●3-7	○6-5	●0-4	●0-7	●5-12		1	0	4	6位

女子 2 部

チーム	東京学芸	中央	学習院	桜美林	慶應義塾	専修	勝	分	敗	順位
東京学芸		●7-9	●8-9	○15-0	○15-0	○15-0	3	0	2	3位
中央	○9-7		○6-4	●5-6	△5-5	○14-1	3	1	1	2位
学習院	○9-8	●4-6		○4-3	○9-4	○7-5	4	0	1	1位
桜美林	●0-15	○6-5	●3-4		●2-3	●2-7	1	0	4	6位
慶應義塾	●0-15	△5-5	●4-9	○3-2		○6-5	2	1	2	4位
専修	●0-15	●1-14	●5-7	○7-2	●5-6		1	0	4	5位

女子 3 部

チーム	日本	文教湘南	成蹊	明治	東洋	実践女子	勝	分	敗	順位
日本		○9-2	○11-3	△5-5	○6-3	○17-2	4	1	0	1位
文教湘南	●2-9		●1-11	●6-14	●6-7	●7-9	0	0	5	6位
成蹊	●3-11	○11-1		○17-7	●5-7	○6-5	3	0	2	3位
明治	△5-5	○14-6	●7-17		●4-12	○16-6	2	1	2	4位
東洋	●3-6	○7-6	○16-6	○12-4		○15-5	4	0	1	2位
実践女子	●2-17	○9-7	●5-6	●6-16	●5-15		1	0	4	5位

*勝敗が同じ場合の順位決定は、各リーグ戦とも失点率による。

女子入れ替え戦

1部-2部 日本女子体育大学(6位) 7-1 学習院大学(1位) ※日本女子体育大学は1部残留

2部-3部 桜美林大学(6位) 3-0 日本大学(1位) ※桜美林大学は2部残留

全日本大学選手権大会東京都第2次予選

男子

1. 東京学芸大学	10			
2. 明治大学	7		4	
3. 専修大学	12			東京学芸
1. 慶應義塾大学	4		2	
5. 中央大学	22			
6. 東洋大学	0		12	
7. 学習院大学	4			中央大学
8. 日本大学	14		10	

女子

1. 国士舘大学	10			
2. 専修大学	0		7	
3. 東京学芸大学	6			国士舘大
4. 中央大学	5		0	
5. 日女体大学	9			
6. 日本大学	1		5	
7. 慶應義塾大学	4			日女体大
8. 学習院大学	15		4	

第50回全日本大学選手権大会の東京地区代表校

男子：国士舘大学(50年連続50回目)、早稲田大学(50年連続50回目)、日本体育大学(50年連続50回目)、中央大学(4年連続26回目)、東京学芸大学(2年連続7回目)

女子：日本体育大学(50年連続50回目)、東京富士大学(4年連続4回目)、東京女子体育大学(50年連続50回目)、早稲田大学(11年連続12回目)、国士舘大学(5年連続21回目)、日本女子体育大学(3年連続46回目)

平成27年度 第47回東京都大学ソフトボール秋季リーグ戦

会期：平成27年9月26日～10月5日

会場：国士舘大学・早稲田大学・東京富士大学 他

男子1部

チーム	国士舘	日本体育	早稲田	東京学芸	中央	日本	勝	分	敗	順位
国士舘		○5-3	○11-1	○8-0	○3-2	○5-0	5	0	0	優勝
日本体育	●3-5		○7-4	○11-1	○7-0	○6-0	4	0	1	2位
早稲田	●1-11	●4-7		○11-1	●4-8	○10-2	2	0	3	4位
東京学芸	●0-8	●1-11	●1-11		●3-10	●2-5	0	0	5	6位
中央	●2-3	●0-7	○8-4	○10-3		○3-1	3	0	2	3位
日本	●0-5	●0-6	●2-10	○5-2	●1-3		1	0	4	5位

男子 2 部

チーム	学 習 院	明 治	専 修	慶應義塾	桜 美 林	東京都市	勝	分	敗	順 位
学 習 院		● 1-4	● 0-9	● 6-7	○ 12-2	○ 8-2	2	0	3	4 位
明 治	○ 4-1		● 5-7	△ 6-6	○ 7-5	○ 17-1	3	1	1	3 位
専 修	○ 9-0	○ 7-5		● 2-9	○ 15-4	○ 11-7	4	0	1	2 位
慶應義塾	○ 7-6	△ 6-6	○ 9-2		○ 12-8	○ 10-5	4	1	0	1 位
桜 美 林	● 2-12	● 5-7	● 4-15	● 8-12		○ 2-1	1	0	4	5 位
東京都市	● 2-8	● 1-17	● 7-11	● 5-10	● 1-2		0	0	5	6 位

男子 3 部 A セレクション

チーム	明 星	東 京	成 蹊	文 教	大東文化	勝	分	敗	順 位
明 星		● 5-7	● 3-5	● 5-6	△ 6-6	0	1	3	4 位
東 京	○ 7-5		○ 10-0	● 9-10	○ 10-3	3	0	1	1 位
成 蹊	○ 5-3	● 0-10		○ 8-7	○ 7-2	3	0	1	2 位
文 教	○ 6-5	○ 10-9	● 7-8		○ 13-12	3	0	1	3 位
大東文化	△ 6-6	● 3-10	● 2-7	● 12-13		0	1	3	5 位

男子 3 部 B セレクション

チーム	東 洋	帝 京	立 教	東京農業	勝	分	敗	順 位
東 洋		△ 9-9	○ 13-10	● 6-8	1	1	1	3 位
帝 京	△ 9-9		● 4-12	● 1-8	0	1	2	4 位
立 教	● 10-13	○ 12-4		○ 12-7	2	0	1	1 位
東京農業	○ 8-6	○ 8-1	● 7-12		2	0	1	2 位

男子 3 部 A B セレクション 優勝決定戦 東京大学 11-4 立教大学

男子入れ替え戦

1 部-2 部 東京学芸大学(6 位) 7-3 慶應義塾大学(1 位) ※東京学芸大学は 1 部残留

2 部-3 部 東京都市大学(6 位) 3-7 東京大学(1 位) ※東京大学は 2 部昇格



女子 1 部

チーム	早 稲 田	日本体育	東京富士	東 女 体	国 士 館	日 女 体	勝	分	敗	順 位
早 稲 田		○ 1 - 0	○ 3 - 2	● 2 - 3	○ 2 - 1	● 0 - 1	3	0	2	2 位
日本体育	● 0 - 1		○ 2 - 0	○ 3 - 2	○ 7 - 1	○ 5 - 0	4	0	1	1 位
東京富士	● 2 - 3	● 0 - 2		○ 6 - 2	○ 8 - 1	○ 1 - 0	3	0	2	3 位
東 女 体	○ 3 - 2	● 2 - 3	● 2 - 6		○ 8 - 5	○ 6 - 1	3	0	2	4 位
国 士 館	● 1 - 2	● 1 - 7	● 1 - 8	● 5 - 8		○ 4 - 2	1	0	4	5 位
日 女 体	○ 1 - 0	● 0 - 5	● 0 - 1	● 1 - 6	● 2 - 4		1	0	4	6 位

女子 2 部

チーム	学 習 院	中 央	東京学芸	慶應義塾	専 修	桜 美 林	勝	分	敗	順 位
学 習 院		○ 11 - 4	○ 6 - 3	○ 10 - 0	○ 12 - 6	○ 7 - 5	5	0	0	1 位
中 央	● 4 - 11		● 5 - 6	○ 10 - 0	● 5 - 6	○ 4 - 3	2	0	3	3 位
東京学芸	● 3 - 6	○ 6 - 5		○ 6 - 4	○ 10 - 3	○ 12 - 2	4	0	1	2 位
慶應義塾	● 0 - 10	● 0 - 10	● 4 - 6		△ 1 - 1	○ 6 - 2	1	1	3	5 位
専 修	● 6 - 12	○ 6 - 5	● 3 - 10	△ 1 - 1		△ 3 - 3	1	2	2	4 位
桜 美 林	● 5 - 7	● 3 - 4	● 2 - 12	● 2 - 6	△ 3 - 3		0	1	4	6 位

女子 3 部

チーム	日 本	東 洋	成 蹊	明 治	実践女子	文 教	勝	分	敗	順 位
日 本		○ 7 - 6	○ 13 - 1	○ 16 - 6	○ 24 - 3	● 6 - 9	4	0	1	2 位
東 洋	● 6 - 7		○ 12 - 2	○ 16 - 3	○ 9 - 1	○ 18 - 2	4	0	1	1 位
成 蹊	● 6 - 16	● 2 - 12		● 1 - 13	○ 15 - 13	● 5 - 8	1	0	4	5 位
明 治	● 6 - 16	● 3 - 16	○ 13 - 1		○ 12 - 3	● 12 - 13	2	0	3	4 位
実践女子	● 3 - 24	● 1 - 9	● 13 - 15	● 3 - 12		● 1 - 13	0	0	5	6 位
文 教	○ 9 - 6	● 2 - 18	○ 8 - 5	○ 13 - 12	○ 13 - 1		3	0	1	3 位

*勝敗が同じ場合の順位決定は、各リーグ戦とも失点率による。

女子入れ替え戦

1 部 - 2 部 日本女子体育大学(6 位) 6 - 3 慶應義塾大学(1 位) ※日本女子体育大学は 1 部残留
2 部 - 3 部 桜 美 林 大 学(6 位) 7 - 0 東 洋 大 学(1 位) ※桜美林大学は 2 部残留

中京テレビ杯

平成27年度春季第76回 東海地区大学(男子)ソフトボールリーグ戦

ー兼、第50回全日本大学ソフトボール選手権大会一次予選ー

ー兼、第47回西日本大学ソフトボール選手権大会予選ー

会期：平成27年5月5・6・9・10日

会場：愛知県刈谷市／亀城公園運動場・双葉グラウンド

一部リーグ戦

チーム	中京学院	常 葉	中 京	愛 知	岐阜聖徳	愛知学院	勝	敗	失点率	順
中京学院		○4－0	●3－5	○16－4	○10－0	○11－4	4	1	－	2
常 葉	●0－4		●1－4	●2－5	○8－1	○9－7	2	3	5.60	3
中 京	○5－3	○4－1		○8－4	○12－0	○18－0	5	0	－	1
愛 知	●4－16	○5－2	●4－8		○8－7	●9－10	2	3	6.50	4
岐阜聖徳	●0－10	●1－8	●0－12	●7－8		●5－12	0	5	－	6
愛知学院	●4－11	●7－9	●0－18	○10－9	○12－5		2	3	7.88	5

※3～5位は当該チーム間の失点率による。

二部リーグ戦

チーム	南 山	中 部	日本福祉	名 城	静 岡	名 古 屋	愛知教育	名古屋商科
南 山		○8－1	●6－8	○9－6	○13－5	○10－3	○4－2	○11－10
中 部	●1－8		●0－7	●5－9	○9－5	○8－1	○8－0	○10－9
日本福祉	○8－6	○7－0		○18－1	○15－0	○14－7	○10－3	○13－3
名 城	●6－9	○9－5	●1－8		○9－3	○11－1	●6－11	○10－2
静 岡	●5－13	●5－9	●0－15	●3－9		○7－4	○14－11	○12－8
名 古 屋	●3－10	●1－8	●7－14	●1－11	●4－7		●10－11	○21－20
愛知教育	●2－4	●0－8	●3－13	○11－6	●11－14	○11－10		○3－0
名古屋商科	●10－11	●9－10	●3－13	●2－10	●8－12	●20－21	●0－3	

2部最終成績

- 1位 日本福祉大学 (7勝0分0敗)
 2位 南山大学 (6勝0分1敗)
 3位 名城大学 (4勝0分3敗)
 4位 中部大学 (4勝0分3敗)
 5位 静岡大学 (3勝0分4敗)
 6位 愛知教育大学 (3勝0分4敗)
 7位 名古屋大学 (1勝0分6敗)

8位 名古屋商科大学 (0勝0分7敗)

※3～4位、5～6位は、当該チーム間の失点率による。

一部×二部入れ替え戦

愛知学院大学(5位)13－20南山大学(2位)

※愛知学院大学二部降格、南山大学一部昇格

岐阜聖徳学園大学(6位)3－18日本福祉大学(1位)

※岐阜聖徳学園大学二部降格、日本福祉大学一部昇格

代表

第12回東海地域大学ソフトボール選手権大会（第50回インカレ最終予選）：

中京大学・中京学院大学・常葉大学・愛知大学
日本福祉大学・南山大学・愛知学院大学・
岐阜聖徳学園大学

第47回西日本大学ソフトボール選手権大会：

中京大学・中京学院大学・常葉大学・愛知大学
日本福祉大学・南山大学

個人表彰選手

最優秀選手賞：鈴木 友也(中京大学)

一部首位打者賞：藤原 雄歩(中京学院大学)
記録5割8分8厘

一部打点賞：藤原 雄歩(中京学院大学)
記録10

本塁打点賞：福島 直弥(愛知学院大学)
記録3

盗塁賞：該当者なし

一部最優秀防御率賞：花岡 大輝(中京大学)
記録1.91

二部優秀選手賞：井上 力(日本福祉大学)

ベストマネジメント賞：古本 知大(愛知教育大学)

ベストマーケティング賞：高塚 千晴(常葉大学)

ベストスコアラー賞：高須富美子(中部大学)

ベストナテン

投手 古橋 和也(中京大学 2年)

捕手 佐藤 拳士(常葉大学 4年)

一塁手：鈴木 友也(中京大学 4年)

二塁手：藤原 雄歩(中京学院大学4年)

三塁手：荒木 大(常葉大学 3年)

遊撃手：佐野 俊介(中京大学 4年)

外野手：古川 寛雄(中京大学 4年)

外野手：金城 春紀(中京学院大学2年)

外野手：庄司 佳弘(常葉大学 3年)

D P F P：西里 博樹(中京学院大学4年)

講評

春のリーグ戦は、風に悩まされながらも好天に恵まれて予定通りの日程で終了することができま

した。主管いただきました刈谷市連盟をはじめとして開催にご尽力いただきました関係機関の皆さまに、まずもって御礼申し上げます。特に、今季は東海学園大学の人数不足による棄権で、2部が8チームのリーグ戦となり、運営スタッフのみならず、2試合連続や試合直前の運営担当などがあったチームの皆さんにも大変なご協力を賜りました。初めてのことでありましたが、無事終了できましたことに対して感謝申し上げます。

さて、今季注目されたのは、昨年秋のリーグ戦で圧倒的な力を見せつけて復活を果たした中京学院大学に対して、投手を中心とした堅い守りの常葉大学と攻守のバランスが取れた中京大学がどこまで食い下がられるかにありました。初日は順当に上位チームが勝ちを取めましたが、2日目に常葉大学が2敗を喫して脱落し、第3日には中京大学が中京学院大学のミスの乗じて接戦を制して優位に立ち、そのまま押し切って優勝を勝ち取りました。終わってみれば、常葉大学・愛知大学・愛知学院大学が2勝3敗で並び3チームの失点率による争いになった混戦のリーグ戦でありました。なお、常葉大学は5試合で無失策、守備率10割を達成したことは特記されます。

また二部は、初めての8チームによる総当たりのリーグ戦でありましたが、2日目までは見事なほど秋の上位チームが勝ち進み、3日目からは点差の小さい星のつぶし合いが始まりました。その中から抜け出したのは、他を圧する打力で秋に惜しくも一部復帰を逸した日本福祉大学でした。これに続いたのは、唯一日本福祉大学と接戦を演じた南山大学でした。下位チームでは、全敗で最下位ながら上位チームに1点差負けが3試合もあった名古屋商科大学の戦いが注目されました。これに象徴されるように、投手力の差が一部と二部の違いであり、地獄の二部を抜け出すためには何よりもまず投手力を中心とした守備力の強化が望まれます。なお、今季から学生主体のリーグ戦運営が開始しましたが、課題は山積するものの、その自覚とリーグ戦活性化の努力に期待します。(東海学連事務局長 水谷 博)

中京テレビ杯 平成27年度春季第65回 東海地区大学(女子)ソフトボールリーグ戦
 ー兼、第50回全日本大学ソフトボール選手権大会一次予選ー
 ー兼、第47回西日本大学ソフトボール選手権大会予選ー

会期：平成27年4月25・26・29日、5月3・4・5・6日

会場：愛知県東海市／新宝緑地運動公園、豊田市／運動公園ソフトボール場

一部リーグ戦結果

チーム	中 京	日本福祉	東海学園	鈴 鹿	常 葉	中京学院	勝	敗	失点率	順
中 京		○2-1 ○18-3	○2-0 ●1-3	○2-1 ○9-2	○6-1 ○1-0	○17-4 ○4-1	9	1	1.75	2位
日本福祉	●1-2 ●3-18		●0-10 ●2-10	●1-2 ●0-3	○8-0 ○7-3	○11-1 ○7-0	4	6	-	4位
東海学園	●1-2 ○3-1	○10-0 ○10-2		○4-2 ○6-0	○12-0 ○10-3	○6-0 ○17-1	9	1	1.01	優勝
鈴 鹿	●1-2 ●2-9	○2-1 ○3-0	●2-4 ●0-6		○5-4 ○2-0	○3-1 ○9-2	6	4	-	3位
常 葉	●1-6 ●0-1	●0-8 ●3-7	●0-12 ●3-10	●4-5 ●0-2		○8-5 ●7-8	1	9	6.46	6位
中京学院	●4-17 ●1-4	●1-11 ●0-7	●0-6 ●1-17	●1-3 ●2-9	●5-8 ○8-7		1	9	5.50	5位

※優勝～2位、5～6位は当該チーム間の失点率による。

二部リーグ戦結果

チーム	岐阜経済	至 学 館	岐阜聖徳	愛知教育	名 古 屋	静 岡	勝	分	敗	順位
岐阜経済		○9-6	○15-0	○8-1	○9-0	○19-0	5	0	0	1
至 学 館	●6-9		○7-2	○7-4	○9-1	○12-5	4	0	1	2
岐阜聖徳	●0-15	●2-7		○9-2	○19-1	○10-2	3	0	2	3
愛知教育	●1-8	●4-7	●2-9		○10-5	○8-1	2	0	3	4
名 古 屋	●0-9	●1-9	●1-19	●5-10		○10-5	1	0	4	5
静 岡	●0-19	●5-12	●2-10	●1-8	●5-10		0	0	4	6

一部×二部入れ替え戦

中京学院大学(5位)2-4至学館大学(2位)

※至学館大学一部昇格、中京学院大学二部降格

常葉大学(6位)2-9岐阜経済大学(1位)

※岐阜経済大学一部昇格、常葉大学二部降格

代表

第12回東海地域大学選手権大会(第50回インカレ最終予選)：

東海学園大学・中京大学・鈴鹿大学・

日本福祉大学・岐阜経済大学・至学館大学

中京学院大学・常葉大学

第47回西日本大学ソフトボール選手権大会：

東海学園大学・中京大学・鈴鹿大学・

日本福祉大学・岐阜経済大学・至学館大学

個人表彰選手

最優秀選手賞：木村麻利亜(東海学園大学)

一部首位打者賞：吉田 彩夏(東海学園大学)

記録5割3分3厘

一部打点賞：倉田 実沙(中京大学)

記録11

本塁打点賞：該当者なし

盗塁賞：倉田 実沙(中京大学)

記録9

一部最優秀防御率賞：長瀬 りえ(東海学園大学)

記録0.24

二部優秀選手賞：水谷八重乃(岐阜経済大学)

MIP賞：浦田 栞里(日本福祉大学)

ベストマネジメント賞：稲生 真純(中京学院大学)

ベストマーケティング賞：佐藤 皐(東海学園大学)

ベストスコアラー賞：宮城 志帆(常葉大学)

ベストテン

投手：木村麻利亜(東海学園大学)

捕手：平川 穂波(中京大学)

一塁手：香山紗貴子(中京大学)

二塁手：戸村 美紅(東海学園大学)

三塁手：木村 彩乃(鈴鹿大学)

遊撃手：松田 愛実(中京大学)

外野手：吉田 彩夏(東海学園大学)

外野手：飯塚 実沙(東海学園大学)

外野手：倉田 実沙(中京大学)

DPFP：長谷 瑞希(中京大学)

講評

今春季女子リーグ戦も一部1次リーグが4月25・26・29日の三日間、愛知県東海市新宝緑地公園で15試合、一部2次・二部リーグと入れ替え戦が5月3～6日の四日間、同県豊田市運動公園においての全32試合が行われた。多大なるご協力とご尽力をいただいた両協会に感謝申し上げます。

今リーグ戦は9勝1敗で東海学園大と中京大が並ぶ接戦となった。当該チーム同士の失点率、得点率も同率で、順位を決したのは対全チームの失点率となった。その結果、東海学園大が3季ぶり

12回目の優勝を飾った。特に東海学園大の二枚看板、先発・木村麻利亜、抑え・長瀬りえの“3年生投手コンビ”は見事な継投をみせた。打撃では新人の吉田彩夏が0.533で首位打者を獲得し、新旧投打の力が噛み合った優勝であった。準優勝の中京大は、打点賞(記録12)、盗塁賞(記録9)に輝いた倉田実沙を筆頭にベストテンに5人選ばれたが、要所でミスが見られ4季連続優勝を果たすことはできなかった。特に投手陣を柱とした、守備力の強化が必要となるだろう。全日本インカレの出場権を獲得した3位には、6勝4敗で鈴鹿大が入った。持ち前の打撃力を上位2チームの勝利に結びつけることができなかったが、全10試合に先発した大黒柱の三木聡美が踏ん張り、下位チームに取りこぼすことはなかった。前季創部初の準優勝を果たした日本福祉大は力を発揮できず、第4位と継続した強さを示すことはできなかった。下位2チームも上位同様、1勝9敗で並び、失点率対決となった。最終的には、最終戦を制した中京学院大が5位、常葉大が6位となった。

二部では、持ち前の攻撃力を発揮した岐阜経済大が5戦全勝で優勝を決めた。2位には、悲願の一部昇格を目指している古豪の至学館大が入り、入れ替え戦に望みをつなげた。入れ替え戦では、一部5位の中京学院大に二部2位の至学館大が挑んだ。4対2の接戦を制した至学館大が悲願の昇格を果たした。一部6位の常葉大と二部1位の岐阜経済大の試合では、2点ビハインドの5回裏、岐阜経済大が一挙8点を挙げ、5回コールドで一部昇格を果たした。

前季リーグ戦は「競争の激化」が話題となったが、今リーグ戦は残念ながら、上位2チームを脅かすチームが現れず、内容的にみても二極化を示す内容であった。5月23・24日に開催されるインカレ最終予選で、上位を脅かすチームが現れることを願いたい。

最後に、今季から冠スポンサーとなっていた中京テレビ放送(株)様から、ご協賛のみならず、取材活動、閉会式でのプレゼンターなど並々ならぬご尽力をいただきましたことに対し厚く感謝申し上げます。(理事長 二瓶 雄樹)

第12回東海地域大学男女ソフトボール選手権大会

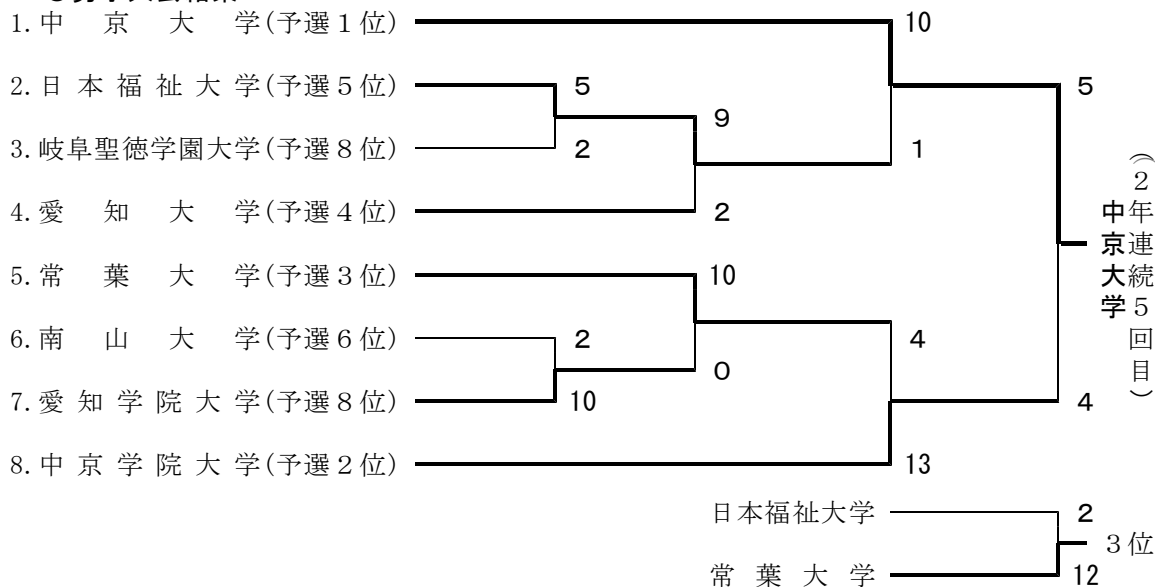
ー兼、第50回全日本大学(男・女)ソフトボール選手権大会東海地区最終予選会ー

会期：平成27年度5月23日(土)、24日(日)

会場：三重県鈴鹿市／鈴鹿川河川緑地公園 (男子)

三重県亀山市／関B&G海洋センター (女子)

●男子大会結果

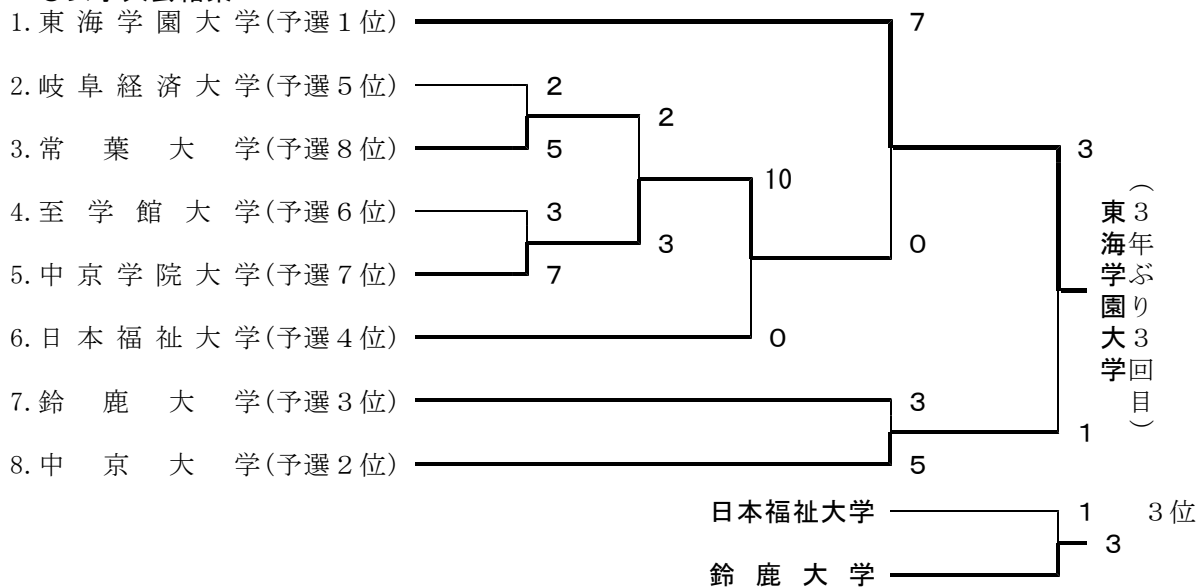


●インカレ出場権獲得校

中京大学(8年連続45回目)、中京学院大学(11回連続12回目)

常葉大学(3年連続18回目)、日本福祉大学(6年ぶり4回目)

●女子大会結果



●女子インカレ出場権獲得校

東海学園大学(8年連続14回目)、中京大学(31年連続40回目)

鈴鹿大学(7年連続7回目)、日本福祉大学(2年ぶり3回目)

中京テレビ杯

平成27年度秋季第77回 東海地区大学(男子)ソフトボールリーグ戦

会期：平成27年10月 3・4・17・18日

会場：岐阜県岐阜市／まきがね公園西グラウンド・多目的運動広場

一部リーグ戦

チーム	中 京	中京学院	常 葉	愛 知	日本福祉	南 山	勝	分	敗	順 位
中 京		● 3 - 4	○ 8 - 0	○ 8 - 6	○ 6 - 0	○ 11 - 1	4	0	1	2 位
中京学院	○ 4 - 3		○ 6 - 0	● 2 - 3	○ 13 - 4	○ 5 - 4	4	0	1	優勝
常 葉	● 0 - 8	● 0 - 6		○ 1 - 0	● 1 - 4	○ 7 - 2	2	0	3	4 位
愛 知	● 6 - 8	○ 3 - 0	● 0 - 1		● 1 - 5	○ 6 - 5	2	0	3	5 位
日本福祉	● 0 - 6	● 4 - 13	○ 4 - 1	○ 5 - 1		○ 12 - 5	3	0	2	3 位
南 山	● 1 - 11	● 4 - 5	● 2 - 7	● 5 - 6	● 5 - 12		0	0	5	6 位

※優勝～2位、4～5位は直接対戦の結果による。

二部リーグ戦

予選A g	愛知学院	中 部	静 岡	名 商	東海学園	勝	分	敗	順位
愛知学院		○ 13 - 5	○ 11 - 4	○ 13 - 1	○ 18 - 6	4	0	0	1 位
中 部	● 5 - 13		● 9 - 14	○ 12 - 4	○ 18 - 11	2	0	2	3 位
静 岡	● 4 - 11	○ 14 - 9		○ 14 - 4	○ 8 - 3	3	0	1	2 位
名古屋商	● 1 - 13	● 4 - 12	● 4 - 14		● 6 - 13	0	0	4	5 位
東海学園	● 6 - 18	● 11 - 18	● 3 - 8	○ 13 - 6		1	0	3	4 位

予選B g	岐阜聖徳	名 城	愛知教育	名 古 屋	勝	分	敗	順位
岐阜聖徳		● 4 - 7	○ 13 - 8	○ 17 - 3	2	0	1	2 位
名 城	○ 7 - 4		○ 12 - 9	○ 6 - 2	3	0	0	1 位
愛知教育	● 8 - 13	● 9 - 12		○ 10 - 9	1	0	2	3 位
名 古 屋	● 3 - 17	● 2 - 6	● 9 - 10		0	0	3	4 位

順位決定予備戦

岐阜聖徳学園大学(予選B 2位) 15-4 静 岡 大 学(予選B 2位)

中 部 大 学(予選B 3位) 10-8 愛知教育大学(予選A 3位)

名 古 屋 大 学(予選B 4位) 16-15 東海学園大学(予選A 4位)

順位決定戦

1 位 決 定 戦：愛知学院大学(予選A 1位) 12-7 名 城 大 学(予選B 1位)

2・3位決定戦：名城大学(1位決定戦敗者) 8－7 岐阜聖徳学園大学(予備戦勝者)
4・5位決定戦：中部大学(予備戦勝者) 14－11 静岡大学(予備戦敗者)
6・7位決定戦：名古屋大学(予備戦勝者) 8－7 愛知教育大学(予備戦敗者)
8・9位決定戦：東海学園大学(予備戦敗者) 14－11 名古屋商科大学(予選A 5位)

一・二部入れ替え戦

愛知大学(一部5位) 12－2 名城大学(二部2位) ※両大とも原部に残留

南山大学(一部6位) 6－7 愛知学院大学(二部1位) ※愛知学院大は一部昇格、南山大は二部降格

個人表彰選手

最優秀選手賞：金城 春紀(中京学院大学)

一部首位打者賞：井上 明(日本福祉大学)

記録：6割0分0厘

一部打点賞：井上 明(日本福祉大学)

記録：7

一部打点賞：鈴木 常聖(中京学院大学)

記録：7

本塁打賞：該当者なし

盗塁賞：該当者なし

一部最優秀防御率賞：比嘉 竜哉(中京学院大学)

記録：2.23

二部優秀選手賞：吉川 大貴(愛知学院大学)

ベストマネジメント賞：木村 晃拓(南山大学)

ベストマーケティング賞：石澤 大翼(名古屋大学)

ベストスコアラー賞：鈴木 満琴(愛知大学)

一部 ベストテン

投手：関口 幸輝(中京大学)

捕手：水本 健太(中京大学)

一塁手：松村 駿(日本福祉大学)

二塁手：高橋 拓海(中京学院大学)

三塁手：鈴木 聖常(中京学院大学)

遊撃手：田中 琢也(中京学院大学)

外野手：金城 春紀(中京学院大学)

外野手：生田 宗範(中京大学)

外野手：太田 敦也(南山大学)

D P F P：宮城 太亮(日本福祉大学)

二部 ベストプレイヤー

愛知学院大学：鈴木 誠士

名城大学：横井 友祐

岐阜聖徳学園大学：都築 寛範

中部大学：岩澤 健吾

静岡大学：三由康太郎

名古屋大学：今井 健太

愛知教育大学：長野 晃大

東海学園大学：青島 佑馬

名古屋商科大学：高橋 航平

講評

本リーグ戦は、2009年以来12季ぶり2回目の岐阜県での開催であった。開催にあたっては岐阜県協会をはじめとして、恵那市協会・中津川市協会・陶都協会など多数の皆様の献身的なご尽力をいただき、昨年噴火のあった霊峰御嶽山を仰いでのリーグ戦となった。幸い4日間とも好天に恵まれてさわやかな秋の青空の下で予定通りに開催でき、関係各位に御礼申し上げます。

一部リーグ戦は、中京大と中京学院大の2強に対して他の4チームがどのような戦いを挑むのかが注目されたが、初日に中京学院大が愛知大に逆転負けを喫するという波乱の展開で始まった。しかし、その後2強は順当な勝ちを収めて最終日を迎えた。3点を先行する中京学院大に対して中京大は1点差まで追いつけたが、最終回に逆転の走者を置いてあと1打が出ず、優勝は2季ぶり12回目の中京学院大、2位は中京大となった。

二部はいつものように10点前後で勝利を争う乱打戦が多く、その中で愛知学院大が一步抜け出て二部優勝と一部復帰を果たした。全体的には本塁打が多かったが、これは外野フェンスが71mであったというよりは、投手力の弱さにあることを認識してまずは、投手力を中心とする守備力の強化を望みたい。(事務局長 水谷 博)

中京テレビ杯

平成27年度秋季第66回東海地区大学(女子)ソフトボールリーグ戦

会期：平成27年9月28・29日、10月3・4日

会場：愛知県高浜市／碧海グラウンド・流作グラウンド

一部リーグ戦

チーム	東海学園	中 京	鈴 鹿	日本福祉	岐阜経済	至 学 館	勝	分	敗	順 位
東海学園		○ 9 - 7	○ 3 - 0	○ 5 - 4	○ 5 - 0	○ 11 - 0	5	0	0	優勝
中 京	● 7 - 9		● 3 - 4	○ 7 - 1	○ 18 - 2	○ 7 - 0	3	0	2	3位
鈴 鹿	● 0 - 3	○ 3 - 4		○ 5 - 2	○ 5 - 2	○ 4 - 0	4	0	1	2位
日本福祉	● 4 - 5	● 1 - 7	● 2 - 5		○ 3 - 0	○ 6 - 0	2	0	3	4位
岐阜経済	● 0 - 5	● 2 - 18	● 2 - 5	● 0 - 3		○ 7 - 0	1	0	4	5位
至 学 館	● 0 - 11	● 0 - 7	● 0 - 4	● 0 - 6	● 0 - 7		0	0	5	6位

二部リーグ戦

チーム	中京学院	常 葉	岐阜聖徳	愛知教育	名 古 屋	静 岡	勝	分	敗	順 位
中京学院		○ 4 - 0	● 0 - 2	○ 9 - 2	○ 3 - 2	○ 10 - 0	4	0	1	1位
常 葉	● 0 - 4		○ 4 - 2	○ 15 - 9	○ 10 - 0	○ 6 - 3	4	0	1	3位
岐阜聖徳	○ 2 - 0	● 2 - 4		○ 3 - 2	○ 7 - 0	○ 19 - 1	4	0	1	2位
愛知教育	● 2 - 9	● 9 - 15	● 2 - 3		○ 2 - 0	△ 7 - 7	1	1	3	4位
名 古 屋	● 2 - 3	● 0 - 10	● 0 - 7	● 0 - 2		● 5 - 6	0	0	5	6位
静 岡	● 0 - 10	● 3 - 6	● 1 - 19	△ 7 - 7	○ 6 - 5		1	1	3	5位

※1位～3位は当該チーム間、4～5位は全試合の失点率による。

一・二部入れ替え戦

岐阜経済大学(一部5位)10-0 岐阜聖徳学園大学(二部2位) ※岐経大は一部残留、岐聖大も二部残留
至学館大学(一部6位)2-6 中京学院大学(二部1位) ※中院大は一部昇格、至学館大は二部降格

個人表彰選手

最優秀選手賞：飯塚 紗耶 (東海学園大)

一部首位打者賞：川地 亜妃奈 (中京大)

記録7割0分0厘

一部打点賞：今川 瑞希 (中京大)

記録7

本塁打点賞：該当者なし

盗塁賞：該当者なし

一部最優秀防御率賞：長瀬 りえ (東海学園大)

記録1.27

二部優秀選手賞：林 奈央子 (中京学院大)

M I P 賞：高橋 利那 (鈴鹿大)

ベストマネジメント賞：新藤かおり (日本福祉大)

ベストマーケティング賞：菅沼 彌月 (東海学園大)

一部ベスト10：

投手 三木 聡美 (鈴鹿大学4年)

捕 手 棚町 佳奈（東海学園大学1年）
一 塁 手 須川有里加（日本福祉大学2年）
二 塁 手 松田 愛実（中京大学3年）
三 塁 手 今川 瑞希（中京大学2年）
遊 撃 手 吉田 彩夏（東海学園大学1年）
外 野 手 浦口 菜々（東海学園大学3年）
外 野 手 森光 眞子（鈴鹿大学3年）
外 野 手 天野 佑香（日本福祉大学3年）
D P F P 川地亜妃奈（中京大学3年）

二部ベストプレイヤー賞：

中 京 学 院 大 学：中村 風沙
岐 阜 聖 徳 学 園 大 学：堀部紗菜実
常 葉 大 学：堀田 留夏
愛 知 教 育 大 学：山口 弘美
静 岡 大 学：古郡美希奈
名 古 屋 大 学：今井 瞳

講評

9月26・27日、10月3・4日の四日間好天に恵まれ、愛知県高浜市連盟の皆様のご尽力により、滞りなく全日程が終了したことに感謝申し上げます。また最終日には、中京テレビ様のご尽力により、リーグ初のインターネット中継が行われました。今後、このような環境に見合う、素晴らしい試合が展開できるよう、リーグ全体として選手、チームのレベルアップ並びに選手教育に邁進して参ります。

今回のリーグ戦では、第50回全日本インカレでベスト4に残った東海学園大、中京大の二校が先導していくリーグ戦の展開が予想された。しかし、二日目その様相が一変する。中京大対鈴鹿大戦において、鈴鹿大が先制、それに中京大が追い付く展開繰り広げられた。最後は鈴鹿大が突き放して勝利を収め、「二強リーグ戦」の展望を打破した。三日目、全勝対決となった鈴鹿大対東海学園大戦でも、鈴鹿大は強力打線で女王相手に食ひ下がった。しかし、東海学園大の長瀬りえ（#18）の前に完封負けを喫し、地力の差を見せつけられた。最終日、鈴鹿大対日本福祉大戦では、2点を追う最終回裏、鈴鹿大が木村綾乃（#7）のサヨナ

ラスリーランを含む一挙5点を挙げサヨナラ勝利、準優勝に華を添えた。最終戦の中京大対東海学園大戦では、3回までに6点差をつけてリードしていた東海学園大に対し、中京大が3回に2点、4回に3点を返し、接戦へと持ち込んだ。さらに追加点を2点を挙げられて2点差まで迫られ最終回、一打逆転のピンチを迎えた東海学園大だったが、エース木村麻利亜（#11）が後続を断ち、全勝優勝を決めた。しかし、試合内容は、「二強対決」らしからぬもので、荒れた試合展開であった。この結果、東海学園大が二期連続12回目の優勝、準優勝には鈴鹿大、以下、中京大、日本福祉大、岐阜経済大、至学館大の順であった。

二部では、一敗で中京学院大、岐阜聖徳学園大、常葉大の3チームが並び、当該チーム間の失点率により中京学院大、岐阜聖徳学園大の二校が入れ替え戦へとコマを進めた。入れ替え戦では、中京学院大が至学館大に競り勝ち、一部昇格。岐阜聖徳学園大は、岐阜経済大に力及ばず、創部初の一部昇格はならなかった。また、下位では静岡大が健闘して最下位を久々に脱して4位愛知教育大、5位静岡大、6位名古屋大の順で決した。

中京テレビ最優秀選手賞には、優勝した東海学園大から外野手の飯塚沙耶（#7）が選ばれた。攻守ともに安定した活躍を見せ、5戦全勝に貢献した。しかし、要所でミスが見られただけに今後の成長に期待したい。ミズノ最優秀防御率は東海学園大の長瀬りえ（防御率1.24）が二期連続二回目の受賞、ルイスビルスラッガー・ジャパン首位打者賞には中京大の川地亜妃奈（#13）が打率0.700で初受賞した。また、二部優秀選手賞には、一部昇格の立役者となった中京学院大学の 林奈央子（#21）が選ばれた。

来年、第51回全日本インカレ鹿児島県大会では、学連創設50周年記念大会と称し、出場チームが増枠される（予定）。本リーグからも多くのチームを排出できるチャンスであり、来季の本リーグ戦では「競争力の激化」と「リーグ全体の底上げ」をより一層図っていただかなければならない。
（理事長 二瓶雄樹）

【近畿地区】

平成26年度 第46回春季関西学生ソフトボールリーグ戦（男子）

会期：平成27年 4月11日～5月24日

会場：大阪府吹田市／万博公園スポーツ広場

1部リーグ戦

チーム	関 西	立 命 館	京都産業	同 志 社	神戸学院	大阪体育	勝	分	敗	順 位
関 西		○12-2	○5-1	○7-0	○1-0	○3-1	5	0	0	1位
立 命 館	●2-12		○7-2	○10-4	△4-4	○14-0	3	1	1	2位
京都産業	●1-5	●2-7		○1-0	△3-3	○9-3	2	1	2	3位
同 志 社	●0-7	●4-10	●0-1		○4-2	○8-0	2	0	3	4位
神戸学院	●0-1	△4-4	△3-3	●2-4		○1-0	1	2	2	5位
大阪体育	●1-3	●4-14	●3-9	●0-8	●0-1		0	0	5	6位

☆関西大学は2季連続17回目の優勝！ 大阪体育大学は2部に自動降格

2部リーグ戦

A	大阪教育	京 都	大阪産業	大阪府立	京都学園	勝	分	敗	点	順 位
大阪教育		○6-5	○7-1	○3-0	○11-1	4	0	0	12	1位
京 都	●5-6		○4-0	○5-4	○5-0	3	0	1	9	2位
大阪産業	●1-7	●0-4		○4-1	○6-4	2	0	2	6	3位
大阪府立	●0-3	●4-5	●1-4		○6-5	1	0	3	3	4位
京都学園	●1-11	●0-5	●4-6	○5-6		0	0	4	0	5位

B	四天王寺	大阪経済	兵庫教育	大 阪	龍 谷	勝	分	敗	点	順 位
四天王寺		○8-3	○5-0	●2-3	○4-1	3	0	1	9	1位
大阪経済	●3-8		○7-1	○11-1	○4-1	3	0	1	9	2位
兵庫教育	●0-5	●1-7		○7-4	○6-5	2	0	2	6	3位
大 阪	○3-2	●1-11	●4-7		○11-8	2	0	2	6	4位
龍 谷	●1-4	●1-4	●5-6	●8-11		0	0	4	0	5位

※1～2位及び3～4位は当該チーム間勝ち点規定により決定

◎2部ブロック決勝 大阪教育大学6-4四天王寺大学 ☆大阪教育大学は1部に自動昇格

◎2部最下位決定戦 京都学園大学3-8龍谷大学 ★龍谷大学は3部に自動降格

3部リーグ戦

A	関西学院	兵庫県立	大阪市立	摂南	流通科学	勝	分	敗	点	順位
関西学院		○18-10	●4-5	○7-0	○12-11	3	0	1	9	1位
兵庫県立	●10-18		○10-9	○11-1	○5-1	3	0	1	9	2位
大阪市立	○5-4	●4-10		○11-2	●3-6	2	0	2	6	3位
摂南	●0-7	●1-11	●2-11		○15-8	1	0	3	3	4位
流通科学	●11-12	●1-5	○6-3	●8-15		1	0	3	3	5位

※1～2位及び4～5位は当該チーム間勝ち点規定により決定

B	甲南	近畿	大阪経法	奈良教育	勝	分	敗	点	順位
甲南		○6-4	○11-9	○18-3	3	0	0	9	1位
近畿	●4-6		○11-7	○16-2	2	0	1	6	2位
大阪経法	●9-11	●7-11		○16-4	1	0	2	3	3位
奈良教育	●3-18	●2-16	●4-16		0	0	3	0	4位

C	佛教	神戸	大阪工業	和歌山	勝	分	敗	点	順位
佛教		○6-2	○9-5	○3-0	3	0	0	9	1位
神戸	●2-6		○3-0	○10-0	2	0	1	6	2位
大阪工業	●5-9	●0-3		○9-3	1	0	2	3	3位
和歌山	●0-3	●0-10	●3-9		0	0	3	0	4位

◎3部ブロック決勝 関西学院大学3-8甲南大学 甲南大学2-2佛教大学
 佛教大学10-11関西学院大学 ☆関西学院大学は2部に自動昇格

◎入れ替え戦

1部・2部 四天王寺大学5-4神戸学院大学 ☆四天王寺大は1部昇格、神戸学院大は2部降格

2部・3部 龍谷大学4-5甲南大学 ☆甲南大は2部昇格、龍谷大は3部降格

◇西日本インカレ出場チーム（リーグ戦結果の上位10大学）

関西大学、立命館大学、京都産業大学、同志社大学、神戸学院大学、大阪体育大学、
 大阪教育大学、四天王寺大学、京都大学、大阪経済

◇全日本インカレ出場チーム（1部1・2位、及びインカレ予選により決定）

関西大学、立命館大学、京都産業大学、神戸学院大学、大阪体育大学、四天王寺大学、大阪経済大学

【総評】 昨年夏の全日本インカレで3位となり、その勢いのまま秋季リーグを制した関西大学。今季もリーグの中心となるであろうと思われ

ていたが、戦前の予想通り、1部は関西大学の全勝優勝となった。何よりも2年生ながらエースに君臨する松田投手の安定感は抜群で、夏の西日

本、全日本インカレでの活躍も大いに期待される内容であった。一方で、残念な結果に終わったのが、神戸学院大学であった。僅差のゲームばかりながらも1勝しかできず5位。2部との入れ替え戦でも四天王寺大学に破れ、屈辱の2部落ちとなった。

また、2部は橋本投手を中心に総合力に勝る大阪教育大学が全勝で優勝し、その後のブロック決勝にも勝利して、1部昇格を果たした。3部で加盟してから4季での1部昇格は近年では記憶にない程の速さである。1部でも新たな風を巻き起こしてほしい。もう一つのブロック優勝チーム・四天王寺大学も1部最昇格を果たした。ここ数年、1部と2部を行ったり来たりの四天王寺であるが、来季こそは1部に残留をしてほしい。その一

方で、多くのメンバーを驚かせたのが、龍谷大学の不振であった。ブロックで最下位、3部との入れ替え戦でも敗退。伝統、そして実績のあるチームだけにまた2部で活躍してほしい。

最後に、3部は関西学院大学、甲南大学、佛教大学がブロックを制し、ブロック決勝リーグを行った。僅差であったが、勢いのあった関西学院、そして入れ替え戦に勝利した甲南大学が2部昇格を果たした。

今季の結果を踏まえて、秋は1部と2部、2部と3部とも2チームが入れ替わる。多くのチームが新チームで臨む秋季であるが、昇格／降格したどちらにおいても、奮起を期待したい。（理事長 森田啓之）

平成27年度第47回春季関西学生ソフトボールリーグ戦（女子）

会期：平成27年4月12・18・19・26・29・5月3日

会場：園田学園女子大学・武庫川女子大学・四天王寺大学・摂南大学

1部リーグ戦成績

チーム	園田学園	大阪国際	大阪大谷	武庫川	天理	奈良文化	立命館	太成学院
園田学園		○8-1	○7-0	○4-1	○4-0	○5-0	○3-1	○7-0
大阪国際	●1-8		○2-1	○1-0	○3-2	●1-4	○5-1	●0-1
大阪大谷	●0-7	●1-2		○6-4	○4-2	●3-4	○2-0	○6-3
武庫川	●1-4	●0-1	●4-6		○1-0	○5-0	●4-5	○5-1
天理	●0-4	●2-3	●2-4	●0-1		○4-1	○4-3	○6-3
奈良文化	●0-5	○4-3	○4-3	●0-5	●1-4		○2-1	●5-6
立命館	●1-3	●1-5	●0-2	○5-4	●3-4	●1-2		○6-2
太成学院	●0-7	○1-0	●3-6	●1-5	●3-6	○6-5	●2-6	

※2～4位、5～6位は、当該チーム間の直接対戦の勝敗による。

1部最終成績

優勝 園田学園女子大学（7勝0分0敗）

2位 大阪国際大学（4勝0分3敗）

3位 大阪大谷大学（4勝0分3敗）

4位 武庫川女子大学（3勝0分4敗）

5位 天理大学 (3勝0分4敗)

7位 立命館大学 (2勝0分5敗)

1部個人表彰

打撃成績

順位	氏名	大学	打率
1位	石川 恭子	園田学園女子大学	0.55
2位	長船 実幸	武庫川女子大学	0.533
3位	田中 瑠莉	園田学園女子大学	0.5
4位	二宮 はな	園田学園女子大学	0.47
4位	田井亜加音	園田学園女子大学	0.47
4位	川口 藍	武庫川女子大学	0.47
7位	児島 優	園田学園女子大学	0.438
8位	熊谷 彩夏	奈良学園大学奈良文化女子短期大学部	0.411
9位	中井 万智	大阪大谷大学	0.4
10位	中西 美帆	立命館大学	0.391

投手成績

順位	氏名	大学	防御率
1位	原田 悠	園田学園女子大学	0.66
2位	尾崎 千裕	武庫川女子大学	0.75

2部リーグ戦対戦成績

チーム	神戸親和	同志社	関西大学	大阪体育	龍谷	大阪青山	勝	分	敗	順位
神戸親和	-	○3-0	○9-0	○3-2	○9-2	○5-2	5	0	0	1位
同志社	●0-3	-	○4-2	○6-1	●4-6	○8-2	3	0	2	2位
関西大学	●0-9	●2-4	-	○7-3	○7-3	○9-1	3	0	2	3位
大阪体育	●2-3	●1-6	●3-7	-	○5-3	○7-0	2	0	3	4位
龍谷	●2-9	○6-4	●3-7	●3-5	-	○6-4	2	0	3	5位
大阪青山	●2-5	●2-8	●1-9	●0-7	●4-6	-	0	0	5	6位

2部個人表彰

打撃成績

順位	氏名	大学	打率
1位	稲岡 桃香	同志社大学	0.625
2位	寺井 美咲	同志社大学	0.571
3位	井上 典子	大阪体育大学	0.462

6位 奈良学園大学奈良文化女子短期大学部 (3勝0分4敗)

8位 太成学院大学 (2勝0分5敗)

3位 本庄 遥 立命館大学 0.99

4位 北山 柚花 大阪国際大学 1.53

5位 森本 叶恵 奈良学園大学奈良文化女子短期大学部 1.82

ベストプレイ賞

大学	氏名	守備位置
園田学園女子大学	石川 恭子	遊撃手
大阪国際大学	北山 柚花	投手
大阪大谷大学	中井 万智	左翼手
武庫川女子大学	川口 藍	遊撃手
天理大学	佐藤 倫	一塁手
奈良学園大学奈良文化女子短期大学部	森本 叶恵	投手
立命館大学	中西 美帆	一塁手
太成学院大学	清水 藍子	内野手

ホームラン賞：佐藤 倫 天理大学 記録 3

盗塁賞：田中 瑠莉 園田学園女子大学 記録 5

3位 寺西 穂香 龍谷大学 0.462

3位 中尾 萌 神戸親和女子大学 0.462

6位 日浦 安奈 神戸親和女子大学 0.444

7位 梅本 貴美 龍谷大学 0.429

7位 服部 泉 龍谷大学 0.429

9位 小嶋那奈美 神戸親和大学 0.4

10位 重富めぐみ 同志社大学 0.357

投手成績

順位	氏名	大学	防御率
1位	浜西千那美	神戸親和女子大学	1.35
2位	尾崎 彩香	同志社大学	2.06
3位	伊戸 渚	龍谷大学	3

ベストプレイ賞

大学	氏名	守備位置
神戸親和女子大学	浜西千那美	投手

同志社大学	松下 奈央	捕手
関西大学	宮原 那奈	投手
大阪体育大学	砂山 奈菜	遊撃手
龍谷大学	梅本 貴美	中堅手
大阪青山大学	阿部 優衣	右翼手

ホームラン賞：中尾 萌 神戸親和女子大学
松下 奈央 同志社大学

記録2

盗塁賞：日浦 安奈 神戸親和女子大学 記録3

3部対戦成績表

チーム	びわこ	兵庫教育	佛教	京都女子	大阪教育	四天王寺	摂南	大阪府立
びわこ		○4-2	○15-0	○11-0		○16-0	○14-0	
兵庫教育	●2-4		○12-4		○12-2		○7-0	○7-0
佛教	●0-15	●4-12		○16-0	○9-5			○7-0
京都女子	●0-11		●0-16		●1-12	○10-3	○14-13	○7-0
大阪教育		●2-17	●5-9	○12-2		○25-4		○7-0
四天王寺	●0-17			●3-10	●4-25		○7-0	○11-1
摂南	●0-14	●0-7		●13-14		●0-7		○7-0
大阪府立		●0-7	●0-7	●0-7	●0-7	●1-11	0-7	

3部最終成績

優勝	びわこ成蹊スポーツ大学	(5勝0分0敗)	2位	兵庫教育大学	(4勝0分1敗)
3位	佛教大学	(3勝0分2敗)	4位	京都女子大学	(3勝0分3敗)
5位	大阪教育大学	(3勝0分2敗)	6位	四天王寺大学	(2勝0分3敗)
7位	摂南大学	(1勝0分4敗)	8位	大阪府立大学	(0勝0分6敗)

3部個人表彰

打撃成績

順位	氏名	大学	打率
1位	由川茅成実	びわこ成蹊スポーツ大学	0.764
2位	横山 千裕	びわこ成蹊スポーツ大学	0.600
2位	香川 彩香	摂南大学	0.600
4位	靄見 怜加	京都女子大学	0.545
5位	結城 千紘	大阪教育大学	0.533

6位	高重 由麻	びわこ成蹊スポーツ大学	0.592
6位	中村 祐奈	大阪教育大学	0.592
8位	清水 美里	摂南大学	0.500
9位	横井 春菜	兵庫教育大学	0.461
9位	岡田 千夏	兵庫教育大学	0.461

投手成績			
順位	氏 名	大 学	防御率
1 位	岡田 華奈	びわこ成蹊スポーツ大学	0.00

ベストプレイ賞			
大 学	氏 名	守備位置	
びわこ成蹊スポーツ大学	岡田 華奈	投 手	
兵庫教育大学	岡田 千夏	二塁手	

佛教大学	小林 稚波	外野手
京都女子大学	滝井 七海	投 手
大阪教育大学	結城 千紘	三塁手
四天王寺大学	杉本 裕加	中堅手
大阪府立大学	尾上 文菜	内野手

盗塁賞：横井 春菜 兵庫教育大学 記録6

平成27年度 第47回秋季関西学生ソフトボールリーグ戦（男子）

会期：平成27年9月5日～10月25日

会場：大阪府吹田市／万博公園スポーツ広場

1 部リーグ戦

チーム	関 西	立 命 館	同 志 社	大阪教育	京都産業	四天王寺	勝	分	敗	順 位
関 西		○2－1	○3－2	○3－0	○4－1	○7－3	5	0	0	1 位
立 命 館	●1－2		○5－4	○8－1	○8－4	○3－1	4	0	1	2 位
同 志 社	●2－3	●4－5		○15－6	○8－3	○9－2	3	0	2	3 位
大阪教育	●0－3	●1－8	●6－15		○5－4	○11－5	2	0	3	4 位
京都産業	●1－4	●4－8	●3－8	●4－5		△1－1	0	1	4	5 位
四天王寺	●3－7	●1－3	●2－9	●5－11	△1－1		0	1	4	6 位

☆関西大学は3季連続18度目の優勝！ 四天王寺大学は2部に自動降格 ※5～6位は得点差規定により決定

2 部リーグ戦

A	神戸学院	大阪経済	大阪府立	大 阪	関西学院	勝	分	敗	点	順 位
神戸学院		○5－3	○3－1	●4－6	○12－3	3	0	1	9	1 位
大阪経済	●3－5		●3－5	○13－2	○12－2	2	0	2	6	2 位
大阪府立	●1－3	○3－0		○11－4	●5－9	2	0	2	6	3 位
大 阪	○6－4	●2－13	●4－11		○11－10	2	0	2	6	4 位
関西学院	●3－12	●2－12	○9－5	●10－11		1	0	3	3	5 位

※2～4位は当該チーム間勝ち点規定により決定

B	兵庫教育	大阪体育	京 都	大阪産業	甲 南	勝	分	敗	点	順 位
兵庫教育		○ 3 - 2	● 3 - 7	○ 6 - 1	○ 3 - 2	3	0	1	9	1 位
大阪体育	● 2 - 3		○ 7 - 3	○ 11 - 7	○ 3 - 0	3	0	1	9	2 位
京 都	○ 7 - 3	● 3 - 7		○ 14 - 4	△ 6 - 6	2	1	1	7	3 位
大阪産業	● 1 - 6	● 7 - 11	● 4 - 14		○ 6 - 0	1	0	3	3	4 位
甲 南	● 2 - 3	● 0 - 3	△ 6 - 6	● 0 - 6		0	1	3	1	5 位

※ 1 ~ 2 位は当該チーム間勝ち点規定により決定

◎ 2 部ブロック決勝 神戸学院大学 6 - 2 兵庫教育大学 ☆神戸学院大学は 1 部に自動昇格

◎ 2 部最下位決定戦 関西学院大学 8 - 4 甲南大学 ★湖南大学は 3 部に自動降格

3 部リーグ戦

A	佛 教	大阪工業	神 戸	奈良教育	近 畿	勝	分	敗	点	順 位
佛 教		○ 10 - 4	○ 6 - 5	● 3 - 7	○ 11 - 1	3	0	1	9	1 位
大阪工業	● 4 - 10		○ 8 - 1	○ 13 - 10	○ 14 - 3	3	0	1	9	2 位
神 戸	● 5 - 6	● 1 - 8		○ 3 - 1	○ 14 - 3	2	0	2	6	3 位
奈良教育	○ 7 - 3	● 10 - 13	● 1 - 3		○ 8 - 3	2	0	2	6	4 位
近 畿	● 1 - 11	● 4 - 9	● 3 - 14	● 3 - 8		0	0	4	0	5 位

※ 1 ~ 2 位及び 3 ~ 4 は当該チーム間勝ち点規定により決定

B	摂 南	和 歌 山	兵庫県立	京都学園	勝	分	敗	点	順 位
摂 南		○ 8 - 7	● 2 - 10	○ 13 - 0	2	0	1	6	1 位
和 歌 山	● 7 - 8		○ 5 - 1	○ 12 - 9	2	0	1	6	2 位
兵庫県立	○ 10 - 2	● 1 - 5		△ 9 - 9	1	1	1	4	3 位
京都学園	● 0 - 13	● 9 - 12	△ 9 - 9		0	1	2	1	4 位

※ 1 ~ 2 位は当該チーム間勝ち点規定により決定

C	龍 谷	大阪経法	大阪市立	流通科学	勝	分	敗	点	順 位
龍 谷		○ 15 - 1	○ 11 - 6	○ 7 - 0	3	0	0	9	1 位
大阪経法	● 1 - 15		○ 16 - 1	○ 17 - 11	2	0	1	6	2 位
大阪市立	● 6 - 11	● 1 - 16		○ 20 - 8	1	0	2	3	3 位
流通科学	● 0 - 7	● 11 - 17	● 8 - 20		0	0	3	0	4 位

◎ 3 部ブロック決勝 佛教大学 9－9 摂南大学 龍谷大学 10－0 摂南大学
龍谷大学 5－2 佛教大学 ☆龍谷大学は 2 部に自動昇格

◎ 入れ替え戦

1 部・2 部 京都産業大学 10－0 兵庫教育大学 ☆両者とも原部に残留
2 部・3 部 関西学院大学 0－12 佛教大学 ☆佛教大学は 2 部昇格、関西学院大学は 3 部降格

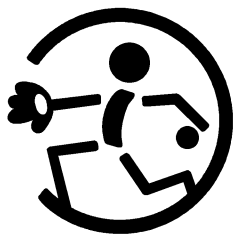
【総評】 今季の 1 部は、優勝争いはもちろんであるが、近年の最速スピードで 1 部昇格を果たした大阪教育大学がどこまで 1 部で戦えるかにも注目が集まった。さて、優勝は戦前の予想通り、2 季連続優勝の関西大学と、全日本インカレで大活躍した（雨天により 4 チーム同時入賞）立命館大学で争われた。直接対決は 2－1 というロースコアであったが、関西大学が逃げ切り、3 季連続の優勝となった。また、昇格組の大阪教育大学は 2 勝を挙げて 4 位となり、1 部残留を果たした。国公立大学は安定して新入生が入ってこないため、来年度のチーム編成は大変であろうが、是非とも力を付けていってほしいものである。

2 部では、A ブロックでまさかの 1 敗を喫したものの神戸学院大学が何とか 1 位で通過した。一方、B ブロックでは大阪体育大学との直接対決で勝利した兵庫教育大学が久しぶりの 1 位となり、ブロック決勝に進んだ。ただ、元 1 部の神戸学院大学の壁は厚く、続く京都産業大学との入れ替え

戦でも、力の差を痛感することとなった。

一方、3 部は A・B ブロックとも接戦となったが、大阪工業大学を下した佛教大学、和歌山大学を僅差で振り切った摂南大学がブロック決勝戦にそれぞれコマを進めた。残る C ブロックは、降格してきた龍谷大学がやはり 3 部では安定した強さで全勝。ブロック決勝でも 2 勝し、全勝で 2 部への振り返りを果たした。もう 1 枠は得失点差で摂南大学を上回った佛教大学が入れ替え戦でも大勝して、2 部昇格となった。

最後になるが、来年度から大阪協会関係者のご尽力で、長年にわたって関西学生ソフトボールリーグ戦を開催してきた吹田市（万博公園スポーツ広場）から主会場を泉南市に移すこととなった。これまで多方面にわたってお世話になってきた関係各位にお礼を申し上げるとともに、来年度以降も変わらぬご指導とご鞭撻をいただきたい。（理事長 森田啓之）



平成27年度第47回秋季関西学生ソフトボールリーグ戦（女子）

会期：平成27年 9月12・13・20・23・27日、10月4・11日

会場：園田学園女子大学・武庫川女子大学・大阪大谷大学・四天王寺大学・摂南大学

1部リーグ戦成績

チーム	園田学園	武庫川	立命館	大阪大谷	大阪国際	奈良文化	太成学院	神戸親和
園田学園		○3-1	○4-3	○4-1	○3-2	○6-0	○5-0	○4-2
武庫川	●1-3		○1-0	○7-4	○1-0	△2-2	●0-1	○3-2
立命館	●3-4	●0-1		○1-0	●0-3	○3-2	○6-0	○6-1
大阪大谷	●1-4	●4-7	●0-1		○1-0	○6-5	○6-3	●1-3
大阪国際	●2-3	●0-1	○3-0	●0-1		●4-8	○3-2	○6-3
奈良文化	●0-6	△2-2	●2-3	●5-6	○8-4		○6-3	●1-3
太成学院	●0-5	○1-0	●0-6	●3-6	●2-3	●3-6		○3-2
神戸親和	●2-4	●2-3	●1-6	○3-1	●3-6	○3-1	●2-3	

※4～5位は当該チームの直接対戦の勝敗、7～8位は当該チームの対戦成績・勝ち点による。

1部最終成績

優勝	園田学園女子大学	（7勝0分0敗）	2位	武庫川女子大学	（4勝1分2敗）
3位	立命館大学	（4勝0分3敗）	4位	大阪大谷大学	（3勝0分4敗）
5位	大阪国際大学	（3勝0分4敗）	6位	奈良学園大学奈良文化女子短期大学部	（2勝1分4敗）
7位	太成学院大学	（2勝0分5敗）	8位	神戸親和女子大学	（2勝0分5敗）

1部個人表彰

打撃成績

順位	氏名	大学	打率
1位	青木 千秋	大阪大谷大学	0.5
2位	早川みずき	太成学院大学	0.454
3位	仁科 芽惟	大阪大谷大学	0.434
4位	北山 柚花	大阪国際大学	0.411
4位	田井亜加音	園田学園女子大学	0.411
6位	磯貝 保乃	奈良学園大学奈良文化女子短期大学部	0.389
7位	前田 佳穂	大阪国際大学	0.375
8位	中尾 萌	神戸親和女子大学	0.375
9位	佐藤 優衣	太成学院大学	0.368
10位	西畑 安美	奈良学園大学奈良文化女子短期大学部	0.353

投手成績

順位	氏名	大学	防御率
1位	原 奈々	園田学園女子大学	0.309
1位	太田 春香	神戸親和女子大学	0.309
3位	尾崎 千裕	武庫川女子大学	0.875
4位	本庄 遥	立命館大学	1.333
5位	吉田 裕姫	太成学院大学	1.83

ベストプレイ賞

大学	氏名	守備位置
園田学園女子大学	原 奈々	投手
武庫川女子大学	明楽佳那子	三塁手
立命館大学	本庄 遥	投手
大阪大谷大学	中井 万智	左翼手

大阪国際大学 北山 柚花 投手
奈良学園大学奈良文化女子短期大学部 船山 優果 中堅手
 太成学院大学 吉田 優姫 投手
 神戸親和女子大学 太田 春香 投手

盗塁賞：堤加菜子 園田学園女子大学 記録4
 ホームラン賞：中井 万智 大阪大谷大学
 中尾 萌 神戸親和女子大学
 記録2

2部リーグ戦対戦成績

チーム	龍 谷	天 理	関 西	同 志 社	大阪体育	大阪青山	勝	分	敗	順 位
龍 谷		○ 2 - 0	○ 4 - 2	○ 4 - 0	○ 3 - 2	○ 3 - 2	5	0	0	1 位
天 理	● 0 - 2		○ 4 - 3	○ 3 - 1	○ 8 - 1	○ 3 - 1	4	0	1	2 位
関 西	● 2 - 4	● 3 - 4		○ 9 - 1	○ 11 - 5	○ 5 - 0	3	0	2	3 位
同 志 社	● 0 - 4	● 1 - 3	● 1 - 9		○ 9 - 6	○ 4 - 0	2	0	3	4 位
大阪体育	● 2 - 3	● 1 - 8	● 5 - 11	● 6 - 9		○ 1 - 0	1	0	4	5 位
大阪青山	● 2 - 3	● 1 - 3	● 0 - 5	● 0 - 4	● 0 - 1		0	0	5	6 位

2部個人表彰

打撃成績

順位	氏 名	大 学	打 率
1 位	奥 実里	龍谷大学	0.5
1 位	嶋本 鈴佳	天理大学	0.5
3 位	金谷 愛美	同志社大学	0.475
4 位	藤山 侑加	天理大学	0.462
5 位	平木 琴美	関西大学	0.444
5 位	安平 泉	関西大学	0.444
5 位	江口 実里	関西大学	0.444
8 位	山元麻莉絵	関西大学	0.429
8 位	寺西 穂香	龍谷大学	0.429
10 位	服部 泉	龍谷大学	0.412

投手成績

順位	氏 名	大 学	防御率
1 位	中島智奈都	大阪青山大学	0
2 位	神野まどか	天理大学	1
3 位	平木 琴美	関西大学	1.496

ベストプレイ賞

大 学	氏 名	守備位置
龍谷大学	井戸 渚	投 手
天理大学	佐藤 倫	一塁手
関西大学	田中 紗季	二塁手
同志社大学	金谷 愛美	三塁手
大阪体育大学	砂山 奈菜	遊撃手
大阪青山大学	中島智奈都	投 手

盗塁賞：松下 奈央 同志社大学
 金谷 愛美 同志社大学 記録2

ホームラン賞：佐藤 倫 天理大学 記録2



3 部対戦成績表

チーム	兵庫教育	大阪教育	びわこ	京都女子	佛 教	大阪産業	四天王寺	摂 南	大阪府立
兵庫教育		○ 9 - 0	○ 3 - 2		● 7 - 9	○ 3 - 1	○ 6 - 0		○ 12 - 1
大阪教育	● 0 - 9			○ 17 - 7	● 13 - 16	● 10 - 11	○ 12 - 5	○ 13 - 1 ○ 13 - 5	○ 16 - 1
びわこ 成 蹊	● 2 - 3			○ 10 - 1 ○ 1 - 0		○ 20 - 0	○ 15 - 0		○ 17 - 0
京都女子		● 7 - 17	● 1 - 10 ● 0 - 1		○ 15 - 8			○ 12 - 11	
佛 教	○ 9 - 7	○ 16 - 13		● 8 - 15		○ 17 - 1		○ 15 - 10	
大阪産業	● 1 - 13	○ 11 - 10	● 0 - 20		● 1 - 17		○ 15 - 5 ○ 10 - 0	○ 17 - 1	棄 権
四天王寺	● 0 - 16	● 5 - 12	● 0 - 15			● 5 - 15 ● 10 - 0		● 4 - 14 ● 0 - 7	○ 11 - 3
摂 南		● 1 - 13 ● 5 - 13		● 11 - 12	● 10 - 1	● 1 - 17	○ 14 - 4 ○ 7 - 0		○ 0 - 7
大阪府立	● 1 - 12	● 1 - 16	● 0 - 17			棄 権	● 3 - 11	● 7 - 0	

※順位は総合的な勝敗ではなく、予選リーグ、部別リーグ、順位戦において決定をした。

3 部最終成績

優勝 兵庫教育大学(5 勝 1 敗)、2 位 大阪教育大学(5 勝 3 敗)、3 位 びわこ成蹊スポーツ大学(5 勝 1 敗)
4 位 京都女子大学(2 勝 3 敗)、5 位 佛教大学 (4 勝 1 敗)、6 位 大阪産業大学 (4 勝 3 敗)
7 位 四天王寺大学(1 勝 7 敗)、8 位 摂南大学 (3 勝 5 敗)、9 位 大阪府立大学 (0 勝 5 敗)

3 部個人表彰

打撃成績

順位	氏 名	大 学	打率
1 位	藤岡明日香	兵庫教育大学	0.714
2 位	吉峯加奈恵	大阪教育大学	0.65
3 位	中村 祐奈	大阪教育大学	0.571
4 位	清水 美里	摂南大学	0.563
5 位	香川 彩香	摂南大学	0.556
6 位	高橋 侑花	佛教大学	0.55
7 位	高橋奈都美	京都女子大学	0.533
8 位	小口 咲希	びわこ成蹊スポーツ大学	0.53
9 位	結城 千紘	大阪教育大学	0.526
10 位	瀧井 七海	京都女子大学	0.5
10 位	藤田 美咲	佛教大学	0.5
10 位	佐藤絵里香	佛教大学	0.5
10 位	西沢 梨奈	佛教大学	0.5

投手成績

順位	氏 名	大 学	防御率
1 位	由川芽成実	びわこ成蹊スポーツ大学	0.474
2 位	中村 裕奈	大阪教育大学	3.75
3 位	立岡 由衣	佛教大学	9

ベストプレイ賞

大 学	氏 名	守備位置
兵庫教育大学	尾松 真衣	投 手
びわこ成蹊スポーツ大学	由川芽成実	投 手
佛教大学	西沢 梨奈	外野手
摂南大学	香川 彩香	捕 手
大阪府立大学	中村 涼	内野手
大阪産業大学	嶋田 愛	内野手
四天王寺大学	岡崎 知花	外野手
京都女子大学	山口奈都美	二塁手

盗塁賞：吉峯加奈恵 大阪教育大学 記録 6
ホームラン賞：香川 彩香 摂南大学 記録 3

【中国地区】

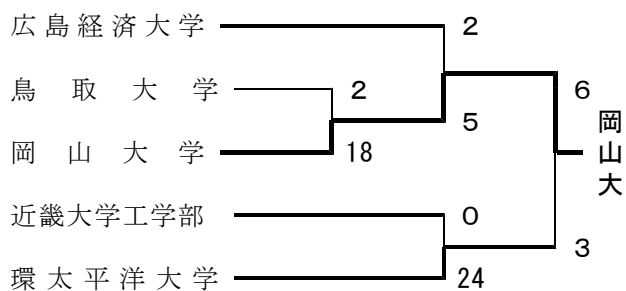
第50回全日本大学・第47回西日本大学ソフトボール選手権大会中国地区予選会

会期：平成27年5月16日(土)・17日(日)

会場：岡山県久米郡美咲町／中央運動公園（男子）

岡山県久米郡久米南町／町民運動公園（女子）

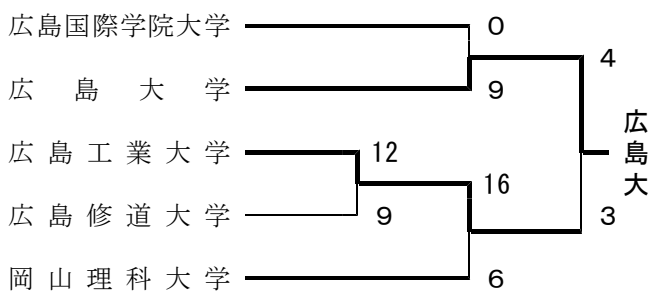
男子Aゾーン



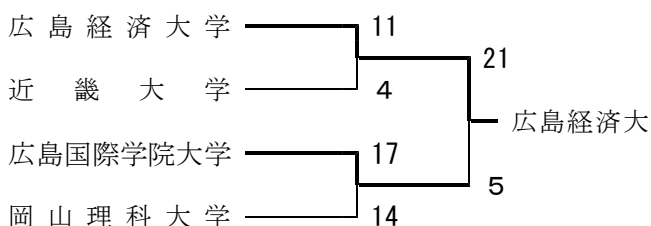
全日本大学選手権大会第三代表決定戦
(A・Bゾーン決勝戦敗退チーム)



男子Bゾーン



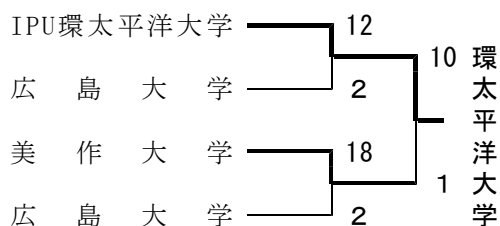
西日本大学選手権大会第5代表決定戦
(A・Bゾーン準決勝戦敗退チーム)



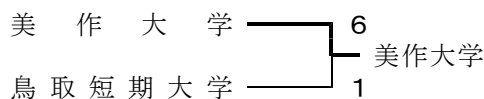
全日本大学選手権大会出場権獲得大学：岡山大学(2年ぶり9回目)・広島大学(2年連続15回目)・
環太平洋大学(9年連続9回目)

西日本大学選手権大会出場権獲得大学：岡山大学・広島大学・環太平洋大学・広島工業大学・
広島経済大学

女子



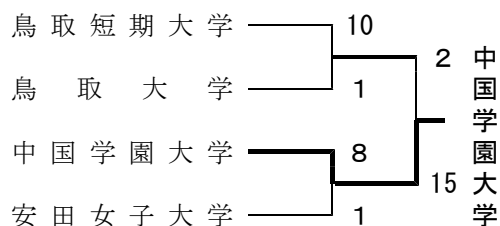
全日本大学選手権大会第3代表決定戦



全日本大学選手権大会出場権獲得大学：環太平洋大学(9年連続9回目)・

中国学園大学(3年ぶり5回目)・美作大学(2年連続2回目)

西日本大学選手権大会出場権獲得大学：環太平洋大学・中国学園大学・美作大学・鳥取短期大学



第50回全日本大学(男・女)ソフトボール選手権大会四国予選会 一兼、第47回西日本大学ソフトボール選手権大会四国予選会一

会期：平成27年5月23日(土)・24日(日)

会場：徳島県徳島市／吉野川北岸グラウンド

【男子】

四国大学	4				
松山大学	8	4			
香川大学	2		1		
高知大学	7		6		
高知工科大学	13				
愛媛大学	8		2		
徳島大学				10	

3位決定戦：徳島大学4－3松山大学

全日本大学選手権出場権獲得校：
高知工科大学（2年ぶり3回目）
高知大学（6年ぶり14回目）

西日本大学選手権出場権獲得校：
高知工科大学・高知大学・徳島大学

【女子】

環太平洋大学短期大学部 15－0 四国大学

全日本大学選手権出場権獲得校：環太平洋大学短期大学部(18年連続18回目)

西日本大学選手権出場権獲得校：環太平洋大学短期大学部

平成27年度四国地区大学(男・女)ソフトボール秋季大会

会期：平成27年10月10日(土)・11日(日)

会場：香川県坂出市／総社グラウンド

【男子予選リーグ戦】

予選A	徳島	香川	高知	愛媛	順
徳島		● 2－9	* 9－8	● 2－9	4
香川	○ 9－2		○ 9－8	* 23－0	1
高知	* 8－9	● 8－9		○ 23－0	2
愛媛	○ 9－2	* 0－23	● 0－23		3

予選B	松山	高工	四国	順
松山		● 1－8	○ 17－9	2
高知工科	○ 8－1		○ 19－1	1
四国	● 9－17	● 1－19		3

※2～3位は得失点差による。

【男子順位決定戦】

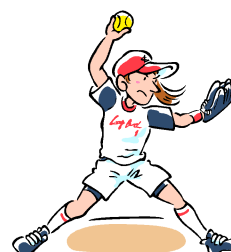
1～4位	香川	高知	高工	松山	順
香川		*	○ 2-1	○ 16-9	4
高知	*		● 2-7	● 6-9	1
高知工科	● 1-2	○ 7-2		*	2
松山	● 9-16	○ 9-6	*		3

5～7位	愛媛	徳島	四国	順
愛媛		● 2-11	● 9-10	7
徳島	○ 11-2		○ 14-3	5
四国	○ 10-9	● 3-14		6

※2～3位は得失点差による。

【女子】

チーム	香川	四国	I P U	順
香川		○ 36-2	● 0-20	2
四国	● 2-36		● 0-37	3
I P U短大	○ 20-0	○ 37-0		1



機関誌ウインドミルの原稿並びに研究企画などの募集

来年度以降も、内容をいっそう充実・発展させていくために、どしどし原稿をお願いします。論説、提言から研究報告、あるいは情報の提供に至るまで、多様なものを期待しています。とともに、こんな研究内容や企画をしてほしい！というようなものがあれば、併せて連絡をくださいますようお願いいたします。特に学生の皆さんから。なお、毎年11月末日が原稿の〆切となりますが、随時受付しておりますので、下記までお問い合わせください。

森 田 啓 之

〒673-1494 兵庫県加東郡社町下久米942-1 兵庫教育大学

TEL & FAX : (0795) 44-2227

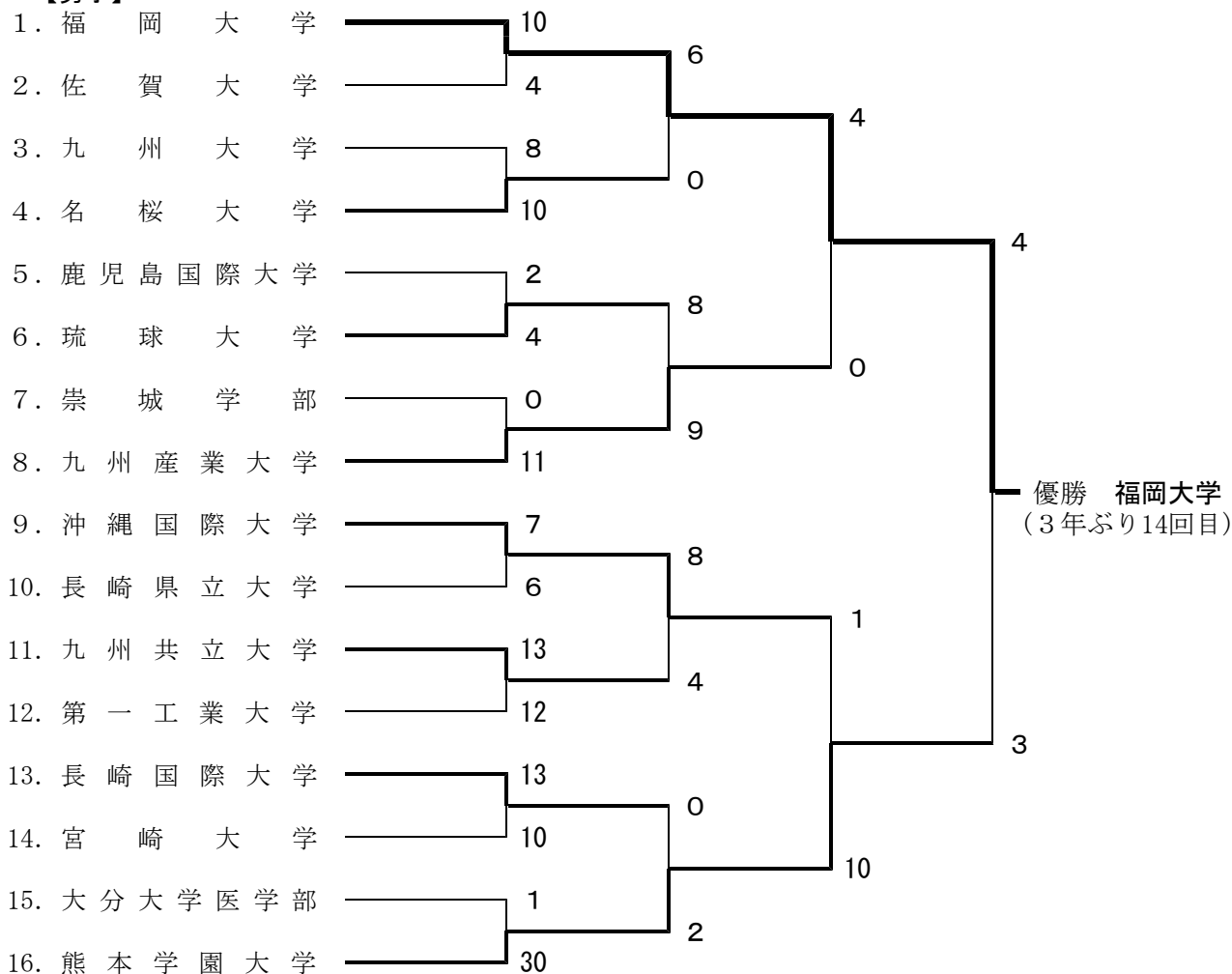
E-mail: hmorita@hyogo-u.ac.jp

【九州地区】第33回九州地区大学（男子・女子）ソフトボール春季大会
（兼、第49回全日本大学（男子・女子）ソフトボール選手権大会予選会）

会期：平成27年5月16日（土）・17日（日）

会場：鹿児島県南九州市知覧町／平和公園多目的球場 他

【男子】



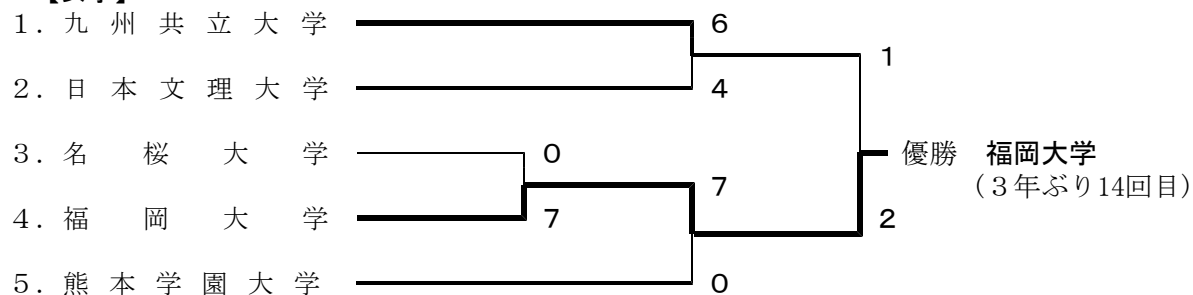
※第50回全日本大学（男子）選手権大会出場権獲得校：福岡大学（3年ぶり40回目）・

熊本学園大学（2年連続20回目）・九州産業大学（3年連続12回目）・沖縄国際大学（3年連続21回目）

※第47回西日本大学（男子）選手権大会出場権獲得校：福岡大学・熊本学園大学・九州産業大学・

沖縄国際大学・琉球大学・第一工業大学・九州共立大学・長崎国際大学

【女子】



※第50回全日本大学(女子)選手権大会出場権獲得校：福岡大学(2年連続18回目)

※第47回西日本大学(女子)選手権大会出場権獲得校：福岡大学・九州共立大学

第15回九州地区大学男子ソフトボール秋季大会

会期：平成27年11月 7 日(土)～ 8 日(日)

会場：熊本県阿蘇市／農村公園あぴか

【男子】

【対戦相手】

順位	対戦相手	勝	敗	引き分け	合計
1.	福岡大学	9	0	0	9
2.	九州大学	1	4	0	5
3.	崇城大学	9	2	0	11
4.	九州共立大学	14	0	0	14
5.	長崎国際大学	5	15	0	20
6.	第一工業大学	8	3	0	11
7.	大分大学	11	0	0	11
8.	沖縄国際大学	7	0	0	7
9.	九州産業大学	6	9	0	15
10.	宮崎大学	3	3	0	6
11.	佐賀大学	9	0	0	9
12.	名桜大学	8	0	0	8
13.	鹿児島国際大学	8	2	0	10
14.	福岡工業大学	0	2	0	2
15.	長崎県立大学	1	9	0	10
15.	熊本学園大学	14	0	0	14

優勝 福岡大学

【女子】

1. 九州共立大学 0

2. 日本文理大学 4

3. 名桜大学 5

4. 熊本学園大学 9

5. 福岡大学 5

優勝 九州共立大学

【調査研究部会】

投 稿 規 程

平成11年7月30日交付

1. 投稿資格

原稿を投稿できる者は、全日本大学ソフトボール連盟に登録された者（理事、監督、コーチ、選手等）に限る。調査・研究委員会が特に必要と認めた者については、この限りではない。

2. 投稿内容

内容はソフトボールに関したものとし、巻頭言、提言、総説、論文（含．抄録）、実践研究、事例報告、卒・修論、その他などとする。原稿は、原則として一編につき本誌4ページ以内（巻頭言、提言の場合は1ページ以内）とするが、調査・研究委員会が必要と認めた場合はこの限りで

はない。なお、未刊行のものが望ましいが、既刊のものであってもよい。

3. 投稿原稿の審査

原則として投稿されたものはすべて受理・採択する。

なお、書式等に問題がある場合は、調査・研究委員会名で修正を求める場合がある。

4. 原稿の提出

原稿は所定の執筆要項に準拠して作成し、総説、論文などの別を指定して、調査・研究委員会へ書留郵便で送付する。投稿の締め切りは特に設けないが、毎年11月30日で区切るものとする。

執 筆 要 項

原稿の執筆にあたっては、以下の事項を厳守されたい。

投稿原稿をそのままオフセット印刷するので、原稿を作成する場合は、A4版縦置き横書き、本文は全角22字×40行の2段組（上下余白20mm・左

右余白20mm・段間10mm）、文字サイズは10ポイント・和文フォントは明朝体を基本とする。ワープロソフトは、「Word」もしくは「一太郎」とし（「Excel」は認められない。）、CD-Rなどのメディアとともに提出すること。

【広報記録部会】

訃 報

本連盟理事、東日本大学連盟副会長、関東大学連盟会長などを歴任された岡田万嗣先生（元、山梨学院大学）は2015年6月に突然ご逝去されました。心からご冥福をお祈りいたします。 合掌

全日本大学ソフトボール連盟表彰

全日本大学ソフトボール連盟は、2015年8月28日の第50回文部科学大臣杯全日本大学ソフトボール選手権大会開会式において、本年度の優秀選手表彰を行いました。表彰者は以下の通りです。

☆第3回東アジアカップ（2014年6月）優勝選手17名（詳細は **ウインドミル** No.18 pp.26～43）

☆インカレ3連覇を成し遂げた早稲田大学(男子)

☆インカレ50回連続出場を達成した国士舘大学(男子)・日本体育大学(男子)・早稲田大学(男子)・

日本体育大学(女子)・東京女子体育大学

また、矢澤久史東海地区前常任理事(東海学院大学)・丸山克俊前関東地区理事(東京理科大学)・山本英弘前東海地区理事(朝日大学)に対し、永年にわたり連盟の役員として運営にご尽力を賜りましたので、2015年3月28日の総合役員会において「功労表彰」を贈呈しました。ここに記してお知らせいたします。※所属大学は在任時

第13回全国国公立大学〈男・女〉ソフトボールオープン大会出場チーム募集!!

第15回大学ソフトボール東海オープン男女出場チームの募集

上記2大会の出場申込は、学連HP <http://www001.upp.so-net.ne.jp/ajc-softball/> 上からのE-mailのみで受け付けています。「募集要項」・「大会要項」を熟読してから申込をお願いいたします。申込mailに対して数日以内にその受信連絡がない場合は、別のPCから再度送信してください。



ネットとSNS活用のお願い

全日本大学ソフトボール連盟公式HP

<http://www001.upp.so-net.ne.jp/ajc-softball/>



全日本大学ソフトボール
連盟インカレTwitter

全日本大学ソフトボール連盟公式Facebook



大会の開催をはじめとして学連の運営には多額の資金が必要です。すべてを登録費だけで賄うことはできません。現在でも企業や団体から各種のご支援をいただいておりますが、いっそうのご協力を仰がなければなりません。そのための強力なツールがHPやFacebook、Twitterです。HPへのアクセス数、Facebookの「いいね!」の数、Twitterのフォロワーの数が多ければ多いほどその訴求力は強くなります。学連公式Facebookの「いいね!」は1000をやっと超えたところです。一桁二桁足りません。是非、ご協力をお願いいたします。

また、各地区においても公式Facebookや公式Twitterの開設をお願いいたします。なお、東海地区は中京テレビがら協賛を得ることができ、中京テレビ公式チャンネルYouTubeにリーグ戦の試合がアップされています。東京都学連でもジェイネットTVが動画を流しています。これらの視聴回数はまだ少ないのでこれを上げることも重要です。ネットの活用とご協力をお願いします。

平成26・27年度 全日本大学ソフトボール連盟役員

職 名	氏 名	所 属	氏 名	所 属
会 長	一 谷 宣 宏	園田学園女子大学	—	
副 会 長	中 野 元	熊本学園大学	丸 山 悟	日本福祉大学
	小 嶋 高 良	八戸工業大学	—	
顧 問	坂 井 正 郎	国土舘大学名誉教授	角 田 真一郎	早稲田大学名誉教授
	水 野 信 義	WSM教育研究所	斎 藤 滋 雄	学習院大学名誉教授
	大 内 敬 哉	中京大学名誉教授	中 野 紀 明	国土舘大学名誉教授
	末 井 健 作	兵庫県立大学名誉教授	武 藤 政 幸	城西大学名誉教授
	吉 野 みねこ	東京女子体育大学名誉教授	—	
理 事 長	高 橋 伸 次	高崎経済大学	—	
副理事長	岩 間 英 明	松本大学	久保田 豊 司	大阪国際大学
常任理事	森 田 啓 之	兵庫教育大学（事務局長）hmorita@hyogo-u.ac.jp		
	大 塚 健 樹	盛岡大学	清 水 正	山梨学院大学
	筒 井 崇 護	日本体育大学	二 瓶 雄 樹	中京大学
	逢 坂 秀 樹	鳥取短期大学	宮 尾 直 海	愛媛女子短期大学
	濱 貴 一	熊本学園大学	—	
理 事	舟 山 健 一	東北福祉大学	高 橋 和 美	富士大学
	大 塚 隆	東海大学	長 澤 俊 恵	城西大学
	三 科 真 澄	東京国際大学	高 橋 光 平	城西国際大学
	森 田 一 雄	金沢学院大学	藤 原 徹	東京富士大学
	高 橋 流 星	日本体育大学	川 崎 千 明	岐阜経済大学
	大 矢 隆 二	常葉大学	水 谷 博	至学舘大学名誉教授

理 事	石 井 賀一郎	日本福祉大学	板 谷 昭 彦	園田学園女子大学
	平 野 義 明	関西大学	鈴 木 正 明	四天王寺大学
	吉 末 和 也	関西大学	山 本 孔 一	環太平洋大学
	富 田 国 興	(広島修道大学)	新 垣 實	沖縄国際大学
評 議 員	飯 島 隆	盛岡大学	柳 田 信 也	東京理科大学
	會 澤 宣 一	富山大学	佐 藤 理 恵	東京女子体育大学
	谷 口 佳津宏	南山大学	菅 野 貴 広	静岡大学
	東 美 幸	東海学園大学	和 田 正 志	中京学院大学
	大 島 新 司	大阪工業大学	但 尾 哲 哉	神戸親和女子大学
	児 玉 公 正	大阪大谷大学	河 内 満	広島修道大学
	伊 勢 幸 広	高知工科大学	山 中 卓	鹿児島国際大学
	嶋 田 奈々恵	日本文理大学	井 上 博 司	熊本学園大学
監 事	細 田 きみ子	東京女子体育大学	秋 澤 俊 史	摂南大学
事 務 局	〒370-0801 高崎市上並榎町1300 高崎経済大学 高橋伸次			
	F A X : (0 2 7) 3 4 3 - 4 8 4 0		E-mail : takahas@tcue.ac.jp	
学 生 委 員 長	木 村 晃 拓	南山大学	※学生委員は27年度のみ	
学 生 副 委 員 長	山 内 亜 美	日本体育大学	石 澤 翔	関西大学
学 生 委 員	宮 下 佳 也	東京理科大学	木 暮 美 緒	山梨学院大学
	西 館 洋 介	東京大学	城 所 貴 大	文教大学
	関 美 咲 子	中央大学	黒 田 裕 太	関西大学
	直 野 奈 々	園田学園女子大学	島 崎 蓮 弥	園田学園女子大学

平成27年度 男子加盟大学一覧			全日本大学ソフトボール連盟
地 区	数	加 盟 大 学 名	
北海道・東北	10	仙台大学 東北大学 日本大学工学部 八戸工業大学 弘前大学 福島大学 北翔大学 北海道大学 宮城教育大学 盛岡大学	
関 東	18	茨城大学 関東学園大学 国際武道大学 埼玉大学 芝浦工業大学 城西大学 高崎経済大学 千葉大学 筑波大学 中央学院大学 都留文科大学 東海大学 東京国際大学 東京理科大学 日本大学生物資源科学部 日本大学生産工学部 文教大学 山梨学院大学	
北 信 越	6	金沢大学 信州大学 富山大学 長野大学 福井大学 福井県立大学	
東 京	21	桜美林大学 学習院大学 慶應義塾大学 国際基督教大学 国士舘大学 専修大学 成蹊大学 中央大学 帝京大学 東京大学 東京学芸大学 東京農業大学 東洋大学 日本大学 日本体育大学 文教大学湘南 東京都市大学 明治大学 明星大学 立教大学 早稲田大学	
東 海	15	愛知大学 愛知学院大学 愛知教育大学 岐阜聖徳学園大学 静岡大学 中京大学 中京学院大学 中部大学 東海学園大学 常葉大学 名古屋大学 名古屋商科大学 南山大学 日本福祉大学 名城大学	
近 畿	29	大阪大学 大阪経済大学 大阪経済法科大学 大阪工業大学 大阪産業大学 大阪市立大学 大阪教育大学 大阪体育大学 大阪府立大学 関西大学 関西学院大学 京都大学 京都学園大学 京都産業大学 近畿大学 神戸大学 神戸学院大学甲南大学 四天王寺大学 摂南大学 同志社大学 奈良教育大学 兵庫教育大学 兵庫県立大学 佛教大学 立命館大学 龍谷大学 流通科学大学 和歌山大学	
中 国	10	岡山大学 岡山理科大学 環太平洋大学 近畿大学工学部 鳥取大学 広島大学 広島経済大学 広島工業大学 広島修道大学 広島国際学院大学	
四 国	7	愛媛大学 香川大学 高知大学 高知工科大学 四国大学 徳島大学 松山大学	
九 州	16	大分大学医学部 沖縄国際大学 鹿児島国際大学 九州大学 九州共立大学 九州産業大学 熊本学園大学 佐賀大学 崇城大学 第一工業大学 長崎県立大学 長崎国際大学 福岡大学 宮崎大学 名桜大学 琉球大学	

平成27年度 女子加盟大学一覧

全日本大学ソフトボール連盟

地 区	数	加 盟 大 学 名
北海道・東北	7	仙台大学 東北福祉大学 弘前大学 富士大学 北翔大学 宮城教育大学 宮城学院女子大学
関 東	18	茨城大学 関東学園大学 国際武道大学 埼玉大学 淑徳大学 順天堂大学 城西大学 城西国際大学 清和大学 千葉大学 筑波大学 東海大学 東京国際大学 日本大学生物資源科学部 新島学園短期大学 白鷗大学 文教大学 山梨学院大学
北 信 越	5	金沢大学 金沢学院大学 信州大学 富山大学 松本大学
東 京	18	桜美林大学 学習院大学 慶應義塾大学 国士舘大学 実践女子大学 専修大学 成蹊大学 中央大学 東京学芸大学 東京女子体育大学 東京富士大学 東洋大学 日本大学 日本女子体育大学 日本体育大学 文教大学湘南 明治大学 早稲田大学
東 海	12	愛知教育大学 至学館大学 岐阜経済大学 岐阜聖徳学園大学 静岡大学 鈴鹿大学 中京大学 中京学院大学 東海学園大学 常葉大学 名古屋大学 日本福祉大学
近 畿	23	大阪青山大学 大阪大谷大学 大阪教育大学 大阪国際大学 大阪産業大学 大阪体育大学 大阪府立大学 関西大学 京都女子大学 神戸親和女子大学 四天王寺大学 摂南大学 園田学園女子大学 太成学院大学 天理大学 同志 社大学 奈良学園大学奈良文化女子短期大学 兵庫教育大学 びわこ成蹊スポーツ大学 佛教大学 武庫川女子大学 立命館大学 龍谷大学
中 国	9	川崎医療福祉大学 環太平洋大学 中国学園大学 鳥取大学 鳥取短期大学 広島大学 広島修道大学 美作大学 安田女子大学
四 国	3	環太平洋大学短期大学 香川大学 四国大学
九 州	5	九州共立大学 熊本学園大学 日本文理大学 福岡大学 名桜大学
男 子	133大学	2,808名
女 子	100大学	2,234名
合 計	233大学	平成27年12月 1 日現在

編 集 後 記

本年は学連創立50周年になりました。この記念式典と祝賀会が2月13日に東京で開催されます。また、来年度のインカレは、その記念大会として地区出場枠を増やして男女各40チームの参加で行われる予定です。さらに、50周年記念事業として2017年3月にニュージーランド男子チームの招聘も企画されています。これらが実施できるのは、半世紀にわたる先輩各位のご尽力によるものであり、その詳細については2月下旬に発刊される「**ウインドミル**学連創立50周年記念号」をご参照ください。

本号では、「国際交流」を特集しました。オリンピックや世界選手権などだけが国際交流ではありません。草の根の国際交流にこそ世界中の人々との絆を深める何かがあると考えたからです。学連登録大学のうち、9大学の大学名に「国際」の文字があります。もう国際交流は当たり前のことですが、ソフトボールにおいてもそれをいっそう推進すべくその一助にでもなればと特集しました。藤田先輩の寄稿文は、ソフトボールマガジンに掲載されている又吉先輩とはまた異なる視点での国際協力であり、進路を考えるうえで大いに参考になる学生諸氏もいると思います。広報記録部会としてもこの機関誌ばかりでなく、HPやSNSも含めて努力して参りますので、ご支援をお願いいたします。

最後になりましたが、本誌に原稿や情報をお寄せいただいた方々に御礼と感謝を申し上げ、編集後記といたします。

広報記録部会：水谷 博（部長）・大塚健樹（盛岡大学）・柳田信也（東京理科大学）

表紙デザイン：川北卓史（画家、長野県安曇野市在住）

全日本大学ソフトボール連盟機関誌 **ウインドミル** 第19号

2016年1月15日発行

発 行 者 全日本大学ソフトボール連盟会長 一谷 宣宏

編集責任者 広報記録部長 水谷 博

E-mail mztn@xd6.so-net.ne.jp

発 行 所 全日本大学ソフトボール連盟

〒370-0801 高崎市上並榎町1300 高崎経済大学

FAX (027)343-4840

URL <http://www001.upp.so-net.ne.jp/ajc-softball/>

E-mail takahas@tcue.ac.jp（理事長高橋伸次）

印 刷 西濃印刷㈱

〒500-8074 岐阜市七軒町15番地

TEL (058)263-4101

ISSN 1343-439X



明日は、きっと、できる。

ヘッドだけじゃない。
**両端が効く
新構造。**

バット本体の肉厚設計を見直し、
バットの両端にウェイトを配分。
"振りやすさ"と"ヘッドの効き"を両立させた新構造。
デュアルウェイトテクノロジー。



エックス〈反発規制対応モデル〉[3号革・ゴムボール用] 本体価格¥39,000+税

●カーボン+グラス ●φ57mm ●中国製

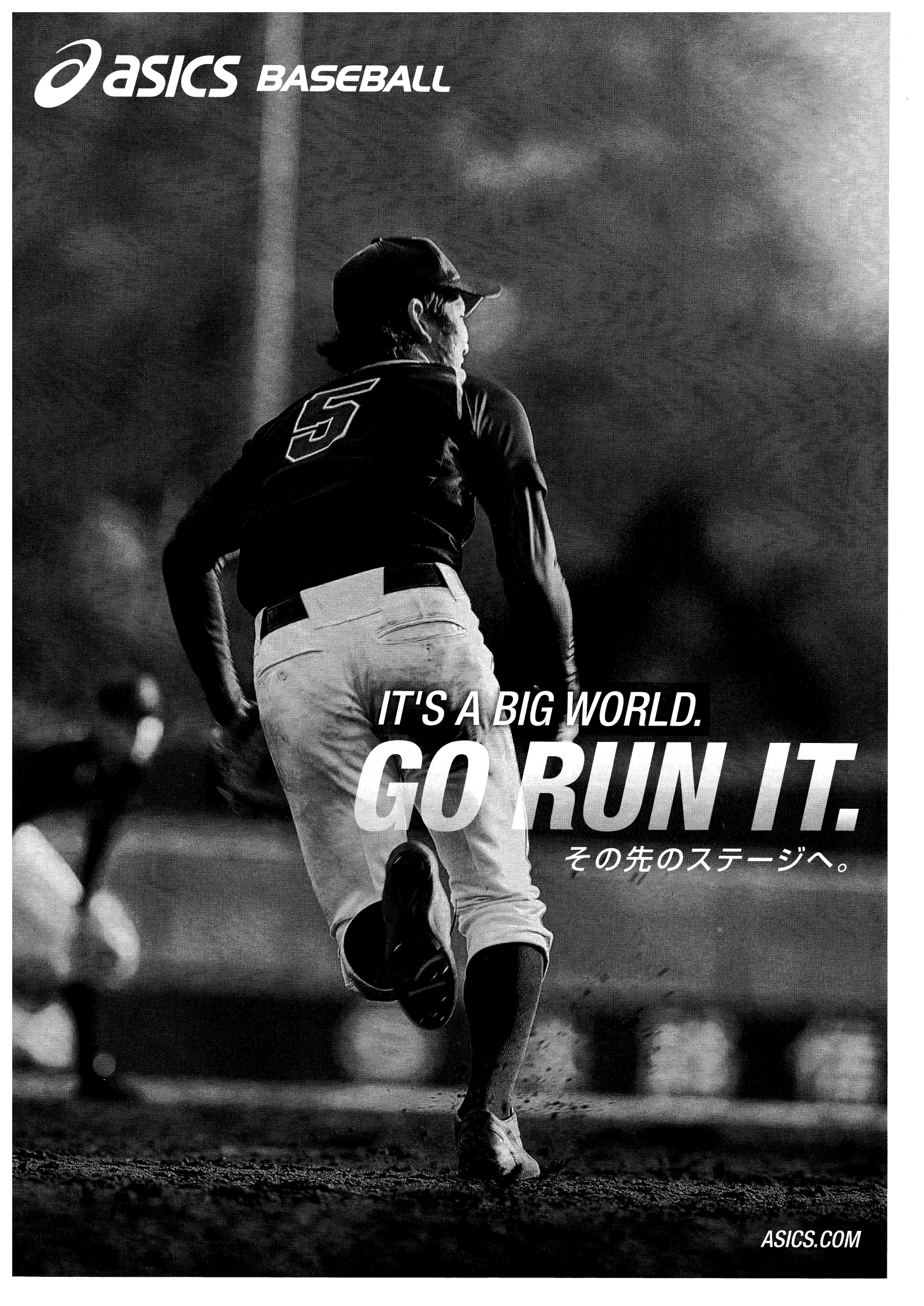


1CJFS10183 (83cm・平均680g) ●ミドルバランス ●ブラック×ライトグレー (0905)
1CJFS10184 (84cm・平均690g) ●ハーフトップバランス ●ブラック×ライトグレー (0905)
1CJFS10185 (85cm・平均700g) ●ハーフトップバランス ●ブラック×ライトグレー (0905)



1CJFS10284 (84cm・平均720g) ●ハーフトップバランス ●ブラック×レッド (0962)
1CJFS10285 (85cm・平均730g) ●ハーフトップバランス ●ブラック×レッド (0962)
1CJFS10286 (86cm・平均740g) ●トップバランス ●ブラック×レッド (0962)

記載価格は、消費税抜きのメーカー希望小売価格です。mizuno.jp ☎ 0120-320-799



asics BASEBALL

IT'S A BIG WORLD.
GO RUN IT.

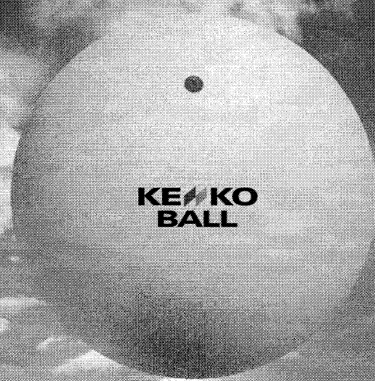
その先のステージへ。

ASICS.COM

感動！ サプライヤー ケンコーボール



(公財)全日本軟式野球連盟公認球
ケンコーボール



(公財)日本ソフトテニス連盟公認球
ケンコーソフトテニスボール



(公財)日本ソフトボール協会検定球
ケンコーソフトボール

一九三四年創業以来七〇年以上にわたり 一心にボールを作り続けてまいりました
これからもスポーツライフに相応しい自信作をお届けしていきます

「ボールのロゴマークカラーはイメージ
実際の商品とは異なります」

KENKO BALL

ケンコーボール

ナガセケンコー株式会社 www.nagase-kenko.com

[東京本社] TEL(03)3614-3501(代) [大阪営業所] TEL(06)6531-0783(代) [九州営業所] TEL(092)471-5381(代) [名古屋営業所] TEL(052)734-8886

想いを込める一球がある。



NAIGAI SOFTBALL

(財)日本ソフトボール協会検定球 検定1号・2号・3号・皮製3号・14インチ



NAIGAI BASEBALL

(財)全日本軟式野球連盟公認球 A号・B号・C号・D号・H号

内外ゴム株式会社

2013・2014全日本大学ソフトボール(インカレ)決勝DVD・FAX専用注文用紙

特別価格注文書 FAX番号042-507-1450 ※予備FAX042-571-5278

ご注文に当たっての注意事項

- ① 特別価格の適用は、本用紙でお申し込みされた方20名様限定です。(本用紙にご記入の上FAXで送信して下さい)
- ② お支払方法は、「代金引換」のみです。価格は送料込みですが代引き手数料一律320円がかかります。
- ③ 商品は受注生産のため、ご注文より3週間ほどで発送致します。配達日の指定はできませんのでご了承くださいませ。
- ④ FAXが繋がりにくい場合は、予備FAX番号 042-571-5278 をご利用下さい。
- ⑤ クレジットカード決済をご希望の方は、ジェイネットTV公式サイトからお申込み下さい。(※定価での販売となります)

2013・2014インカレ男女決勝戦DVD限定特別価格ご注文内容

商品名	通常価格(税込)	特別価格(税込)	ご注文数	合計金額
① 2014男子決勝 環太平洋大学vs早稲田大学(104分)	—5,000円—	4,500円		円
② 2014女子決勝 日本体育大学vs東京国際大学(124分)	—5,000円—	4,500円		円
③ 2013男子決勝 早稲田大学vs同志社大学	—5,000円—	4,500円		円
④ 2013女子決勝 園田学園女子大学vs中京大学	—5,000円—	4,500円		円
代引き手数料(一律)				320 円

……太枠内を記入後、本用紙をそのままFAXして下さい

合計金額 円

メールアドレス(※必須)	@
お名前(※必須)	
ご住所(※必須)	〒
電話番号(必須)	

※ご注文者とお届け先が異なる場合、以下にご記入ください。

フリガナ	
お届け先お名前	
お届け先ご住所	〒
お届け先電話番号	

時間指定	指定なし	午前中	12時～14時	14時～16時	16時～18時	18時～20時	20時～21時
------	------	-----	---------	---------	---------	---------	---------

DVD販売に関するお問い合わせ

ジェイネットTVオンラインショップ(株式会社ジェイネットTV内)
〒186-0003 東京都国立市富士見台2-8-7-402
電話042-573-7842 FAX042-507-1450(※予備FAX 042-571-5278)
販売責任者: 藤田孝一

ジェイネットTVはこちら



備考欄 ※ご質問・ご要望がありましたらご記入ください。



ウインドミル NO.19 (2 0 1 5)

ISSN 1343-439 X